

平成 22 年

2010 年

# 三重県立総合医療センター一年報



## 目 次

### 基本理念・基本方針

#### 1. 病院の概要

(1) 沿 革 .....	1
(2) 施設整備の状況 .....	5
(3) 学会認定状況 .....	9
(4) 組 織 図 .....	10
(5) 職種別定数及び現在員数 .....	11

#### 2. 各セクションの状況

(1) 平成 21 年診療実績 .....	12
(2) 中央放射線部 .....	40
(3) 中央検査部 .....	41
(4) 薬 剤 部 .....	42
(5) 看 護 部 .....	43
(6) 栄養グループ .....	46
(7) 地域連携室 .....	48
(8) 医療安全管理部 .....	53
(9) 学会・研究会発表及び論文発表実績 .....	70

#### 3. 統計データ

(1) 患者統計 .....	87
(2) 図書蔵書状況 .....	89
(3) 病歴管理室統計 .....	93

# 県立総合医療センターの基本理念・基本方針

## 基本理念

救命救急、高度、特殊医療等を提供することにより、県の医療水準の向上に貢献します。  
安全・安心で互いにささえあう社会の実現に向けて医療面から貢献します。

## 基本方針

- 1 患者の皆様の権利を尊重し、信頼と満足の得られるチーム医療を提供します。
- 2 県の基幹病院として医療水準の向上に努め、安全で質の高い医療を提供します。
- 3 県内医療機関との連携を強化し、地域医療の充実に努めます。
- 4 職場環境を改善し、職員のモチベーションの向上に努めます。
- 5 公共性と経済性に配慮した健全な経営を行います。

## 受診される皆様の権利

- 1 人として尊重され最善の医療を受ける権利があります。
- 2 医療行為についての情報提供と説明を受ける権利があります。
- 3 患者の皆様の理解と同意に基づいた医療を受ける権利があります。
- 4 診療情報の保護により、プライバシーを尊重される権利があります。

## 守っていただく事項

- 1 心身の健康状態などの必要事項については、正確で詳細な情報をお伝えください。
- 2 医療行為は、理解と合意のうえで受けてください。
- 3 お互いに、礼儀正しく社会的ルールをお守りください。
- 4 医療費の支払い請求を受けたときは、速やかにお支払いください。

# 1. 病院の概要

## (1) 沿革

- 昭和23年 8月 三重県医師会より旧海軍燃料廠附属病院を継承し三重県立医学専門学校・三重県立医科大学附属塩浜病院として発足  
初代院長 渡辺 篤 病床数 113 床
- 24年 6月 二代院長 高安 正夫
- 25年 4月 塩浜病院乙種看護婦養成所を設立  
12月 病床数 134 床 (普通病床 99 床・結核病床 35 床) 許可  
生活保護法に基づく保険医療機関指定
- 27年 借用中の国有財産(土地 7,270 坪・建物 18 棟、1,809 坪)を譲り受ける
- 28年 2月 第6病棟(木造平屋建)竣工  
4月 県立大学医学部附属塩浜病院准看護婦学校に推移  
5月 「総合病院」の名称使用承認。
- 30年 7月 鉱工業の医学に及ぼす影響及び産業従事者の特殊疾患の研究を目的として病院敷地内に産業医学研究所設立
- 31年 7月 第1病棟(鉄筋コンクリート2階建)竣工
- 32年 3月 第3病棟(鉄筋コンクリート2階建)竣工  
8月 病床数 307 床 (一般 220 床・結核 87 床) 許可  
健康保険法に基づく保健医療機関指定
- 33年 10月 基準看護(一般・結核)、基準給食承認  
11月 病床数 307 床 (一般 208 床・結核 87 床・伝染病 12 床) 許可
- 34年 1月 東5病棟(鉄筋コンクリート4階建)竣工  
国民保険法に基づく保険医療機関指定  
9月 病床数 465 床 (一般 354 床・結核 99 床・伝染病 12 床) 許可  
11月 中央治療棟(鉄筋コンクリート3階建)竣工
- 35年 1月 県立大学行政機構改革に伴い三重県立大学医学部附属塩浜病院、県立大学医学部附属准看護婦学校へ改称
- 36年 10月 手術室、ボイラー室及び変電室竣工
- 37年 5月 病床数 465 床 (一般 354 床・結核 91 床・精神病 8 床・伝染病 12 床) 許可  
8月 病床数 465 床 (一般 354 床・結核 99 床・伝染病 12 床) 許可
- 38年 3月 外来診療B棟(鉄筋コンクリート2階建)竣工
- 39年 3月 外来診療A棟(鉄筋コンクリート2階建)竣工  
7月 基準寝具承認  
12月 看護婦宿舎(鉄筋コンクリート4階建)竣工
- 40年 4月 三代院長 藤野 敏行  
第5病棟2階に公害患者のための空気清浄室設置

- 41年 2月 病床数 465 床（一般 354 床・結核 52 床・精神病 47 床・伝染病 12 床）許可  
5月 「救急病院等を定める省令」に基づき救急病院の告示
- 44年 4月 四代院長 宮地 一馬
- 48年 3月 院内保育所（木造平屋建）竣工
- 49年 4月 五代院長 高崎 浩  
県立大学の国立移管により三重県立大学医学部附属塩浜病院を廃止し、三重県立中央病院として発足  
県立大学の国立移管により県立大学医学部附属准看護婦学校を廃止。塩浜高等看護学院を設立
- 9月 病院名称を三重県立中央病院から三重県立総合塩浜病院に改名
- 50年 6月 六代院長 森 幸夫
- 51年 4月 解剖霊安棟（木造）を鉄筋 2 階建に改築  
5月 給水、ボイラー、焼却及び電気設備を改修
- 52年 4月 第 5 病棟西棟（木造 2 階建）を鉄筋コンクリート 4 階建に改築
- 53年 4月 第 1 病棟 1 階を検査室と薬品倉庫に改修
- 54年 3月 防災設備（スプリンクラー等）を改修
- 54年 9月 病院群輪番制病院に
- 55年 8月 外来棟冷房設置及び駐車場を整備
- 57年 8月 基準寝具承認
- 58年 1月 医事業務の電算化  
3月 第 3 病棟の病床を第 5 病棟に移設（7 看護単位とする）  
塩浜高等看護学院廃止  
6月 X線コンピューター断層診断装置を設置
- 59年 3月 第 6・7 病棟、第三宿舎、倉庫 2 棟の木造建築を解体撤去  
8月 結核病床 52 床、精神病床 47 床、伝染病 12 床を廃止、一般病床 354 床許可
- 60年 3月 食器洗浄棟を設置
- 61年 12月 県立総合病院整備基本計画策定
- 62年 3月 注射用与薬車を全病棟へ導入  
錠剤自動分包機導入
- 平成 2年 3月 高周波加速電界発生機器収納施設（ライナック治療棟）設置  
3年 3月 県立総合医療センター建設用地取得  
4月 七代院長 杉山 陽一  
4年 1月 県立総合医療センター建設工事着工  
3月 県立総合医療センター（一般 350 床、救命救急センター 30 床）開設許可  
7月 県立総合医療センターヘリポート設置許可承認
- 5年 4月 夜間看護等加算の承認  
6月 県立総合医療センター医師公舎、看護婦宿舎、院内保育所建設工事着工
- 6年 3月 県立総合医療センター医師公舎建設工事完成  
4月 医事課を医事経営課に改める

- 6月 総合医療センター建設工事完成
- 9月 県立総合塩浜病院閉院
- 10月 県立総合医療センター開院
  - 救急病院の指定
  - 身体障害者福祉法による更生医療指定病院の承認
  - 結核予防法指定病院の承認・生活保護指定病院の承認
  - 母子保健法による養育医療指定病院の承認
  - 臨床研修指定病院の承認
  - 保険医療機関の指定承認
  - 労災保険指定病院の変更承認・労災保険義肢採型指導医の指定変更承認
  - 労災アフターケア実施医療機関指定変更承認
- 7年 4月 NICU施設承認
- 8年 2月 エイズ拠点病院の選定
  - 4月 八代院長 宗行 万之助
- 9年 1月 災害拠点病院の指定
- 11年 4月 九代院長 鈴木 宏志
  - 適時適温給食導入
- 12年 1月 西棟・手術棟完成
- 13年 3月 6階東病棟改修完了
  - 4月 第二種感染症病床指定医療機関の指定
    - 病床数（一般412床、救命救急センター30床、感染症病床4床）許可
  - 7月 セミオープンベットの開設
- 14年 8月 地域がん診療拠点病院の指定
  - 10月 十代院長 小西 得司
- 15年 3月 地域周産期母子医療センターの選定
  - 8月 新オーダーリングシステム導入
  - 9月 救命救急センター HCU、ICU、CCU に分離
    - ICU、CCU 7床→6床
- 16年 2月 (財)日本医療機能評価機構による病院機能評価認定
  - 3月 パーキングシステム設置
  - 4月 患者相談窓口を設置
  - 6月 化学療法室を開設
- 17年 11月 太陽光発電システム設置
- 18年 1月 緩和外来開設
  - 8月 電子カルテ稼動
- 20年 3月 放射線治療システム(ライナック)の更新
- 20年 4月 十一代院長 高瀬 幸次郎
  - クレジットカード決裁開始
  - 災害用地下水供給システム稼動

- 7月 セカンドオピニオン外来開設
- 10月 化学療法室の移転・増床（7床→10床）
- 11月 自治会との災害給水協定締結  
血管造影撮影装置(心臓・頭腹部アンギオ)の更新
- 21年 4月 DPC(医療費定額支払制度)開始
- 4月 (財)日本医療機能評価機構による病院機能評価更新認定
- 8月 がんサポート室開設
- 22年 3月 がん診療連携拠点病院指定更新
- 6月 地域連携室「かけはし」移転開設
- 9月 320列マルチスライスCT装置導入



## (2) 施設設備の概要

所在地 四日市市大字日永 5450 番の 132

### ●病床数

一般……………	412 床
感染症病床……………	4 床
救命救急センター……………	30 床
計	446 床

### ●診療科目

内科	脳神経外科	眼科	循環器科
小児科	耳鼻いんこう科	呼吸器科	産婦人科
精神科	消化器科	整形外科	神経内科
外科	リハビリ科	放射線科	心臓血管外科
皮膚科	麻酔科	呼吸器外科	泌尿器科

### ●本館敷地・建物概要

敷地面積……59,450.90 m<sup>2</sup>

建物規模……地下1階、地上7階、塔屋2階

建物構造……高層部SRC造、低層部RC造

建築面積……9,549.15 m<sup>2</sup>

延床面積……29,176.89 m<sup>2</sup>

駐車台数……約700台

### ●附属施設

医師公舎 R C 2階建、延床面積： 517.86 m<sup>2</sup> (12戸)

看護師宿舎 R C 3階建、延床面積：1,758.99 m<sup>2</sup> (68室)

院内保育所 R C 平屋建、延床面積： 233.40 m<sup>2</sup>

### ●厚生施設

食堂(7階)、売店、喫茶、自販機コーナー、授乳室(1階)

### ●付帯設備

電子カルテシステム

医療情報システム(オーダリングシステム)

院外処方FAXステーション

災害備蓄倉庫

●電気設備

受変電設備受	電電圧 6.6 k V 変圧器容量 3,800 k V A
非常用発電機設備	ガスタービンエンジン 3 相 3 線 6.6 k V 1,000 k V A × 1 台 ディーゼルエンジン 3 相 3 線 220 V 200 k V A × 1 台 ディーゼルエンジン 3 相 3 線 220/100 V 150 k V A × 1 台
非常用発電機燃料設備	地下タンク 40,000 L (A重油)
無停電電源設備	医療用定格出力 75 k V A リニア搬送設備用定格出力 30 k V A × 1 台 15 k V A × 1 台
電気時計設備	親時計 1 台、子時計 268 台
電話交換設備	電子交換機中継台方式 一般電話機、多機能電話機、コードレス電話機、PHS
放送設備	非常・業務兼用定格出力 1,320 W 系統 50
ナースコール	ベッド単位方式同時通話 PHS 対応
自動火災報知設備	GR 型複合型受信機 (2 系統、832 回線)
その他	照明制御装置、避雷設備、中央集塵設備、投薬表示設備、電気錠、 防犯カメラ設備、太陽光発電装置

●空気調和設備

主熱源	空気熱源スクルーヒートポンプ冷凍機 2 台、ガス焚冷温水発生機 1 台 合計約 610 冷凍トン
主空調方式	空気調和機、ファンコイルユニット、パッケージエアコン
空調制御設備	中央監視設備による自動制御 (病室用パッケージエアコンを除く)
換気設備	給気設備、排気設備

●給排水衛生設備

給水設備	上水受水槽 216,000 L × 1 台 井水受水槽 102,000 L × 1 台 上水高架水槽 60,000 L × 1 台 井水高架水槽 40,000 L × 1 台
排水設備	厨房・洗濯排水系、人工透析・解剖室排水系、生活排水系、検査系の 4 系 統処理能力 712 m <sup>3</sup> /日 R I 排水処理設備処理能力 0.2 m <sup>3</sup> /日
ボイラー設備	炉筒煙管式ボイラー 2 基最高使用圧力 10 kg/cm <sup>2</sup> 最大蒸発量 2.4 t/h
医療ガス設備	液体酸素、気体酸素、笑気、窒素、圧縮空気
エレベータ設備	一般用 2 台業務用 3 台配膳用 1 台ヘリポート搬送用 1 台検体搬送用 1 台

●リニア搬送設備

21 ステーションキャリア・コンテナ各 40 台  
走行レール全長 1,031 メートル

- ヘリポート設備 陸上ヘリポート（屋上）耐重量6.4t  
着陸帯22メートル（長さ）×18メートル（幅）

●高額備品一覧

資産名称	メーカー	構造規格	数量
患者監視装置(医療用テレメタ)	フクダ電子	DS-7640	1
患者監視装置	日本光電	CNS-9303	1
心臓超音波診断装置 (NICU)	フィリップス	SONOS5500	1
フィールドアナライザー	カールツァイス	H F A II 750	1
眼科レーザー光凝固装置	トーマー	MD S 1000	1
超音波白内障手術装置	アルコン	レガシー2000	1
救急X線撮影装置	シーメンス	ベルチックス 3D-3	1
患者監視装置システム	日本光電		1
心臓超音波診断装置(救命センター)	フィリップス	SONOS5500	1
鼻マスク式人工呼吸器	ゾー・レスピロックス	BiPAPVision	1
外科用超音波診断装置	G E 横河	LOGIQ200MDpro	2
ガンマ線検出システム	センチュリーメディカル	NEO2000	1
頭腹部アンギオ装置	東芝	スーパーG	1
脳機能検査装置	日本光電	EEG4524/BF	1
免疫測定装置	バイエルメディカル	ケルミ ADVIA Centaur	1
長時間心電図記録解析装置	フクダ電子	SCM-6000	1
脳波計	日本光電工業	EEG-1714	1
一般検査システム	シスメックス	UF-100 他	1
全自動輸血検査装置	オリンパス	ID-GelStation 他	1
全自動細菌検査装置	日本ビオメリュー	バイテック2システム	1
生化学自動分析装置	日本電子	JCA-BM1250	2
総合肺機能検査システム	チェスト	CHESTPkc-8800 BDN 型	1
総合血液検査システム	シスメックス	XE-AlphaN	1
血液ガスシステム	バイエルメディカル	ピットポイント 405	1
産婦人科用超音波診断装置	持田製薬	MEU-1585	2
分娩監視装置	フィリップス	OBト्रेसビュー、M1351A 他	1
超音波診断装置	G E 横河	LOGIQ400MD	1
患者監視装置(モニタリングシステム)	日本光電	M 1 166 A	1
移動型外科用X線装置	フィリップス	BV Libra	1
筋電計	ニコレー	バイキングIV	1
内視鏡下血管採取システム	バイタル	バソビュエントスコープ	1
X線テレビ装置	東芝	DBA-300A	1

膝関節鏡視下手術セット	ストラッカー、ジッマー他		1
-------------	--------------	--	---

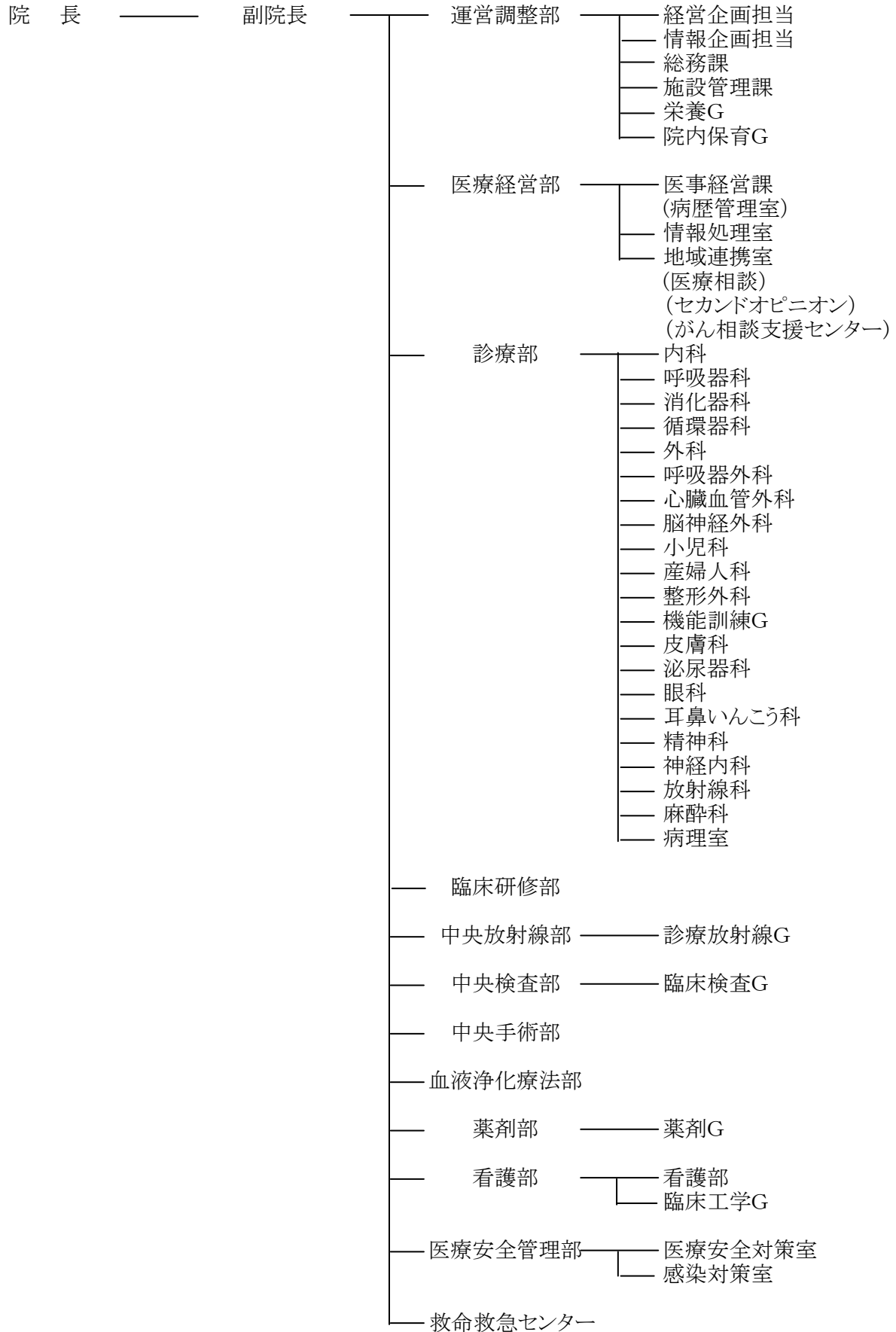
資産名称	メーカー	構造規格	数量
診断用X線撮影装置	東芝	KOX-50F	2
多軌道断層撮影装置	島津	HLZ-110	1
心アングリオ装置	シーメンス	クロスコープ HS	1
CT装置	東芝	X Vision	1
ライナックシステム	三菱	EXL-15SP	1
ガンマーカメラ	東芝	GCA-7200	1
内照射装置(マイクロレプトン)	千代田テクノル	HDR 1 9 2 1 r	1
誘発電位・筋電図検査装置	日本光電	MEB-2208	1
X線テレビ撮影装置	東芝	DBA-300A	1
超音波診断装置(心エコー室)	フィリップス	SONOS5500	1
乳房X線撮影装置	インスツルメンタルイメーシング	アルファR T型	1
腹部超音波診断装置	シーメンス旭メデック	ソノラインアンタレス	1
X線コンピュータ断層撮影装置	東芝メディカル	AquilionMULTI(16列)	1
磁気共鳴診断装置	シーメンス旭メデック	MAGNETOM Symphony	1
腹部超音波診断装置(中央放射線部)	東芝メディカルシステムズ	nemio-10	1
X線テレビ装置	東芝	Winscope5000	1
腹部超音波診断装置	東芝メディカルシステムズ	AplioSSA-770A 他	1
一般撮影システム	フジフイルム	F C R	1
内視鏡ビデオシステム	オリンパス	OTY-SX2C 他	1
電子内視鏡システム	オリンパス	EVIS LUCERA CV-260	2
超音波内視鏡システム	オリンパス	EU-M2000	1
脳神経外科用手術顕微鏡	カールツァイス	OMUNI Pentero	1
泌尿器科用超音波診断装置	アロカ	ProSound SSD-4000	1

### (3) 学会認定状況

- ・日本内科学会認定医制度教育病院
- ・日本小児科学会小児科専門医研修施設
- ・日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本外科学会認定制度修練施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本産科婦人科学会専門医制度委員会卒後研修指導施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本脳神経外科学会専門医訓練施設（A項施設）
- ・日本医学放射線学会専門医修練協力機関
- ・日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設
- ・日本呼吸器外科学会専門医認定制度指定関連施設
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本神経学会准教育施設
- ・日本脳卒中学会認定研修教育病院
- ・日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設（認定施設）
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本大腸肛門病学会専門医修練施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期新生児専門医暫定研修施設
- ・日本透析医学会専門医制度教育関連施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定研修関連施設
- ・三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- ・呼吸器外科専門医合同委員会・関連施設
- ・日本乳癌学会認定医・専門医関連施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・日本アレルギー学会認定準教育施設

(4)三重県立総合医療センター組織図

平成22年4月1日現在



業務委託 医事業務、夜間休日警備、電話交換業務、施設管理中央監視、検体検査業務、医療用具等の滅菌消毒業務、患者給食業務、患者搬送業務、医療機器の保守点検業務、寝具等の洗濯業務、施設の清掃業務、医療ガス供給設備の保守点検業務、感染性廃棄物の処理業務

## (5) 職種別定数及び現在員数

平成22年4月1日

職種		区分			
		定員	現在員	過不足	嘱託・業務補助
一般職	一般事務職	22	21	-1	14
	電気技師	1	1	0	0
	情報技師	1	1	0	0
	保育士	4	3	-1	8
	医師	96	87	-9	0
	薬剤師	15	15	0	0
	管理栄養士	3	3	0	2
	臨床検査技師	21	21	0	3
	診療放射線技師	18	18	0	2
	理学療法士	5	4	-1	0
	作業療法士	2	1	-1	0
	言語聴覚士	1	1	0	0
	臨床工学技士	3	3	0	0
	看護師・助産師	311	312	1	54
	准看護師	0	0	0	5
	医療福祉技師	3	2	-1	0
	診療情報管理士	2	2	0	0
	司書	0	0	0	1
	保健師	0	1	1	0
	保育専門指導員	0	0	0	2
小計	508	496	-12	91	
現業職	病院施設管理員	4	4	0	0
	看護助手	4	4	0	10
	看護補助			0	21
	労務員			0	1
	小計	8	8	0	32
合計		516	504	-12	123

## 2. 各セクションの状況

### (1) 平成22年診療実績

#### 循環器科

当科は心臓血管疾患および高血圧等循環器疾患を広く担当しております。

心臓血管疾患では、虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、ペースメーカー植込み、先天性心疾患、肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症、大動脈疾患などを扱い、さらに救急診療としましては、心不全、急性心筋梗塞、不安定狭心症、不整脈、大動脈解離、肺血栓塞栓症などの循環器救急に迅速に対応すべく待機医を配しております。また心臓血管外科医と密な連携をとり対処しております。

虚血性心疾患の方には、非侵襲的な核医学検査とともに必要と思われる患者さんには積極的に心臓カテーテル検査を行っております。左心カテーテルの穿刺部位は肘の動脈(上腕動脈)、手首の動脈(橈骨動脈)、太ももの動脈(大腿動脈)を使用しておりますが、なるべく患者さんの負担にならないよう肘か手首の血管を選択するようにしております。冠動脈疾患の場合、患者さんの背景、重症度、年齢、糖尿病の有無などに応じて、内科的保存療法(投薬観察)か、バルーン、ステントなどによる冠動脈形成術か、冠動脈バイパス術かを厳密に選択しております。冠動脈インターベンション(冠動脈形成術)では、穿刺部位は手首の血管をほとんどの例で使用していますので、侵襲が少なく術後安楽にお過ごしいただけます。また再狭窄の少ない薬剤溶出性ステントを必要と判断される患者さんには積極的に使用するようにし、再狭窄の減少とともに確実な治療成果を目指しています。

高齢化に伴い種々の心疾患を基礎とする心不全患者さんが激増しており、必要性および重症度に応じて入院投薬治療、補助循環装置の利用等手段を駆使して病態に則した治療を行い、また再入院を減らすよう努めております。

不整脈疾患に対しては、確実な診断と、投薬やペースメーカーによる治療にあたっています。より高度な不整脈治療を希望される場合は、大学病院の専門医に紹介させていただく場合もあります。

肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症に対しては、下肢静脈エコー、静脈造影、心エコー、マルチスライスCT、肺血流シンチ、肺動脈造影などを使用して、正確な診断と適正な治療(抗凝固療法、血栓溶解療法、回収可能型下大静脈フィルター留置術など)を行っております。

大動脈疾患に関しては、当院の血管外科との綿密な連携により、迅速かつ最も安全で確実な治療を提供しています。

以上、循環器疾患は緊急性が高いため、当科は24時間、365日体制で複数の医師が当直または待機にて診療させていただいております。当院にかかりつけの患者さんのみならず、近隣遠隔を問わず、他医、他院よりの紹介患者さんにおいても病診連携の意味から、幅広く対応させていただいております。



◆入院疾患の概要

疾患名	事例数
狭心症	307
心不全	334
急性心筋梗塞	85
慢性虚血性疾患	65
肥大型心筋症	4
拡張型心筋症	3

◆主疾患を含む治療性成績

冠動脈造影総数 422 例

経皮的冠動脈形成術数 172 例

初期成功率 96% (166/172 例)

ステント挿入 163 例 (内 薬剤溶出ステント 153 例 )

POBA (拡張のみ) 9 例

ペースメーカー植え込み術 33 例(新規 28 例 交換 5 例)

◆主疾患プロトコール

冠動脈造影検査 経皮的冠動脈形成術 急性心筋梗塞

急性大動脈解離 ペースメーカー植込み・電池交換

## 呼吸器科

主な疾患について記します。

### <肺癌>

がん拠点病院の指定を受け、肺癌に対する集学的治療を最大のテーマとしています。患者さんの人間性を尊重し、病名はもちろん、病状、治療法、予後についても患者さんご本人及びご家族に説明し、理解していただいたうえで、一緒に癌と向き合う姿勢をとっています。たとえ進行癌や高齢者であっても、本人の治療希望があり、化学療法に耐えうるとこちらが判断した場合には、延命を目指して積極的に化学療法を行っています。また生活の質を重視し、外来化学療法を推進することで、入院日数の短縮や在宅期間の延長に努めています。局所麻酔下胸腔鏡や超音波気管支鏡導入により診断率もさらに向上してきています。

### <気管支喘息>

急性期病院として大発作による呼吸不全に対しては、人工呼吸管理を含む集中治療を行っています。慢性安定期には吸入ステロイドを主体とした治療とピークフローメーターや喘息日記を用いた自己管理指導を行っています。

### <慢性閉塞性肺疾患 COPD>

かつて肺気腫と呼ばれていた「タバコ病」です。長時間作動型吸入抗コリン薬などによる治療や呼吸リハビリテーションにより労作時息切れなどの改善を目指します。重症例には在宅酸素療法や在宅人工呼吸管理を行っています。また、本疾患は肺炎併発リスクが高く、インフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンによる感染予防を推奨しています。急性増悪による呼吸不全にはマスク型人工呼吸器を用い救命を目指しています。

### <肺炎>

抗生物質の進歩した現在においても肺炎は日本人の死因の第4位であり、高齢者や進行した慢性疾患を有する患者さんにおいてはしばしば致死的となります。当科では学会ガイドラインに基づいた正確な肺炎重症度評価を行ったうえで治療を行っています。その一方、非高齢者や基礎疾患のない患者さんに対しては、不要な入院は避けて経口抗菌薬による通院での治療を推奨しています。

### <その他、留意していただきたいこと>

1. 気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患などの慢性疾患については、その増悪時には管理・治療を行います。急性期を過ぎれば地域の開業医さんを紹介させていただいておりますので、ご理解をお願いいたします。
2. 当院には結核病棟がありませんので、排菌性結核の方は他病院を紹介させていただくこととなります。
3. 睡眠時無呼吸症候群に関しては、検査機器の関係でスクリーニング検査しか行っていません。
4. 禁煙外来は開設していません。
5. 訪問診療はおこなっていません。

#### ◆平成 22 年入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
肺癌	259 例	
肺炎	305 例	49 例は COPD
慢性閉塞性肺疾患 COPD	72 例	
自然気胸	41 例	
間質性肺炎	23 例	
気管支喘息	25 例	

#### ◆主疾患（悪性疾患）を含む治療成績（5 年生存率など）

肺癌は治療成績がよくない癌の一つです。長年の喫煙で肺機能が損なわれている高齢者に多いことや、進行例での発見が多いことなどが、その理由です。

手術可能例は呼吸器外科にて手術を行っていますが、手術不能進行例や術後再発例は当科にて化学療法や放射線照射を行っており、平均を上まわる治療成績を出しています。

#### ◆主疾患治療プロトコール（クリパスを含む。）

クリニカルパス

- 1) 呼吸リハビリテーション：対象は慢性閉塞性肺疾患。12 日間。
- 2) 睡眠時呼吸検査：1泊2日。スクリーニングのみ。

#### ◆その他

当科は日本呼吸器学会および日本呼吸器内視鏡学会の認定施設です。

また、日本アレルギー学会の準認定施設でもあります。

## 消化器科

### ◆診療方針

消化器科は消化器疾患全般について診療しております。

胃十二指腸潰瘍に対して、内視鏡的止血術、ピロリ菌感染の診断と除菌治療。また、消化管悪性腫瘍に対して、内視鏡検査を中心に、早期診断・内視鏡的治療・外科手術が必要な場合は外科との連携による的確な紹介を行っています。

また、B型あるいはC型肝炎ウイルスによる慢性肝炎、肝硬変に対するインターフェロンによるウイルス排除、肝癌に対する動脈塞栓術・リザーバ動注療法を行っています。またラジオ波焼灼療法や肝移植が適応となる患者様については三重大学病院等と密に連絡をとり適切に御紹介させていただいています。

今後は、消化器癌の症例増加を踏まえて、これまでの治療方針に加えて、さらに、大腸内視鏡検査数の増加・超音波内視鏡検査による癌診断の充実・進行癌に対する抗癌剤治療さらに、末期癌症例に対する緩和医療などにも取り組んでいきたいと考えています。

### ◆平成22年診療実績

肝癌	139
食道癌	10
胃癌	29
大腸癌	30
胆道癌	20
膵癌	25
大腸ポリープ	97
胆石症	99
胃・十二指腸潰瘍	59
腸閉塞	62
胃腸炎	74
消化管出血	46
食道静脈瘤	13
肝炎	30
肝硬変・肝不全	44
膵炎	30

### ◆主疾患治療プロトコール

胃・大腸ポリペクトミークリパス

ウイルス肝炎に対するインターフェロン治療クリパス

肝癌に対する動脈塞栓術、エタノール局注、ラジオ波焼灼療法のクリパス

食道静脈瘤内視鏡的治療クリパス

などがあります。

◆その他

平成 22 年年間消化器検査及び処置施行数（下記は当院全体の施行数です）

上部消化管内視鏡	2338 例
超音波内視鏡(上部消化管)	62 例
上部消化管内視鏡的ポリープ切除術	3 例
上部消化管粘膜下層剥離術（ESD）	17 例
食道静脈瘤硬化療法/結紮術	19 例/8 例
上部消化管内視鏡的止血術	153 例
上部消化管内視鏡的治療（その他）	40 例
下部消化管内視鏡	1160 例
超音波内視鏡(下部消化管)	8 例
下部消化管内視鏡的ポリープ切除術	193 例
下部消化管内視鏡的治療（その他）	58 例
内視鏡的胃瘻造設術	74 例
内視鏡的逆行性胆管膵管造影	141 例
内視鏡的胆道ドレナージ	90 例
内視鏡的総胆管結石除去術	58 例
内視鏡的胆管ステント挿入術	47 例
肝動脈塞栓療法（TAE）	48 例

## 神経内科

### 診療方針（特徴）

神経内科は「内科的な神経疾患」を中心に診療を行います。

脳卒中を始め、頭痛、めまい、手足のしびれなど日常的な症状から、筋肉・末梢神経の疾患やパーキンソン病・脊髄小脳変性症・多発性硬化症・痴呆症などの各種変性疾患や専門疾患などを担当します。

CTやMRIなどの画像検査を始め、神経の機能を調べる神経生理検査や高次脳機能検査などの専門検査での評価・治療を行います。

特殊治療では、眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸へのボツリヌス局所療法も行っています。脳卒中に対しては、当院では脳卒中ユニットによるチーム医療を特徴とし、脳神経外科との合同診療を行っています。

### ◆主疾患を含む治療方針と概要

- ・ **脳卒中**：脳神経外科との合同チーム医療(脳卒中ユニット)を形成。  
年間 200 から 250 人、主に虚血性脳血管障害中心に担当  
毎日 24 時間迅速なる対応が可能としています。急性期脳血管障害の判定を行い、可能例には血栓溶解療法を始め、最適な治療方法を選択し加療を行います。
- ・ **超急性期加療**：脳梗塞発症 3 時間以内の超急性期加療として当院では脳卒中学会ガイドラインに基づき t-PA を用いた加療を行っており、その症例数は常に県内では上位に位置しています。
- ・ **ボツリヌス局所療法**  
眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸に対しての局所注射療法  
短時間で外来で可能。併行して頭蓋内画像検査、神経生理検査で評価を施行  
年間 50 人から 70 人ほど施行  
研修医にも研修中に資格取得してもらっております。
- ・ **変性疾患**：代表的なパーキンソン病で毎年、新規診断例が 10-15 人ほど見つかри、50 - 60 例が通院加療中。地域の医療機関と連携し在宅医療も充実させ、必要例にはレスパイト入院も受け容れている。
- ・ **認知症**：専門外来を設置し、病型診断、初期加療の開始を行い、在宅医療に向け地域医療機関と連携パスを作成中

### ◆主疾患治療プロトコール

- ①脳梗塞：三重脳卒中医療連携研究会の急性期基幹病院として登録され、統一連携パスを使用。
- ②眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸：ボツリヌス局所注射療法
- ③物忘れ外来：水曜日に専門外来、必要例に精査入院
- ④多発性硬化症へのインターフェロン導入コース
- ⑤γグロブリン大量療法(IVIg 療法)
- ⑥他

日本内科学会認定医 2 名・指導医 1 名

日本神経学会専門医常勤 2 名・指導医 1 名・非常勤 1 名

日本脳卒中学会専門医 1 名

日本臨床神経生理学会認定医 1 名

日本神経学会教育関連施設

日本脳卒中学会研修教育病院 指導医 1 名

ボツリヌス施行有資格者 当科 2 名

◆その他

逆紹介制度：基本的に外来・入院を問わずに、病状が安定した後にはかかりつけ医の医療機関へ逆紹介させていただきます。

## 外科

常勤7人、後期研修医2人で消化器疾患、乳腺疾患を中心に外科診療に携わり、平成22年の手術場使用の全手術症例は614例となっています。

消化器癌の治療は個別化医療の臨床応用など著しい進歩を認め、当科も各種の癌治療ガイドラインに原則準拠しながら治療を更新しています。その中でも直腸癌は集学的治療が発展している分野であり、三重大学消化管・小児外科学との連携により、当院の放射線治療医の指導のもと、術前化学放射線療法を施行し癌腫を縮小させ、局所再発の軽減をはかり肛門を温存する治療を実施しています。個々の患者さんの病態に応じた治療であり大変好評です。肛門括約筋の温存術(ISR)も癌の位置や大きさ、深達度により可能です。

さらに当科では食道癌、胃癌、大腸癌、胆石症、虫垂炎、腸閉塞、副腎腫瘍を対象に、腹腔鏡下手術を積極的に行っており、結腸癌、胆石症、虫垂炎、副腎腫瘍は第一選択が腹腔鏡下手術です。直腸癌の術前化学放射線療法後に腹腔鏡下手術を施行することも実施しています。胃癌も腹腔鏡下胃切除を積極的に行っており、術後機能を重視し幽門保存胃切除術も腹腔鏡下で施行しています。胆嚢炎では、炎症の程度、開腹の既往の有無にかかわらず全例腹腔鏡下手術の適応としながら、開腹移行率は1%前後と良好な結果をおさめています。総胆管結石症には、消化器科と共同で腹腔鏡下胆嚢摘出術と同時に術中内視鏡下で総胆管結石を採石する「ランデブー・メソッド」を取り入れています。虫垂炎の腹腔鏡下虫垂切除は、在院日数の短縮のみならず遺残膿瘍、創感染の軽減などの大きなメリットを認め小児にも実施しています。

乳癌治療では、乳腺専門外来を週2回設け三重大学乳腺外科の関連施設として指導をうけながら乳房温存療法、センチネルリンパ節生検による腋窩リンパ節郭清省略を実施しQOL向上に大きく貢献しています。さらに術前化学療法により乳房温存率が向上し、手術の縮小化がはかられています。

今年から三重大学小児外科医師により小児外科の特殊外来が始まり地域の小児医療の向上に努めています。

抗癌剤治療は外来化学療法室にて通院で行い、各癌腫の術後(術前)化学療法のほか、進行再発癌に対するQOL改善、延命を目指す治療を行っています。月1回の化学療法安全運営会議をもち、治療レジメンの吟味・処方内容の院内統一を行い、一定の安全管理システムと適切な支持療法のもとに実施されています。

緩和ケアは、緩和治療医2名、常勤医師1名、薬剤師1名、看護師2名、臨床心理士1名にて構成される緩和ケア・チームが週2回の外来と院内回診を行い、精神的・肉体的・社会的緩和のための支援を行っています。



#### ◆手術症例の概要

県立総合医療センター 手術内訳 2010年

疾患名	症例数
食道癌根治術	5
食道良性手術	0
胃十二指腸良性手術	12
胃十二指腸悪性手術	61
イレウスを除く小腸手術	16
イレウス手術	36
虫垂炎手術	44
大腸肛門悪性根治術	83
大腸良性手術	23
肛門良性手術	10
胆道良性手術	67
胆道悪性手術	4
肝切除術	20
膵良性手術	3
膵悪性腫瘍根治術	6
門脈、脾手術	2
乳癌根治術	43
乳腺良性手術	12
甲状腺手術	0
外傷手術	10
ヘルニア手術	98
その他	69
計	614

#### ◆主疾患（悪性疾患）を含む治癒成績

- 1)術後 30 日以内の死亡症例は 11 例（切除不能胃癌のバイパス術後の ARDS が 1 例、切除不能胃癌のバイパス術の原病死が 1 例、外傷性多臓器損傷が 4 例、上行結腸癌術後の原病死が 1 例、肝門部胆管癌術後の肝不全死が 1 例、上腸間膜動脈閉塞症術後の脳梗塞が 1 例、胃癌の腹膜転移性イレウスで人工肛門造設術後の原病死が 1 例、急性膵炎術後が 1 例）。
- 2)胆嚢摘出術の開腹移行は 1 例でした。

#### ◆主疾患治療プロトコール

主疾患治療プロトコール（クリニカルパスによる術後入院期間）

胃癌	胃全摘術	術後 14 日間
	幽門側胃切除術	術後 12 日間
大腸癌	大腸癌手術	術後 10 日間
乳癌手術	乳房切除又はリンパ節廓清を伴う手術	術後 7 日間
	乳腺部分切除かつセンチネルリンパ節生検	術翌日退院（2泊3日）
	腹腔鏡下胆嚢摘出術	術後 3 日間

#### ◆その他

当院は日本外科学会認定医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本消化器病学会認定施設、日本大腸肛門病学会専門医修練関連施設、日本乳癌学会専門医制度関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、大腸癌研究会の会員施設に認定されています。

救命救急センターに外科医が1名（日本救急医学会救急科専門医）常勤し、救急診療体制が確立しています。

## 心臓血管外科

### 1. 心臓血管外科の診療内容

心臓とは人の胸の中にあり、収縮と拡張を規則正しく行うことで、血液を全身に送り続けている臓器です。心臓から送り出される血液によって、全身の臓器は酸素や栄養分を受け取ることができるのです。心臓から送り出される血液は酸素を十分含んだ血液(動脈血)で、動脈を通過して全身の臓器に送られ、全身の細胞を養います。役目の終わった血液は静脈血として静脈を通過して心臓に戻ってきます。血液にとって動脈は行き道、静脈は帰り道となります。心臓は、この血液を全身に送るために規則正しく、常に休むことなく動き続けます。1分間に約60-80回、1日におよそ10万回、1年では約4000万回、一生には約30億回も収縮と拡張を繰り返し、全身に血液を送り続けます。心臓は一回の収縮で約70ミリリットルの血液をおくりまわすので、一分間で約5リットル、一日で約7000リットルの血液を全身に送り続ける事になります。人が生まれてから、心臓は休むことなく血液を送り続け、血液の通り道である動脈と静脈は、この血液の流れを受け止め続けるわけです。この心臓と血管を含めて血液を全身に送る体のシステムを総称して「循環器」と言います。この様に常時大変な仕事をしている心臓と血管「循環器」ですので、機能障害が起こらない事のほうがむしろ不思議な事とさえ言えます。

最近よく耳にする「メタボリックシンドローム」と言う言葉をご存じの方は多いのではないかと思います。それは動脈硬化性疾患の危険性を高めるリスク症候群で、内臓脂肪蓄積に加え、脂質代謝異常(高脂血症)、高血圧、高血糖(糖尿病)を伴う病態です。いわゆる「生活習慣病」でもあり、主に生活習慣や環境・体質などによって症状もなく徐々に進んでいき、「動脈硬化」という血管の病気を通して、心臓や血管、すなわち循環器の大変な病気を引き起こしてしまいます。循環器は、人間のすべての臓器を養っている大切なシステムですので、循環器系に障害が出ることで、心臓だけでなく他の臓器例えば、脳や腎臓といった全身のあらゆる臓器の病気も引き起こしてしまう事も大きな問題とされています。循環器疾患は実に多様性に富んでおり、内科的治療のみでは対応できない病気も多い事がわかってきています。私たち、心臓血管外科ではその名の通り、心臓と血管の機能障害を外科的に治療することを専門としております。

私たちの心臓血管外科は、三重県立総合医療センターが開設された1994年10月に発足しました。循環器病の全身状態に最大限の配慮をした「体に優しい外科治療」をモットーに治療に当たっています。手術そのものが体に与える負担を医学用語で「手術侵襲」といいますが、私たちはこの手術侵襲を最小限に抑えた「低侵襲心臓手術」に取り組み、心臓から全身の血管(脳血管は除きます)まで広い範囲で診療を行っています。

病気に対する戦いは、病気に対する正しい理解から始まります。「心臓・血管がおかしいかな」と気になる方は、是非お気軽に当科までご相談ください。電子メールでのご相談や、いわゆるセカンドオピニオンに関するご相談にもお答えします。心臓血管外科・近藤宛で、当院に電子メールをお願いします。アドレスは [sogohos@pref.mie.jp](mailto:sogohos@pref.mie.jp) です。

私たち心臓血管外科は機能を再建する外科で、術前より良い状態にすることを目的として取り組んでおります。高い安全性と洗練された質の高い心臓血管外科治療を推し進め、

皆様の日常生活のレベルアップに貢献できるように努力いたしますので、お気軽にご相談下さい。

## 2. 体に優しい心臓手術

従来の心臓手術といえば、人工心肺装置(人工の肺で血液を酸素化し、心臓の代わりにポンプで血液を全身に送り出す装置)を用いて、心臓を止めて行なうため、体や心臓に負担の大きい大変な手術というのが常識でした。心臓に病気を持っている人は、心臓をはじめ全身の臓器に機能障害をもっている事が多く、患者さん本人にとってはますます負担と危険性の高いいわゆる「命がけの手術」となっていました。当施設では、冠動脈バイパス手術におきましては、人工心肺装置を使わず心臓も止めずに行う「体に優しい低侵襲心臓手術＝オフポンプ手術」に早くから取り組んできました。ご高齢のかたや脳梗塞・腎不全・糖尿病といった全身臓器の障害を持った患者さんにとっては特に有用な手術法です。

## 3. 冠動脈バイパス手術について

心臓を養っている冠動脈という血管が動脈硬化で細く狭くなると、十分な血液が心臓に行き届かなくなり、狭心症という病気を引き起こします。さらに冠動脈が詰まると心臓の筋肉が腐ってしまう心筋梗塞という病気を引き起こします。冠動脈バイパス手術は、この冠動脈が細く狭くなったり詰まったりした部位を飛び越えて、血液の新しい通り道をつける手術の事です。古くて痛んだ狭い道路はそのままにして、新しくバイパス道路を建設して、交通の便が良くなることと同じと考えていただければご理解いただけると思います。狭心症や心筋梗塞の患者さんに対して行う手術で、心臓の手術では最も多く行われている手術です。日本では年間に約 15000 人の人に行われています。

従来、心臓手術は人工の心臓や肺である人工心肺装置を使って、心臓を止めて行うのが常識でした。一方 2000 年頃より、心臓の表面の冠動脈に行うバイパス手術では、体に対する負担を軽減し安全性を向上させるため、人工心肺装置を使わず心臓も止めずに行う「心拍動下低侵襲冠動脈バイパス手術」が新しい手術法として登場してきました。人工心肺装置(ポンプ)を用いないためオフポンプ手術とも言います。この手術は「体にやさしく安全性が高い」と言う大きなメリットがある一方で、心臓を止めずに動かしたまま手術を行うため、質の高い結果を得るためには、高い手術スキルはもちろんのこと、麻酔を含め洗練された手術環境・チームワークが必要です。当科では早くからこの「オフポンプ冠動脈バイパス」に取り組み、多くの実績をあげてきました。

当科では冠動脈バイパス術にはオフポンプ手術による完全血行再建を第一選択としております。体外循環を用いず、心臓も止めないため、手術による身体への負担が軽く、脳血管障害、呼吸機能障害、腎機能障害などの合併症を有する患者さんや、高齢者でも、より安全に術後合併症を起こすことなく手術が可能となっております。最近では手術適応患者さんの高齢化もあり、大動脈～頭頸部動脈の動脈硬化の強い患者さんが増え、術中脳梗塞合併の危険性が高くなっておりますが、オフポンプ手術を第一選択とした 2002 年 6 月から現在まで、術中脳梗塞はゼロを維持しております。また、自己血輸血(詳細は後述)のみで手術可能で、手術翌日から食事もでき、入院期間も短くなりました。2010 年 5 月まで

で、緊急手術も含めた全単独冠動脈バイパス術患者さんの93.0%で、待機手術では98.1%でオフポンプにて手術を行っております。

バイパスに用いるグラフトは、遠隔成績が良好である(長持ちする)内胸動脈を主に、多くの患者様に動脈グラフトを用いております。何らかの理由で動脈グラフトが用いられない場合は静脈グラフトを用いております。しかしこの2-3年は重症例が多く(年々増加傾向にあります)、静脈グラフトを用いる場合も増加しているのが現状です。

#### 4. 心臓弁膜症の手術について

心臓は4つの部屋、左心房・左心室・右心房・右心室を持っています。左右の心室は血液を勢いよく送り出すために、入口と出口には弁と呼ばれるものがついており、血液の流れが一方向に進み、戻ってこないようにする働きがあります。この弁の機能に障害を来した状態を弁膜症といいます。具体的には弁がきちんと閉まらなくて、血液が逆流してしまう「閉鎖不全症」と、弁の開きが悪くなり血液の通りが悪くなる「狭窄症」があります。中でも全身に血液を送り出す左心室の入口と出口にある弁、それぞれ僧帽弁、大動脈弁と言いますが、これらの機能障害がひどくなった場合には手術が必要となります。この弁膜症に対して、私たちは、弁病変の形や心臓の機能・患者さんの状態に応じて、一人一人の患者さんに最も適切な手術法を選択し提供いたします。

僧帽弁疾患では、自己弁を温存する形成術を第一選択とし、さらに心房細動を有する患者さんでは、積極的に不整脈手術(MAZE手術)を追加し、抗凝固不要を目指しております。そして飲み薬をできる限り少なくし、手術後の生活のレベルアップを図っています。

大動脈弁疾患では、人工弁置換術が基本となります。術後抗凝固が不要な生体弁を用いるか、半永久的な耐久の機械弁を用いるかは、患者さんの年齢、合併疾患の有無等を考慮し、患者さんと相談の上決定しております。

#### 5. 大動脈疾患の手術について

大動脈とは全身へ血液を送る最も太い動脈です。心臓から出て頭の方へ向かい、胸の上部でUターンして胸の中を下半身へ向かって走行します。そして、横隔膜を貫通しお腹にはいり、お臍(へそ)の下あたりで左右の脚(あし)に向かうように分岐します。

手術が必要になる大動脈の病気の中で、最も多いのが大動脈瘤です。大動脈瘤とは読んで字の如く大動脈が「瘤(こぶ)」状に徐々に膨らむ病気です。これは、動脈硬化+高血圧症が主な原因です。動脈硬化を促進する因子=高血圧症、糖尿病、高脂血症(高コレステロール血症)、喫煙、肥満等をお持ちの方は、持っていない人に比べ、大動脈瘤になる危険性が高くなります。

多くは無症状で、いつの間にか大きくなり、他の疾患の精査で偶然発見されることが多いです。腹部大動脈瘤の場合は、お腹を触った時に、偶然に脈を打っている腫瘍として発見されることもあります。なかには、ご自身で拍動する腫瘍として自覚していても、痛くも何ともないので放置していて、たまたま医師に相談して発見されるというケースもあります。

また、肥満の方(お腹がぼっちゃりしている方)では大きくなっていても、触診で全く拍動

がわからないことも多いです。胸部大動脈瘤は外から触ってわかることはありません。

大動脈瘤が破裂するような大きさになるのには数年以上かかりますが、症状が出ないため見つけにくいという難点があります。つまり、破裂しない限りはっきりとした症状は認めません。しかし、一旦、破裂すると痛みと同時に体内に大出血を起こすため、出血性ショックとなります。破裂した場合は、救急車で病院にたどり着く前に絶命する可能性が高い病気です。

手術は大動脈瘤を切除し人工血管に置き換える(置換する)人工血管置換術が一般的で確実です。最近では大動脈瘤のある部位の大動脈内にカテーテルを用いてステントグラフトというパイプを留置し、膨らんだ部位への血流を遮断して破裂を防ぐ治療法もあります。しかし、大動脈瘤の位置や形態で適応される症例は限られます。また腹部大動脈瘤では手術自体が危険と考えられる高齢者や重い合併疾患のある方が基本的な適応となります。確実に耐久性に優れているのは手術による人工血管置換です。尚、現時点ではステント治療は限られた施設でしか行えず、当院では行えませんので、適応症例は紹介しております。

動脈硬化が原因で起こる大動脈瘤症例では、全身の他の動脈にも病変がある場合が少なくありません。脳梗塞の原因となる脳動脈硬化症・頸動脈狭窄症、心臓を養う冠動脈の硬化が原因の心筋梗塞・狭心症、下肢の血行障害となる閉塞性動脈硬化症などを合併します。当院では大動脈瘤の待機手術の患者様全例に、上記合併疾患の有無とその治療の必要性を評価し、安全な手術治療が行えるようにしております。実際、胸部大動脈瘤手術と冠動脈バイパス術を同時に行った患者さんや、冠動脈バイパス術を行ってから腹部大動脈瘤の手術や下肢の血行再建術を行った患者さんも多数おみえです。

急性大動脈解離や大動脈瘤破裂では、救命には手術治療が不可避であり、可能な限り緊急対応しております。

## 6. 末梢動脈疾患の手術について

下肢の血行障害に対する手術を行っています。最も多い病気は、両脚へ血液を送る動脈が動脈硬化で徐々に狭くなり、ひどい場合は詰まってしまい、下肢への血流が不十分になる病気で、閉塞性動脈硬化症と言います。足が冷える、歩くとふくらはぎが張って痛くなり、休まないと歩けないという症状(間欠性跛行と言います)が典型的です。さらにひどくなると足先が壊死に陥る場合もあります。喫煙は症状を悪化させる大きな要因で、まずは禁煙することが重要です。

手術は血行再建術で、自家静脈グラフトまたは人工血管を用いてのバイパス術を行います。血行障害がなくなると、足は温かくなり、歩行障害もなくなります。

## 7. 静脈疾患の手術について

静脈は体の端から心臓に血液が戻る帰り道です。人が立った状態では、下肢の静脈血は重力に反して上へ上へと流れなければなりません。そのため静脈には逆流しないよう弁が付いていますが、この弁が壊れてしまい、静脈血がうっ滞して下肢の静脈が腫れる病気を下肢静脈瘤と言います。特に立ち仕事をしている方では、時間が経つにつれ(夕方になると)脚がだるくなり、むくみがひどくなり、痛みを伴うこともあります。ひどい場合はうっ

血により足首近くに色素沈着や潰瘍形成を来たす場合もあります。

軽症の場合は弾カストッキング着用をお勧めしております。当科外来では脚のサイズ(太さ)を測定し、ストッキングの適切なサイズの指導をしております。

中等症以上の方や見た目が軽症の方でも症状が強い方は手術治療を行っております。女性の場合、美容的な観点から手術を希望される場合もあります。手術は原因となる静脈の抜去を基本術式としており、ひどい静脈瘤はそのものも切除して再発を予防しております。尚、当院ではレーザー治療は行っておりません。

## 8. 無輸血手術について

予定手術の場合、患者さん自身の血液を前もって採取して病院内に貯めておき、手術の時の輸血は自分の血液でまかなうという「自己血輸血」を積極的に行っております。この自己血輸血は、他人の血液を輸血することに伴う合併症や副作用を防ぐ意味で、非常に有効な輸血方法です。冠動脈バイパス術や弁膜症の手術では原則として800mlの自己血を貯めて手術に臨み、その結果、他の人からの輸血を受けることなく退院していただいております。現在、自己血を前もって採取可能であった患者様の多くの方で、自己血輸血のみで経過しております。

以上、私たち心臓血管外科は、機能を再建する外科で、術前より良い状態にすることを目的として取り組んでおります。地域の皆様の日常生活のレベルアップに貢献できるように努力いたしますので、お気軽にご相談下さい。

◆入院手術症例の概要（平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日）

疾患名	例数	平均入院期間(術後入院日数)	
虚血性心疾患	23	25.1	(18.6)
弁膜症・先天性心疾患等	17	24.9	(18.5)
大動脈疾患（胸部）	17	27.8	(24.1)
大動脈疾患（腹部）	13	24.7	(18.5)
末梢動脈疾患	19	17.6	(12.9)
静脈疾患	15	7.5	( 5.5)

術後入院日数は糖尿病などの持病や合併症の治療も含めた日数です。ちなみに虚血性心疾患で術後の心臓カテーテルを済ませて外科的治療が終了し、退院可能な状態となった術後日数は平均 15.9 日でありました。胸部大動脈疾患緊急手術の患者さんでは、合併症のため入院治療が長期化する場合があります、平均在院日数が長くなります。

◆ 主疾患の治療成績（平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日）

1) 単独冠動脈バイパス術：21 例

- ・ off pump 手術：18 例（85.7%）
- ・ on pump 手術：3 例（全例急性心筋梗塞の緊急手術例）
- ・ 平均バイパス本数：2.8 本/人
- ・ 緊急手術：5 例
- ・ グラフト開存率：100.0%
- ・ 死亡：2 例（緊急例 2）

2) 大動脈瘤手術：28 例

- ・ 胸部：15 例（急性解離 9、破裂 1）  
死亡：3 例（急性解離 3）
- ・ 腹部：13 例（破裂 2）  
死亡：1 例



## 呼吸器外科

私たちの呼吸器外科は、三重県立総合医療センターが開設された1994年10月に発足しました。当科では、肺癌、気胸、炎症性肺疾患、膿胸、悪性中皮腫、縦隔腫瘍、手掌多汗症、胸部外傷等、呼吸器外科全般にわたる手術を行っています。

これらの中で、最も多く行われる肺癌の手術は、日本では1年間に約26000人に行われています。肺癌の標準手術は病巣のある肺葉（人間の肺は、右は3つの肺葉、左は2つの肺葉に分かれています）と病巣の転移経路であるリンパ節を切除することです。手術のアプローチ方法には開胸手術と胸腔鏡手術があります。開胸手術の利点は直視下に質の高い手術が行えることにありますが、傷がやや大きくなるという欠点があります。また、開胸器にて肋骨と肋骨の間を開大するため痛みも大きくなります。胸腔鏡手術は傷が小さく痛みが少ない利点がある半面、出血した場合の対処が不十分といった欠点を指摘されています。当科では癌の根治性と手術の安全性を確保するために、12cm前後の皮膚切開で行う開胸手術を標準術式としてきましたが、胸腔鏡手技の習熟に伴い2009年から創のサイズを縮小。5～10cmの小切開と胸腔鏡を併用したいわゆる胸腔鏡補助下手術(Hybrid手術)を開始しました。

一方で近年、CT等の画像診断装置の進歩により肺の末梢に存在する小さい肺癌が発見される頻度が増加してきました。これらの末梢小型肺癌に対しては肺の切除範囲を小さくしても（区域切除：癌病巣を肺葉がさらに細かく区画された区域単位で切除する）予後が変わらないという報告がみられるようになってきました。肺の切除範囲が少なれば少ないほど呼吸機能が温存されるため、当科でも2cm以下の末梢小型肺癌に対しては、患者さんの同意を得たうえで区域切除を積極的に行っております。

気胸の手術は、日本では1年間に約12000人に行われています。当科では胸腔鏡手術により痛みを和らげ早期の社会復帰ができるように努めております。

炎症性肺疾患、膿胸等に対する手術は、患者さんのQOL（生活の質）が保てるような手術を行うよう努めています。

前述の如く当科では、呼吸器外科のあらゆる疾患に対する手術に対応しています。総合病院の特徴を最大限に利用し、他科との協力のもと、進行肺癌に対する拡大手術や合併症を有する患者さんに対する手術も積極的に行っています。さらに呼吸器内科と密に連携して初診から手術までの期間を短縮するよう努め、肺癌や悪性中皮腫に対する集学的治療（手術、化学療法＝抗癌剤治療、放射線治療等を併用して行う治療）も積極的に行っています。

以上、私たち呼吸器外科は、地域の皆様の健康に貢献できますよう努力いたしますので、お気軽にご相談下さい。

◆入院手術症例の概要（平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日）

患名	例数	平均入院期間(術後入院日数)
肺癌（原発性＋転移性）	48	16.7 (13.3)
肺癌・気胸以外の肺疾患	18	17.2 (15.1)
縦隔腫瘍・その他の縦隔疾患	6	12.6 (10.0)
自然気胸	4	19.0 (17.0)
	18	9.1 (6.8)

◆主疾患の治療成績（平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日）

原発性肺癌手術 : 43 例

- ・胸腔鏡下手術 : 38 例 (88.4%)
- ・完全切除 : 40 例 (93.0%)
- ・非完全切除 : 3 例 (7.0%)
- ・死亡 : 1 例 (2.3%)

他の肺疾患手術 : 45 例

- ・死亡 : 1 例 (2.2%)

## 脳神経外科

頭部外傷、脳血管障害などの救急疾患にたいする迅速な診断、治療はもちろんのこと、脳腫瘍や頸椎、腰椎の変性疾患（椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、後縦靭帯骨化症）を中心に治療をおこなってきました。最近では、虚血性脳血管障害（脳梗塞）の患者に対する、t-PAの急性期静脈投与による治療や、血行再建術などの積極的な治療が増えてきております。また、特殊外来として脊椎・脊髄外来を開いており、外傷も含めた脊椎、脊髄疾患の手術症例が増えております。

### ◆入院疾患の概要

年間手術総数 226例（平成22年1月～12月）

主な手術内訳		事例数
脳腫瘍		23例
脳血管障害	脳動脈瘤	21例
	脳動静脈奇形	1例
	頸動脈内膜剥離	11例
	バイパス手術	6例
	高血圧性脳内出血	開頭血腫除去術 20例 定位手術 7例
外傷	開頭術	1例
	穿頭術（慢性硬膜下血腫）	25例
水頭症手術		12例
脊椎・脊髄	脊髄腫瘍	2例
	変形性脊椎症	20例
	椎間板ヘルニア	24例
	後縦靭帯骨化症	11例
	外傷	9例
血管内手術		2例
機能的手術（頭蓋内微小血管減圧術）		1例

### ◆その他

地域医療に対しては、救急患者の積極的な受け入れのみならず、早期のリハビリテーション、早期の退院およびかかりつけ医師への紹介を心がけております。

高齢者に対しても、＜生活の質＞の向上を目指して、積極的な手術治療をすすめております。脳卒中患者における地域連携クリニカルパスの運用開始により、急性期を経過した患者様のすみやかな回復期リハビリテーション施設への移行などをはかっております。

## 小児科

地域周産期母子医療センターの指定を受け、北勢地区基幹病院としての小児医療を目指しております。

以下に各部門の概略を記し、皆様方のご批判、ご教示を賜りながら県立病院として、地域医療のみならず、三重県全県にわたる小児医療に貢献すべく精進します。

### 1) 周産母子センター（3階東病棟）

本院開院時に県下で初めてNICU（未熟児新生児集中治療室）の認可を受け、多くの未熟児および病的新生児の診療が行われています。退院後のフォローは未熟児新生児専門外来（通称すくすく外来）にて発達のフォローを行っております。

### 2) 小児科病棟（3階西病棟）

感染症等の一般小児疾患に加え、精査を必要とする各種疾患に対応しております。重篤な急性疾患については当院に設置されている救命救急センターと連携をとり集中治療を行います。また、特殊疾患にて精査を要する患者さんについては、県内外の各分野の専門医と連携を取りながら診断治療を行います。

### 3) 外来診療

一般の急性期疾患等に加え、心疾患、神経疾患（てんかん等）、アレルギー疾患、内分泌疾患等の専門性の高い疾患については、一般外来とは区別して院外からの専門医の協力を受け、専門外来を開設しております。

### 4) 救急外来

当院は本来は2次、3次救急を担うべき施設ではありますが、小児救急の特殊性、必要性を考慮して対応しております。特に、紹介いただいた患児の場合は原則24時間お断りすることなく対応させていただいております。

## 産婦人科

当科では、産婦人科疾患全般を診療対象としていますが、地域がん診療連携拠点病院および地域周産期母子医療センターの指定を受けています。婦人科悪性腫瘍の治療、ハイリスク妊娠の治療、腹腔鏡手術を中心に診療を行っています。

### ◆ 平成22年診療実績

#### 入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
産科手術（帝王切開）	144例	
ハイリスク分娩	174例	全分娩数 405例
婦人科手術	509例	腹腔鏡手術を含む
内視鏡手術	215例（腹腔鏡183例）	

#### 主疾患（悪性疾患）を含む治癒成績

子宮頸部悪性腫瘍	40例（上皮内癌を含む）
子宮体部悪性腫瘍	24例
卵巣悪性腫瘍	8例
その他婦人科悪性腫瘍	2例

#### 主疾患治療プロトコール（クリパスを含む。）

婦人科癌化学療法 卵巣癌・子宮体癌を中心に、3週1回投与を基準にして3日間入院コースをクリパスで運用しています。また外来化学療法を積極的に行っています。

腹腔鏡手術 19年度から婦人科疾患の腹腔鏡手術を積極的に行っています。

#### 手術実績

腹式単純子宮全摘術	63例	腹式良性卵巣腫瘍手術	56例
膣式単純子宮全摘術	16例	腹式悪性卵巣腫瘍手術	8例
準広汎子宮全摘術	10例	子宮外妊娠手術	8例
広汎子宮全摘術	10例	円錐切除術	81例
腹腔鏡手術	183例	子宮鏡下手術	32例

### ◆ その他

高齢化に伴う疾患として子宮脱、子宮下垂の症例が増加傾向にあり、保存的治療（外来）・手術（入院）を行います。

23年からは先進医療（腹腔鏡下子宮体がん根治手術）を実施できることになりました。

## 整形外科

隔日に定期検討会を開き、各患者さんごとに、原因、症状、経過、種々検査結果、そして治療法と予測される治療結果につきスタッフ全員で検討した上で、患者さんの希望を第一とし、可能な限りより侵襲が少なくかつ最も効果的な治療法を選択しております。

### ◆治療の実際

骨折：骨折の状態により種々最新の手術方法を積極的に採用し、早期社会復帰を目指しております。また、患者さんの希望によっては、治療結果に影響のない範囲で、保存的治療や外来での手術も行っております。

変形性関節症：高齢化社会に伴い、変形性関節症は増加傾向にあります。当院では専用の無菌室(クリーンルーム)での人工関節手術や人工関節を用いない骨切り術を中心に取り組んでおり、安定した治療成績を得ております。また、関節鏡視下手術も低侵襲のため積極的に行っております。

スポーツ整形：膝の十字靭帯損傷、半月板損傷、反復性肩関節脱臼、足関節の靭帯損傷等に積極的に治療を行い、スポーツへの復帰に取り組んでおります。関節鏡視下および併用手術は年間平均250例を超え、自家腱移植による靭帯形成術は年間36例となっております。

### ◆主疾患治療プロトコール

人工股関節置換術：術後4～6週間にて退院

人工膝関節置換術：術後3週間にて退院

単顆置換型人工膝関節置換術：術後2週間にて退院

大腿骨頸部骨折：術後2週間前後で地域連携クリニカルパスにて近隣病院へ転院

半月板切除術：3泊4日にて退院

前十字靭帯再建術：術後2週間にて退院

### ◆その他

第三次救急病院及び基幹病院として、あらゆる分野の整形外科的疾患の治療を行っておりますが、病状によってはより専門性の高い医療機関を紹介させていただいております。当科では他院との病診連携に力を入れており、他院からの紹介も多く、紹介患者さん優先で診察を行っております。また、症状の落ち着いた方に関しましては積極的に近隣の信頼できる整形外科の先生方にご紹介申し上げます。

## 泌尿器科

### 診療方針

当科では主として尿路性器悪性腫瘍(前立腺癌、膀胱癌、腎癌、精巣癌など)の診断・治療を中心に行っております。治療としては手術のみならず、放射線療法や抗癌剤を使用した全身化学療法なども積極的に行っております。その他、前立腺肥大症・尿失禁などの女性泌尿器疾患・神経泌尿器疾患も増加しており、適宜対応しています。なお、尿路結石においては、四日市社会保険病院泌尿器科と連携し、治療を行っています。

### ◆入院疾患の概要

疾患名	手術名	H7-21年の件数	H22年の件数
前立腺癌	根治的前立腺摘出術	62例	12例
膀胱癌	膀胱全摘術、尿路変向術	66例	1例
膀胱癌	経尿道的膀胱腫瘍切除術	649例	40例
腎癌	根治的腎摘出術/部分切除術	85例	4例
腎盂癌・尿管癌	腎尿管全摘術	54例	5例
精巣癌	高位精巣摘出術	40例	1例

また、良性疾患では前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺切除術を H22 年には 17 例施行しました。経尿道的前立腺切除術や経尿道的膀胱腫瘍切除術などの内視鏡的治療法である経尿道的切除術 (TUR:transurethral resection) では電解質溶液下で良好な切開性能が得られる TURis (TUR in saline)システムを採用し、良好な成績を得ております。

### ◆主疾患治療プロトコール (クリパスを含む。)

症例数の多い計直腸的前立腺針生検や経尿道的膀胱腫瘍切除術をはじめ、各入院検査・手術ではクリニカルパスを用いています。また、疾患別標準資料・説明書を作成し、患者さんの説明に用いています。

一方、悪性疾患(癌)に対する化学療法も積極的に行っております。進行膀胱癌(尿路上皮癌)の全身化学療法として、以前の MVAC 療法からジェムシタビンやタキサン系抗癌剤を中心とした化学療法が標準的治療となっており、種々の化学療法を行っています。少量の抗癌剤を併用した化学放射線療法も行っています。また、内分泌療法抵抗性となった再燃前立腺癌でもタキサン系抗癌剤を用いた化学療法を積極的に行っております。

前立腺癌を診断する経直腸的前立腺生検は前立腺体積にもよりますが、初回生検であれば少なくとも 10ヶ所以上の多数ヶ所生検を行っています。

### ◆その他

当科では患者さんとの十分な説明と話し合いの結果、治療法の選択を行い、最善の治療を行うことを目指しております。

## 皮膚科

現在、皮膚科専門医1名が診療を行っています。外来は、月曜日は、大学よりの非常勤医師が、火から金曜日は常勤医師が診察を担当しています。湿疹皮膚炎群、皮膚感染症、皮膚良性腫瘍、一部の皮膚悪性腫瘍、膠原病、自己免疫疾患（水疱症）など、皮膚科一般の診療を行っています。治療は外用療法や内服療法が中心ですが、化膿部の排膿処置、ヤケドなどの創傷処置、イボや腫瘍への冷凍凝固療法、小腫瘍の摘出術、感染性皮膚疾患の点滴療法なども行っています。あわせて局所処置方法の指導やスキンケア指導、生活環境指導を行うとともに、近年高齢化社会により増加している皮膚癌の早期発見などにも努めています。

### ◆入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
带状疱疹	4	
熱傷	4	
蜂窩織炎	2	
皮膚潰瘍	2	
皮膚癌	1	
褥瘡	1	

入院患者 14 件／年

備考：H21年9月～H22年3月 休診

### ◆主疾患（悪性疾患）を含む治癒成績

検査処置・手術領域では、診断及び治療方針決定のための皮膚生検、比較的簡単な局所麻酔下での皮膚腫瘍の切除術などを行っています。

年間手術・処置件数 54 件/年（皮膚生検・外来小手術 41 件、手術室手術 13 件）

表皮嚢腫 17 件、角化腫 5 件、母斑 2 件、線維腫 2 件、血管腫 4 件、皮膚癌（上皮内癌を含む）6 件など

### ◆主疾患治療プロトコール

皮膚感染症の入院治療

带状疱疹 抗ウイルス剤点滴 5～7日間

蜂窩織炎 抗生剤点滴 7～10日間 など



## 精 神 科

当科は統合失調症、躁うつ病、不安障害など精神障害全般に対する外来診療を行っております。診察日は毎週月曜から金曜までですが、初診、再診共に予約制となっております。なお当科には入院設備がありませんので、入院治療が必要な方などは他の精神科施設に紹介させていただく場合もあります。

### ◆平成22年診療実績

外来延患者数	5,491人
一日平均外来患者数	22.5人

## 放射線科

CT, MRI, 血管造影、IVR (interventional Radiology) ,核医学検査の施行と画像診断を行っている。放射線治療では、LINAC(直線加速器)を使用した治療を行っている。四日市医師会等との病診・病病連携システムにより、地域医療機関からの画像診断を行うと共に、院内では中央放射線部門の一員として、各臨床科との密接な連携の元に診療を行っている。

## 麻酔科

手術を受ける患者さんが、安全に手術を受けることが出来るよう麻酔を担当しています。  
手術中は患者様のそばで、手術部位以外の全身状態を管理しています。

### ◆平成22年診療実績

手術症例数

平成22年全手術症例数 2,769件

うち麻酔科管理症例数 979件

麻酔法	件数
全身麻酔	516
全身麻酔+硬膜外麻酔	375
硬膜外・脊髄くも膜下麻酔・硬脊麻	93
緊急手術	174

### ◆その他

全例とはいきませんが、全身麻酔、重症の方を中心に術中管理しています。

麻酔科担当外の手術でも、手術中に問題が起こった場合は麻酔科医が対応し、全ての方が安

全に手術を受けることが出来るよう努力しています。

## (2)中央放射線部

2010年(平成22年)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均 /月	集計	
一般撮影	3,291	2,958	3,498	3,180	3,181	3,164	3,106	3,228	3,070	3,216	3,283	3,384	3,213.3	38,559	
透視	338	316	324	334	286	325	306	331	307	285	306	264	310.2	3,722	
血管造影	頭腹部	20	28	21	15	21	26	21	25	14	22	24	12	20.8	249
	心臓	44	46	46	39	59	52	56	37	35	37	56	42	45.8	549
放射線治療(体外照射)	322	481	343	288	296	441	303	299	295	332	452	245	341.4	4,097	
CT	単純	1,166	1,004	1,155	1,207	1,199	1,155	1,144	1,221	1,184	1,255	1,215	1,196	1,175.1	14,101
	影	220	170	211	216	202	214	223	220	216	234	236	229	215.9	2,591
	パーフュージョン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	3D	34	30	35	40	31	52	56	52	43	43	59	45	43.3	520
☆CT	総計	1,386	1,174	1,366	1,423	1,401	1,369	1,367	1,441	1,400	1,489	1,451	1,425	1,391.0	16,692
	病診連携	42	43	44	51	39	67	43	26	35	46	39	43	43.2	518
RI	RI	94	8	116	108	100	101	97	105	96	95	91	91	91.8	1,102
MRI	単純	271	262	311	310	294	335	310	292	297	286	281	275	293.7	3,524
	造影	96	74	98	107	74	85	79	90	79	81	104	86	87.8	1,053
	MRA	86	74	82	101	100	111	95	100	95	85	89	92	92.5	1,110
	MRCP	11	5	11	8	9	14	18	5	14	16	16	16	11.9	143
☆MRI	総計	367	336	409	417	368	420	389	382	376	367	385	361	381.4	4,577
	病診連携	28	33	36	37	38	46	32	26	43	30	35	21	33.8	405
超音波検査	心臓	344	370	436	397	364	447	412	405	335	332	374	335	379.3	4,551
	腹部	311	296	331	347	305	348	333	357	342	334	329	353	332.2	3,986
	血管等	180	187	211	189	198	208	218	196	207	201	217	193	200.4	2,405
	病診連携	0	0	0	4	11	16	16	12	9	13	9	3	7.8	93
コピー	184	200	234	187	181	251	216	255	244	225	282	277	228.0	2,736	

	1～3	4～6	7～9	10～12	総計
病診連携/CT	3.29%	3.74%	2.47%	2.93%	3.10%
病診連携/MRI	8.72%	10.04%	8.81%	7.73%	8.85%

### (3) 中央検査部

#### 中央検査部概要

部門	中央検査部
部門長	草野五男(検査部長) ・ 上野尚幸(検査技師長)
認定資格	細胞検査士4名 ・ 輸血認定技師1名 ・ 糖尿病療養指導士名5名 NST療養士2名 ・ 病理検査士1名 ・ 神経生理認定技術師2名
常勤技師	21名(育児休暇1名)
業務補助職員	2名

#### 外部精度管理参加状況

毎月	eQAP	シスメックス株式会社
6月	日本臨床検査技師会精度管理調査	日本臨床検査技師会
8月	三重県臨床検査精度管理調査	三重県臨床検査精度管理協議会
9月	第43回臨床検査精度管理調査	日本医師会

#### 診療支援

感染症レポート	週報、月報
外来採血	毎日(午前中)
病棟採血管準備	毎日(各病棟に配送)
病棟診察前検査報告	毎日(1時間早出)
外来迅速検査報告	24時間勤務体制
チーム医療への参画	NST・ICT・心カテ待機等
各種認定技師の育成	必要に応じて対応

#### 病診連携検査件数

トレッドミル	10
ホルター心電図	7
脳波	33
ABI	3
神経生理検査	1
計	54

#### 検査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
尿・糞便	4164	4010	3833	4109	4039	3905	4010	3800	4309	3935	3731	4235	48080
血液	15284	15085	15411	15827	15507	15122	15318	14870	15874	15373	14738	16146	184555
生化I	81715	79479	80291	81617	81619	78955	78536	76738	79970	79019	74685	81464	954088
生化II	2377	2256	2425	2444	2261	2377	2377	2232	2289	2291	2203	2433	27965
負荷試験	17	12	24	16	23	10	11	10	6	7	10	17	163
免疫	8380	8342	8364	8024	8477	7904	8541	8179	8610	8298	7822	8891	99832
輸血	388	214	405	427	443	445	240	272	411	446	384	498	4,573
微生物	2239	2253	2040	1974	2215	2238	2159	2028	2231	2093	1873	1845	25188
病理	818	667	774	707	756	738	753	701	734	689	667	794	8798
生理	1825	1730	1802	1916	1727	1730	1647	1776	1715	1732	1609	1882	21091
合計	117207	114048	115369	117061	117067	113424	113592	106806	116149	113883	107722	118205	1370533

## (4) 薬剤部

## ○投薬等に関わる収入

単位：千円	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
投薬収入	18,730	15,371	18,399	15,359	16,225	16,093	17,310	16,305	16,050	16,885	14,781	17,234
調剤料収入	175	146	171	156	164	162	171	181	177	174	164	180
調剤技術基本料収入	101	80	91	78	86	83	94	90	96	106	86	103

## ○薬剤管理指導等の件数

単位：件	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
薬剤管理指導料算定件数	186	182	207	204	167	216	257	221	216	296	349	259
薬剤管理指導料算定件数	1,255	891	1,097	1,036	1,106	1,013	1,107	1,057	1,017	1,044	1,040	1,179

## ○診療科別外来処方箋発行件数

## 院外処方箋

	内科	外科	心外	脳外	小児	産婦	整形	皮膚	泌尿	耳鼻	精神	放射	神経	循環	呼吸	消化	呼外	合計
1月	124	400	89	163	594	313	193	22	275	217	314	6	194	770	529	652	11	4,866
2月	66	362	65	181	608	327	202	29	245	230	312	6	204	696	473	595	16	4,617
3月	90	457	98	198	696	347	205	23	317	265	356	7	232	848	489	663	20	5,311
4月	85	413	79	184	657	363	155	243	290	259	340	5	219	789	506	696	18	5,301
5月	116	384	75	159	632	345	193	234	279	202	307	4	176	721	504	603	11	4,945
6月	80	447	72	183	632	382	171	273	264	198	327	0	234	761	480	670	15	5,189
7月	84	439	82	186	565	347	172	364	282	222	363	2	231	792	503	662	8	5,304
8月	85	400	69	175	534	359	200	370	289	183	338	2	189	703	527	673	7	5,103
9月	76	437	77	180	507	353	185	307	303	211	338	1	215	766	490	639	15	5,100
10月	62	424	76	192	562	343	185	327	298	189	329	1	222	750	508	626	11	5,105
11月	68	453	85	180	617	308	184	302	267	210	329	0	190	740	483	587	14	5,017
12月	98	444	78	179	704	342	213	309	294	225	318	1	217	724	517	602	8	5,273
	1,034	5,060	945	2,160	7,308	4,129	2,258	2,803	3,403	2,611	3,971	35	2,523	9,060	6,009	7,668	154	61,131

## 全件処方箋

	内科	外科	心外	脳外	小児	産婦	整形	皮膚	泌尿	耳鼻	精神	放射	神経	循環	呼吸	消化	呼外	合計
1月	513	435	96	179	800	385	281	39	300	232	414	7	213	815	634	746	12	6,101
2月	229	411	69	202	742	389	272	40	259	252	418	6	224	739	582	663	17	5,514
3月	297	519	104	214	875	429	298	42	335	299	472	11	249	898	605	752	26	6,425
4月	305	479	83	203	820	439	222	274	302	277	460	5	239	834	628	769	21	6,360
5月	377	445	81	168	812	419	288	265	294	220	412	5	194	767	632	671	13	6,063
6月	264	512	80	202	758	440	256	315	284	209	429	3	248	808	619	764	17	6,208
7月	314	515	89	210	734	407	247	430	312	236	472	4	247	839	629	742	8	6,435
8月	335	473	78	191	667	392	290	425	305	202	452	4	209	743	662	740	8	6,176
9月	312	516	82	202	618	402	276	353	325	227	445	4	235	816	626	714	16	6,169
10月	276	508	82	211	714	400	272	378	317	195	424	4	243	792	629	700	13	6,158
11月	301	519	89	193	798	359	265	344	291	233	441	2	206	788	578	653	16	6,076
12月	386	501	86	197	923	392	313	343	317	248	435	5	241	769	641	672	11	6,480
	3,909	5,833	1,019	2,372	9,261	4,853	3,280	3,248	3,641	2,830	5,274	60	2,748	9,608	7,465	8,586	178	74,165

## 単位：％(休日・夜間を除く)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
院外処方率	79.8	83.7	82.7	84.6	81.6	83.6	82.4	82.6	82.7	82.9	82.6	81.4

## (5) 看護部

### 看護部の理念

1. 患者さんが満足した医療が受けられるよう、安全で質の高い看護を実践し、地域からの信頼を得ます。
2. 看護師の資質（豊かな人間性、科学的根拠に基づいた知識と技術）を向上し看護師個々のキャリアアップと定着をめざします。

### 平成22年度看護部目標

『私たちは“ひと”への思いやりを大切にします。  
そして、互いに支えあう職場をつくります。』

### 平成22年度看護部実践報告

#### 1. 看護職員の確保

##### 1) 就職説明会

(1) 院内就職説明会の開催（6月、7月、8月）

(2) 外部の説明会への参加

- ・ 県立看護大学の合同説明会
- ・ 三重県看護協会の看護フェスタ
- ・ ナースセンターの潜在看護師就職説明会
- ・ ナース専科主催（津市、名古屋）
- ・ 中日新聞主催（名古屋）
- ・ 看護ナビ主催（名古屋）

##### 2) 看護大学・学校訪問

- ・ 副師長による学校訪問（県内6校）
- ・ 看護部長、院長、運営調整部長の訪問（県内5校）

3) 潜在看護師の再チャレンジ研修（3日シリーズ）・・・8名参加

##### 4) 広報活動

- ・ 就職説明会ポスター作成
- ・ 助産師・看護師募集の新聞折込チラシ
- ・ ホームページ画面の適宜更新

##### 5) 採用内定者への対応

- ・ 内定者のつどい（11月）
- ・ メッセージカード・年賀状・看護部活動・医療センターニュースなどを送付

##### 6) 実習環境の充実

- ・ 実習指導者の育成（指導者研修修了者3名）
- ・ 実習中に懇親会の実施
- ・ 実習材料の整備と統一
- ・ 看護研修室の整備

7) 看護学生の夏休みアルバイトの受け入れ

7月～8月に計2名

## 2. 職場環境の改善と活性化

### 1) 副師長会の小集団活動での取り組み

[6グループ]

- ・職場風土
- ・明日葉（定着対策）
- ・電子カルテ
- ・看護の質の向上
- ・看護師確保
- ・病院経営

### 2) 看護支援室の活動

- (1) 職員のメンタルフォロー（つぶやき箱の設置など）
- (2) 癒しの空間の提供

### 3) 業務改善活動

#### (1) TQM 活動

- ・院内 TQM 発表会（15 題、うち看護部関連 12 題）
- ・病院事業庁 TQM 発表会（10 題、うち当院より 4 題）

#### (2) 各セクションの「小さな気づき」の取り組み・・・164 件

#### (3) 年度末に活動報告会を行い、各セクションの小グループ活動、各委員会、認定看護師の活動などを看護部全体で共有した。

### 4) 時間外勤務削減対策（褥瘡看護専従看護師、臨床工学技士、手術室）に対し、用務調整など検討。臨床工学技士の院内待機（時間外勤務）を自宅待機に変更した。

\*看護師定着率・・・91.6%

## 3. 人材育成

### 1) BSC シートを活用した目標管理

(1) 院長シート→看護部長シートに基づいて各師長、認定看護師がそれぞれ BSC シートを作成。目標達成に向けて組織運営・実践活動を行う。

(2) スタッフは各師長のシートに基づいて『私の目標シート』を作成し各セクションの目標達成にむけて役割を担う

### 2) キャリアラダーによる教育

各看護師はキャリアステップ登録をし、主体的に個々のスキルアップを図る。

### 3) 新人看護師育成

(1) 新人看護師教育プログラムをみなおし、ローテーション研修を組み入れたゆとりある教育を実施した。

### 4) 看護師長研修の実施

選ばれる病院、選ばれる看護部をめざして、3回シリーズの研修を開催した。

### 5) 地域の医療職者への貢献

感染対策・がん看護・褥瘡ケア・ACLS などの研修に院外から延べ 341 人の受講者が参加した。

### 6) 県立看護大学の遠隔配信授業が受けられるよう整備され、「看護研究」「看護管理」



の研修を受講できた。これには院外からの受講者も参加してもらった。

7) 学生実習等の受け入れ

(1) 看護学生実習受け入れ状況 (延べ人数)

学校名	人員 (人)
三重県立看護大学	1977 人
三重県立桑名高校専攻科	411 人
四日市医師会看護専門学校	1442 人
四日市医療大学	242 人
聖十字看護専門学校	123 人
弥富看護学校	28 人
合計	4223 人

(2) 高校生の一日看護体験・・・7月30日 (金)

26人受け入れ

(3) 中学生の職場体験受け入れ・・・11月10日 (水)、11日 (木)、12日 (金)

3人受け入れ

## (6) 栄養グループ

平成22年 年間栄養指導件数

	入院外来合計人数	個別指導			集団指導		
		人数 (名)	入院 (名)	外来 (名)	人数 (名)	母親教室(外来)	
						(件)	(名)
1 月	56	48	30	18	8	1	8
2 月	80	70	41	29	10	1	10
3 月	80	66	36	30	14	1	14
4 月	77	67	41	26	10	1	10
5 月	84	74	43	31	10	1	10
6 月	87	66	41	25	21	1	21
7 月	92	77	59	18	15	1	15
8 月	69	58	35	23	11	1	11
9 月	79	58	37	21	21	1	21
10 月	55	46	28	18	9	1	9
11 月	76	66	46	20	10	1	10
12 月	98	85	54	31	13	1	13
合計	933	781	491	290	152	12	152

平成22年栄養指導件数(個別指導)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
腎臓病	3	2	2	3	1	1	0	0	0	2	0	2	16
高血圧症	3	10	10	12	16	12	10	11	13	7	13	13	130
心臓病	21	20	17	14	22	21	29	16	15	10	17	23	225
肝臓病	0	0	1	0	0	0	2	1	1	1	1	3	10
糖尿病	9	18	23	24	18	18	21	14	10	9	19	19	202
潰瘍	0	0	1	0	1	1	0	1	0	1	0	1	6
膵臓病	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	4
脂質異常症	3	10	3	5	3	0	1	2	3	4	2	3	39
肥満症	1	4	3	1	1	1	2	4	3	2	3	3	28
妊娠中毒症	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	5
炎症性腸疾患	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3
貧血症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
その他	6	5	4	8	12	10	12	9	10	9	10	16	111
合計	48	70	66	67	74	66	77	58	58	46	66	85	781

平成22年 給食食数実績

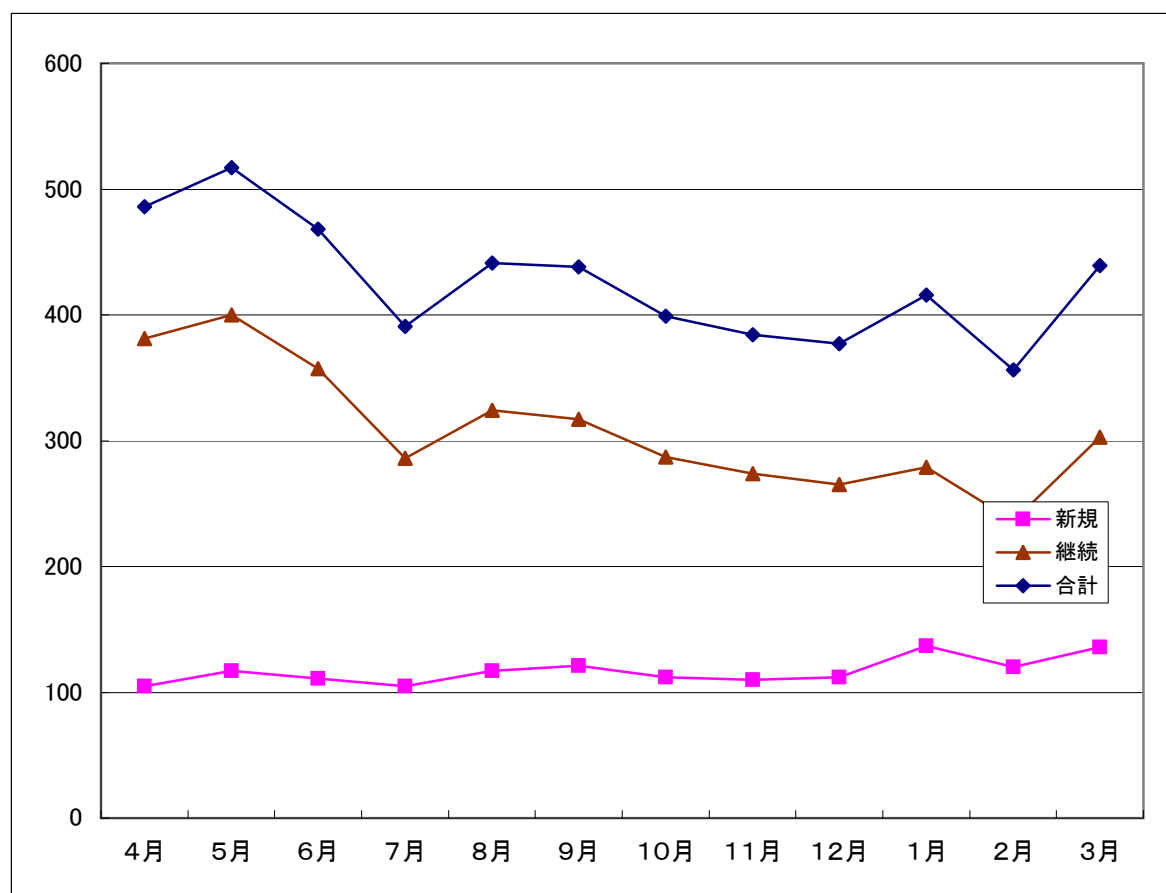
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一般食	9,531	9,169	10,093	8,303	8,675	9,006	9,672	10,330	10,766	11,443	10,840	10,449
常食	6,134	6,344	6,985	5,107	5,602	6,199	6,666	6,681	7,257	7,644	7,620	7,130
軟食	3,301	2,744	2,996	3,147	2,986	2,695	2,925	3,578	3,452	3,697	3,104	3,220
流動食	96	81	112	49	87	112	81	71	57	102	116	99
特別治療食	9,813	9,009	9,044	9,418	10,928	10,516	9,559	8,899	8,032	8,879	9,043	9,615
加算食	4,865	5,474	5,553	5,765	6,281	6,515	6,398	5,013	4,673	5,212	5,898	5,621
非加算食	4,948	3,535	3,491	3,653	4,647	4,001	3,161	3,886	3,359	3,667	3,145	3,994

腎臓食	292	265	428	391	279	59	84	142	30	209	305	230
糖腎食	57	208	116	253	247	237	166	101	141	162	74	221
透析食	59	91	220	62	35	107	87	198	59	7	46	0
妊娠高血圧 ・糖尿病食	62	12	71	58	35	131	79	43	91	25	61	44
減塩食	2,768	2,692	2,228	1,998	2,606	2,902	2,467	1,997	1,788	1,888	2,218	2,227
肝臓食	242	202	153	322	491	587	725	369	407	488	541	495
EC食	1,166	1,711	2,010	1,868	1,360	1,462	1,836	1,366	1,477	1,927	1,842	1,875
脂質異常症食	16	6	0	27	7	27	137	121	55	53	59	10
貧血食	188	163	56	169	278	246	86	124	100	27	112	153
脂肪制限食	109	132	131	376	157	202	177	284	202	195	160	232
潰瘍食	28	103	37	37	80	25	81	87	33	92	176	116
炎症性腸疾患	0	7	11	0	0	12	15	0	0	0	0	0
濃厚流動食	1,128	1,095	1,069	1,004	1,476	1,006	914	971	1,148	1,095	986	1,234
術後食	248	254	224	302	443	515	546	495	392	230	476	492
易消化食	611	244	312	341	589	527	218	289	252	234	400	333
低残渣食	261	156	118	152	247	109	231	198	213	378	288	241
離乳食	178	295	256	245	265	136	60	238	240	192	208	225
嚥下訓練食	942	766	450	641	889	931	698	1,102	730	867	383	771
検査食	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
その他	705	222	501	642	988	687	482	503	478	456	370	387
ミルク	753	383	653	529	456	608	469	271	196	354	338	329
合計	9,813	9,009	9,044	9,418	10,928	10,516	9,559	8,899	8,032	8,879	9,043	9,615

## (7) 地域連携室

平成22年度医療福祉相談件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	入院	73	97	80	79	80	85	83	87	81	106	92	99	1,042
	外来	26	19	25	22	34	30	28	19	27	29	24	30	313
	その他	6	1	6	4	3	6	1	4	4	2	4	7	48
	計	105	117	111	105	117	121	112	110	112	137	120	136	1,403
継続	入院	317	353	292	235	269	262	235	246	236	234	201	255	3,135
	外来	55	38	51	36	43	45	35	25	26	42	21	37	454
	その他	9	9	14	15	12	10	17	3	3	3	14	11	120
	計	381	400	357	286	324	317	287	274	265	279	236	303	3,709
合計	入院	390	450	372	314	349	347	318	333	317	340	293	354	4,177
	外来	81	57	76	58	77	75	63	44	53	71	45	67	767
	その他	15	10	20	19	15	16	18	7	7	5	18	18	168
	計	486	517	468	391	441	438	399	384	377	416	356	439	5,112

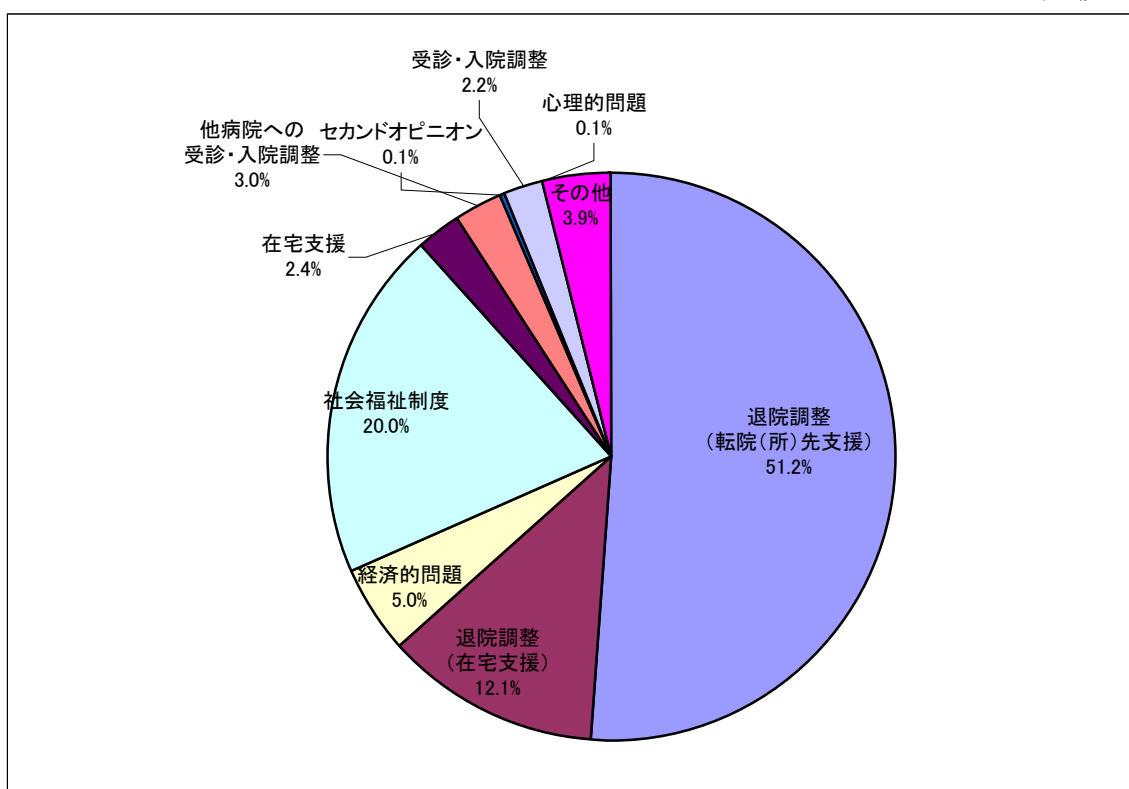


相談人数について、合計では21年度を下回り、特に継続は大きく下回った。月別の変化を見ると、日数の関係もあり、2月の数値が減少する結果となった。

医療福祉相談内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
退院調整（転院（所）支援）	282	352	292	206	285	296	240	264	219	242	200	227	3,105
退院調整（在宅支援）	83	85	57	70	39	30	53	34	57	71	68	87	734
経済的問題	21	35	33	30	28	28	19	17	26	18	20	27	302
社会福祉制度	120	99	87	91	100	108	107	84	107	110	88	110	1,211
在宅支援	17	7	7	8	23	15	5	16	8	11	10	18	145
他病院への受診・入院調整	11	13	9	7	11	10	18	6	5	5	9	6	110
セカンドオピニオン	0	1	0	0	1	1	1	3	1	0	1	0	9
受診・入院調整	20	6	27	13	13	11	4	4	6	11	6	11	132
心理的問題	0	1	1	1	1	1	1	0	1	0	2	0	9
その他	28	17	30	23	15	23	21	12	8	19	18	24	238
計	582	616	543	449	516	523	469	440	438	487	422	510	5,995

(重複あり)



各相談内容の割合をみると昨年とほぼ変わりなく、項目別でも目立った増減はない。ただ、件数で見ると、全体で1,500件の減であり、各項目の殆どがほぼ同じ割合で減っている。その中で唯一増加に転じたのが在宅への退院調整に関わった件数である。病院の機能分化が進み、適材適所に患者が移るようになり、更に介護療養型の減少によって今までそこへ転院していた患者が転院できなくなってきたことと、特養の待機が極端に長期化してきたことから高齢者専用賃貸住宅の需要が増大した。その高専賃は居宅扱いとなり、また、国が推進している在宅退院も後押ししての結果であると考えられる。

転院・在宅等 退院調整相談件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
退院調整	転院先調整	221	273	232	157	220	241	202	214	187	197	158	165	2,467
	関係機関調整	61	79	60	49	65	55	38	50	32	45	42	62	638
在宅支援		83	85	57	70	39	30	53	34	57	71	68	87	734

退院調整相談の新規相談者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
退院調整	転院先調整	39	55	47	40	51	49	52	53	39	63	47	44	579
	関係機関調整	4	8	6	2	9	6	5	4	2	1	2	4	53
在宅支援		15	22	11	12	12	14	13	6	11	23	23	23	185

退院調整の主な退院先

病院					診療所	在宅		施設	死亡	計
一般	回復期	療養型	精神科	その他		在宅	自宅待機			
77	263	51	9	24	9	172	8	73	54	740

在宅調整件数は約100件増であり、退院調整相談件数は全体で約700件減。全体件数自体は大幅に減少しているが、関わった患者数としては約30件の減であった。病院機能別の退院先をみてもどの分野の病院への転院件数も昨年と比べてもほぼ横這いであることから、継続して関わる患者が減り、本当に支援が必要な患者にのみソーシャルワークを行うという取捨選択ができてきたことがうかがえる。例えば、元々入居していた施設への調整を家族が行う、などである。他の理由としては、短期間でのアプローチを行うこともこの結果に反映していると考えられる。

22年度 病診連携・病病連携登録医（医療機関）数

病診連携登録医数（22年度末現在）						病病連携登録医療機関数
いなべ医師会	桑名医師会	四日市医師会	亀山医師会	鈴鹿医師会	合計	
23	23	274	5	64	389	13
うち21年度新規登録数（内数）						うち22年度新規登録病病連携機関数
いなべ医師会	桑名医師会	四日市医師会	亀山医師会	鈴鹿医師会	合計	
0	0	5	0	1	6	0

当院では、病診連携を積極的に進める方針から、近隣医師会と病診連携システムに係る合意を交わし、病診連携システムへの賛同を趣旨とする登録医制度を設けており、22年度は新規に6名の登録をいただいた。

また、それぞれの機能分担を図る観点から、周辺地域の病院との病病連携も推進しているところであり、22年度末現在で、13の医療機関と病病連携システムの合意を交わしている。

今後も、更なる登録医療機関の充実と共に、地域医療連携の推進を図りたいと考えている。

## 22年度 紹介患者数と紹介率

診療科	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	初診数	288	385	290	373	401	342	280	308	350	429	330	326	4,102
	紹介数	18	13	18	19	20	21	13	17	15	18	17	18	207
外科	初診数	78	113	111	125	125	147	126	120	108	110	106	102	1,371
	紹介数	25	25	47	42	49	61	36	52	46	37	41	40	501
心外科	初診数	8	8	12	7	14	13	8	13	10	14	8	8	123
	紹介数	5	3	9	5	9	8	6	8	8	4	5	6	76
脳外科	初診数	108	96	94	86	95	93	103	88	69	110	85	108	1,135
	紹介数	10	5	13	15	10	16	15	8	7	14	14	16	143
小児科	初診数	213	257	185	192	201	137	186	184	278	251	205	231	2,520
	紹介数	31	25	43	41	40	30	27	26	44	39	37	31	414
産婦人科	初診数	132	120	127	134	134	150	98	127	122	89	113	107	1,453
	紹介数	62	59	53	62	62	66	46	61	60	42	58	60	691
整形外科	初診数	160	237	198	154	213	182	178	190	201	185	154	187	2,239
	紹介数	41	54	55	41	55	39	36	60	50	29	45	46	551
皮膚科	初診数	53	59	82	85	94	56	81	67	47	42	57	51	774
	紹介数	8	5	11	8	10	4	9	17	9	2	11	10	104
泌尿器科	初診数	36	35	32	44	36	43	36	28	35	34	31	35	425
	紹介数	17	16	15	18	17	17	12	14	17	18	15	17	193
眼科	初診数													0
	紹介数													0
耳鼻いんこう科	初診数	57	39	32	46	59	45	51	29	44	34	46	66	548
	紹介数	12	6	10	5	7	7	12	6	10	5	7	8	95
精神科	初診数	2	1	1	1	1	2	1	1	1	2	3	3	19
	紹介数		1	1		1	1				1	3	2	10
神経内科	初診数	49	61	52	48	25	48	48	35	55	49	47	43	560
	紹介数	21	20	28	27	12	18	14	13	19	19	22	17	230
循環器科	初診数	82	67	61	86	64	63	69	78	70	72	63	93	868
	紹介数	31	31	26	47	34	32	28	38	31	27	34	60	419
放射線科	初診数	73	61	97	61	41	65	62	60	54	62	64	75	775
	紹介数	72	61	97	61	41	64	62	60	54	62	64	75	773
呼吸器科	初診数	96	92	84	92	105	73	101	92	84	105	68	84	1,076
	紹介数	49	46	47	37	44	35	45	44	36	37	31	31	482
消化器科	初診数	106	144	125	107	134	131	147	123	112	108	96	107	1,440
	紹介数	48	74	61	51	70	55	73	56	60	46	42	55	691
呼吸器外科	初診数	5	2	1	1	6	2	1	3	3	2	2		28
	紹介数	4	1		1	5	1		3	3	2	1		21
合計	初診数	1,546	1,777	1,584	1,642	1,748	1,592	1,576	1,546	1,643	1,698	1,478	1,626	19,456
	紹介数	454	445	534	480	486	475	434	483	469	402	447	492	5,601
	救急車搬送患者数	359	369	357	412	428	379	441	391	424	477	386	406	4,829
	紹介率	53	46	56	54	52	54	56	57	54	52	56	55	54

※ 紹介数＝初診である紹介患者数

※ 紹介率＝(初診患者数+救急車搬送患者数)/初診患者数(6歳未満時間外除く)

当院は急性期病院として、病診・病病連携に取り組んでおり紹介率は年々上昇している。また、救急救命センター併置病院としても救急搬送受け入れ患者数が増加しており、今後も引き続き地域医療機関と連携し適切な医療提供体制の充実に努めていきたい

平成22年度 病診連携検査 検査種類別件数

MRI	CT	胃透視	胃カメラ	心エコー	トレッドミル	ホルターEKG	脳波	ABR
408	526	0	87	50	10	7	33	0
ABI	頸動脈エコー	腹部エコー	甲状腺エコー	下肢静脈エコー	下肢動脈エコー	マンモグラフィー	神経生理検査	大腸内視鏡
3	8	47	8	9	1	5	1	78
							合計	1,281

当院では、外部医療機関からの依頼により検査のみを行うシステムである病診連携検査を実施している。

これは、大型医療機器等を地域で共同利用し、地域医療機関との機能分担を図る趣旨で実施しているものである。全体の件数としては、CT・心エコーの増加や、新しく大腸内視鏡検査を開始したこともあり、昨年度より約200件増加する結果となった。



## (8) 医療安全管理部 感染対策室 (2010)

### 院内感染対策チーム (Infection Control Team)

#### メンバー構成

リーダー：感染対策室 (ICN 垣内)

メンバー：ICD (油田、伊藤秀、西森、森谷、藤原 4月～3月、前田 7月～)

ICD 薬剤師 (森)、薬剤師 (西出)

リンクナース (田上\*1月まで) (森<sub>理</sub> 9月～3月)

細菌検査技師 (森外、畑中)

施設管理 (中村⇒4月から飛鳥井)

\* ICN 倉田：5階 BSI サーベイランスの継続

毎週のミーティングと ICT 会に参加

### 実績

#### 1. ノロウイルス迅速キットの導入

感染性胃腸炎流行期に備え、患者発生時のフローシートを作成。

入院患者で感染性胃腸炎疑い患者が集団で発生した場合、(同フロアで 3 人以上、同室で 2 名以上同時発生) 感染対策室に報告、ノロウイルス抗原迅速テストを実施、早期発見、感染拡大防止に繋げる。

#### 2. 多剤耐性緑膿菌 (MDRP) 検出への対応

9月に他病院から紹介入院された患者から MDRP が検出され、院内感染防止に取り組んでいたが、10月に入り、入院中の患者からも検出を確認した。

これまで、当院では検出のなかった MDRP が、短期間の間に検出されたため、臨時 ICT 会を開催し、調査・感染対策・治療について検討し、今後の方針を決定した。

引き続き、院内感染対策の徹底を図り、多剤耐性菌に対する迅速な治療を開始できるよう、治療薬の確保、有効な抗菌化学療法の確認ができる診療体制を整備した。以後、新たな患者の発生はなく経過している。

アウトブレイクを防ぐには、日頃からのサーベイランスが重要となる。今後も、耐性菌サーベイランスの継続を行い、早期発見・介入に務めていく。

#### 3. 感染対策物品の見直し、検討 (施設管理課と協同)

##### 1) 末梢ルートへのシュアプラグ利用

感染リスク軽減のため、延長チューブとの一体型を導入予定であったが、造影剤の高速注入に耐えられないことから不採用となり、従来の三方活栓をシュアプラグ (閉鎖) タイプに変更。三方活栓キャップを使用する必要がなくなり、3日以上使用すれば、コスト削減にもなる。

## 2) 病棟個室へのペーパーホルダー設置

感染性胃腸炎やクロストリジウム・ディフィシル関連下痢症など、擦式手指消毒ではなく、石けんと流水による手洗いが第一選択となる場面がある。感染症患者を個室隔離しても、室内に手洗い場はあるが、ペーパーホルダーがなく、スタッフがワゴンなどにペーパーを持参している。手洗いを遵守するためにも、ペーパーホルダーの設置を検討。ただ、必ずしも該当する患者が入室するわけではなく、ペーパー補充などの管理面の問題から、必要時に壁に取り付けられるよう、フックの取り付けを施設管理に依頼した。

## 3) 3 西病棟個室 (1 室) の陰圧化

麻疹や水痘に罹患した小児は、原則、陰圧個室管理となっているが、患児の特殊事情などから、病棟個室で管理が必要なこともしばしばある。そこで、小児科病棟の個室でも空気感染対策がとれるよう、換気扇を設置し、配管ダクトのダンパを閉じた。

## 4) 閉鎖式気管吸引キット「トラックケア」の導入。

安全かつ効果的な気管内吸引を目的とし、人工呼吸器使用患者 (成人)、まずは救命センターへ導入。

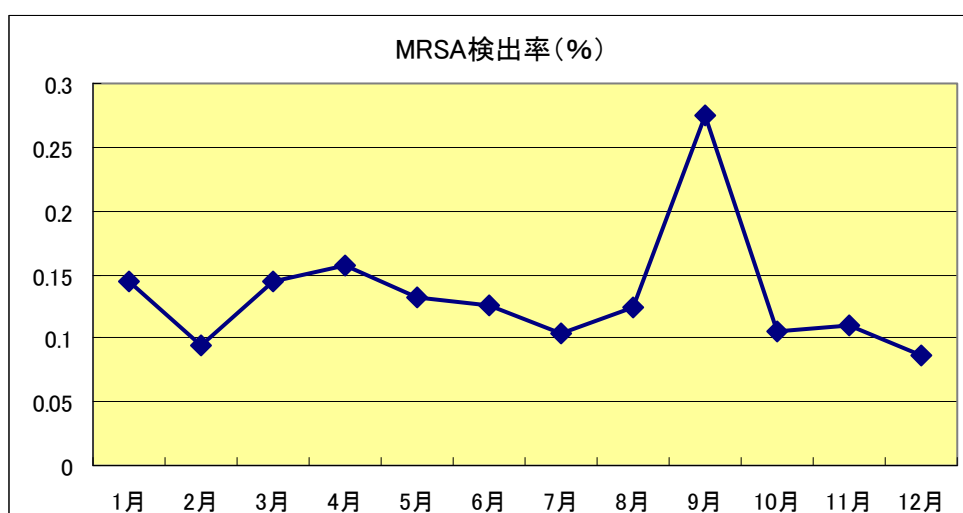
\*他部署においては、ICTが必要と認める患者が現れた場合に導入。

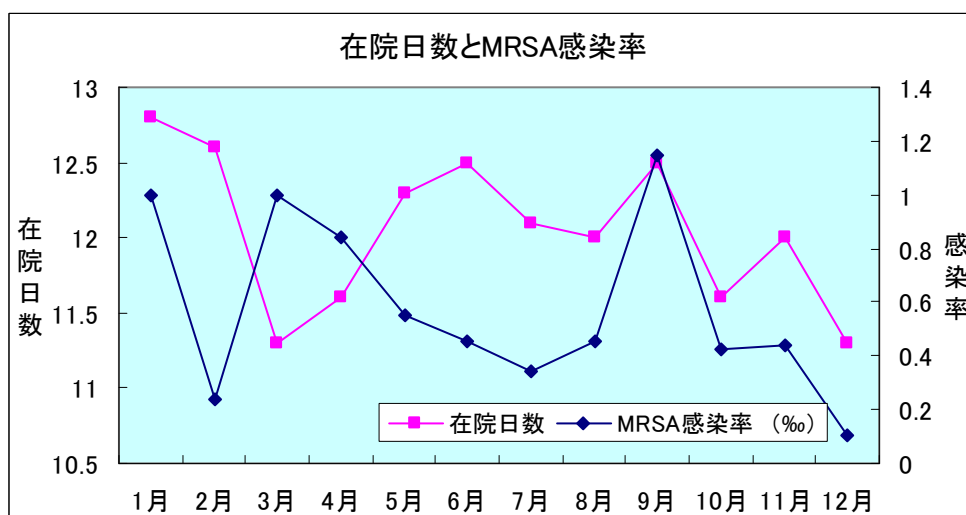
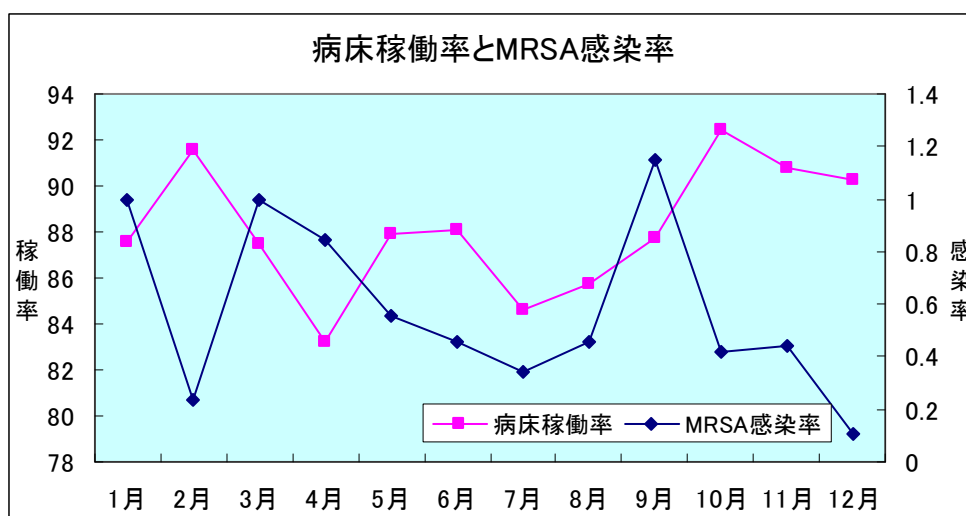
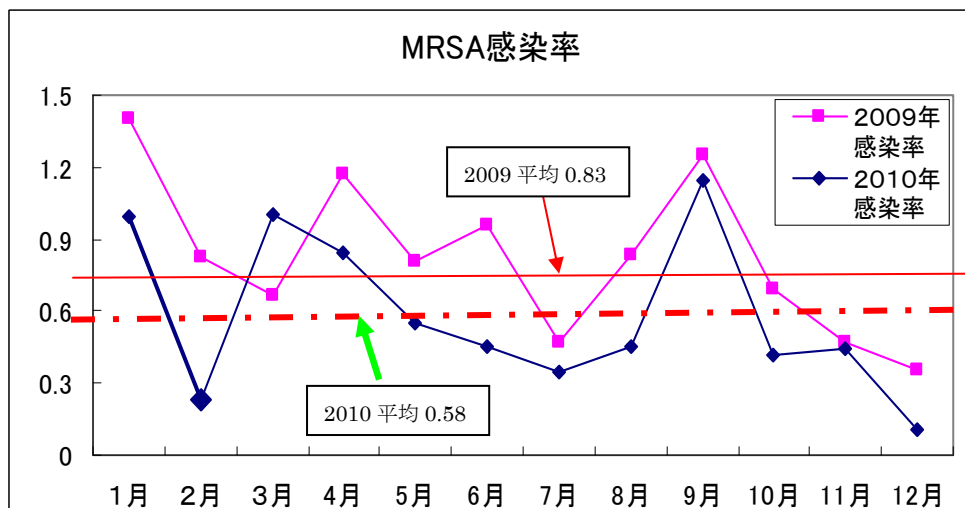
滅菌手袋⇒未滅菌手袋となり、人工呼吸器使用患者で、気管吸引にサクシオンカテーテルを頻繁に使用すると想定した場合にはコスト削減にもなる。

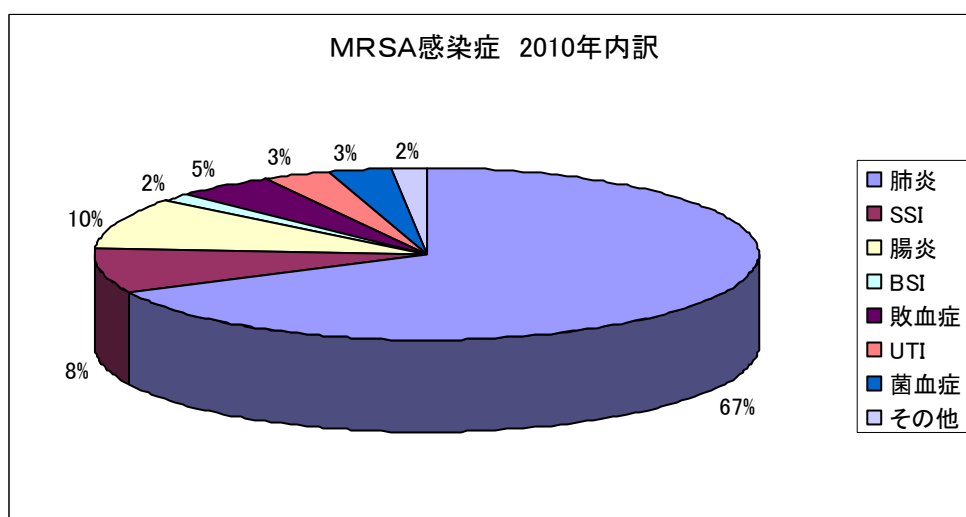
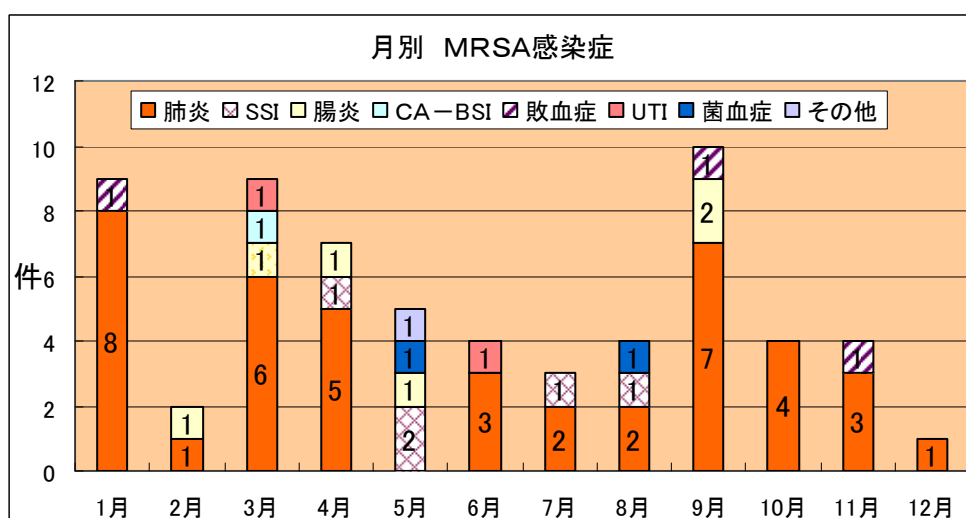
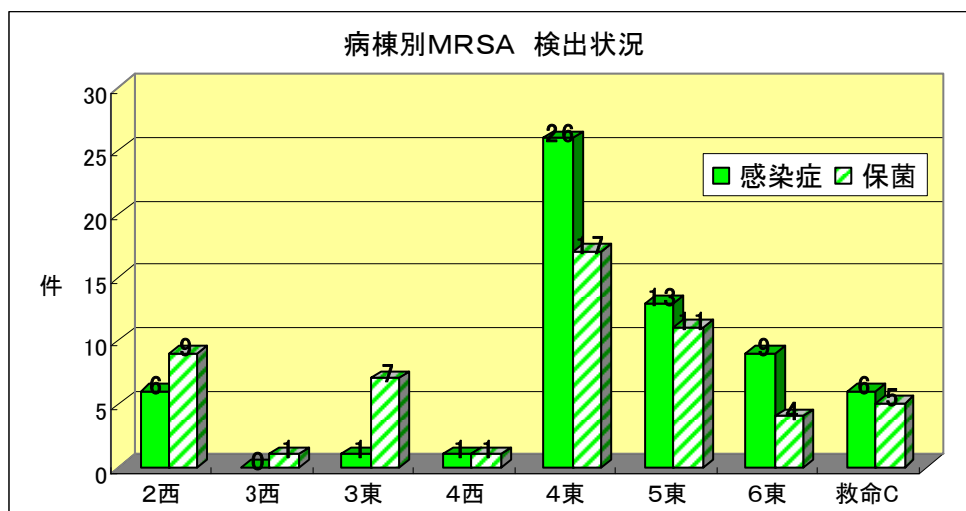
## 4. MRSA サーベイランス結果

### ① 2010 年 MRSA 感染率

#### 資料 1—①





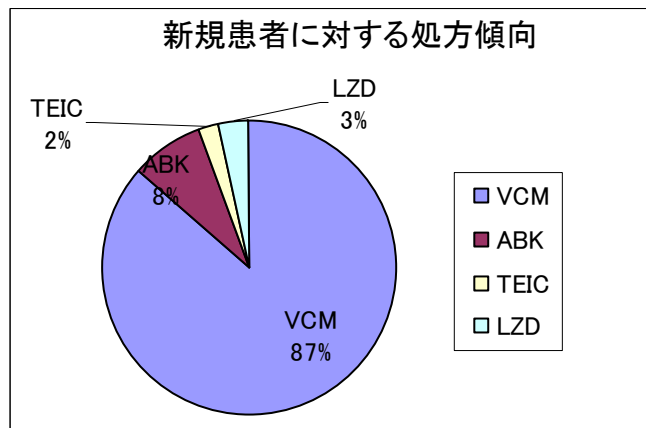
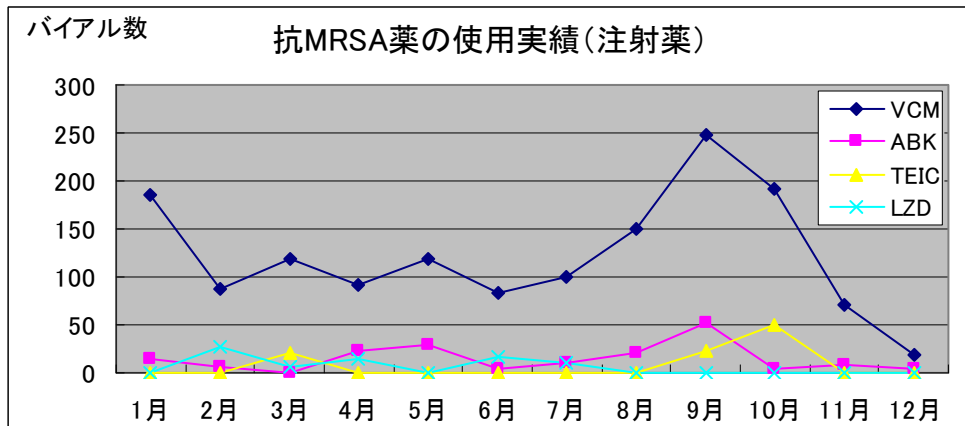
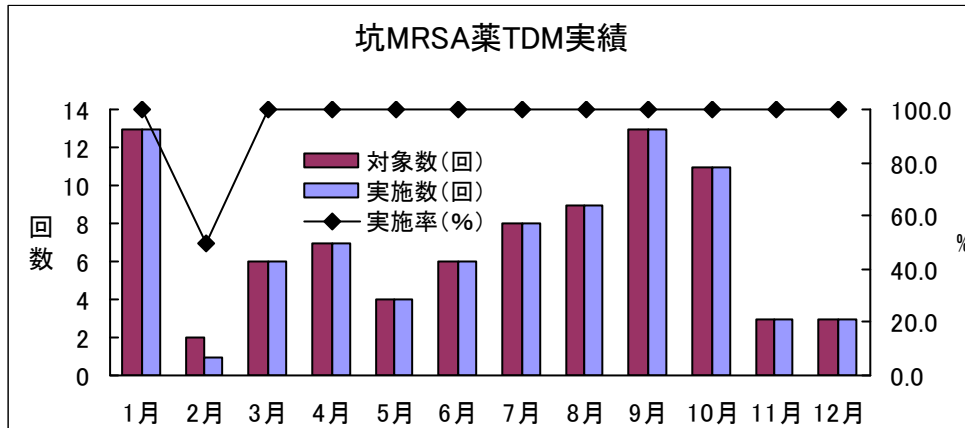


\*当院のサーベイランスは、延べ入院患者数を分母としているため、値が小さく出ている。JANIS（厚生労働省サーベイランス）と同じ総入院患者数を分母とすると、2010年（4 - 12月）4.55%となる。

参考：JANISの同時期 4.87%

② 抗MRSA薬使用実績 TDM実績、抗菌薬使用実績

資料1-② (薬剤部)

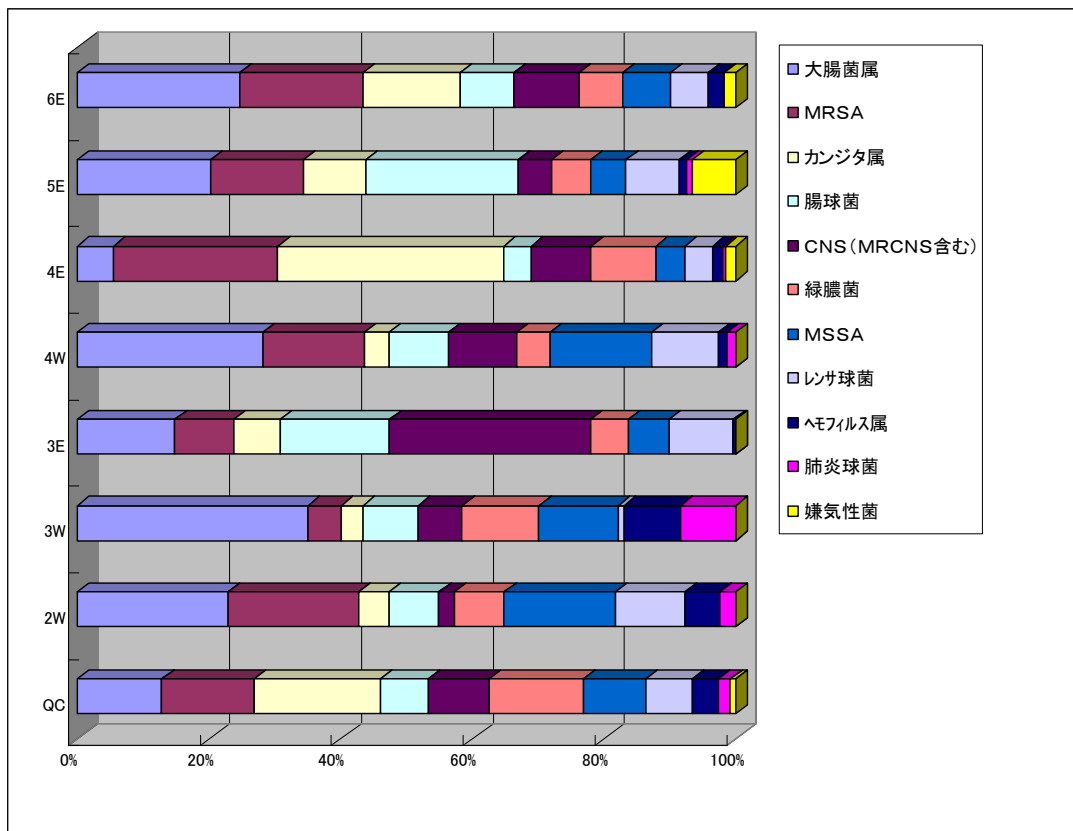


③ MRSA・緑膿菌・肺炎球菌の PCG 感受性率

資料 1 - ③ (細菌検査)

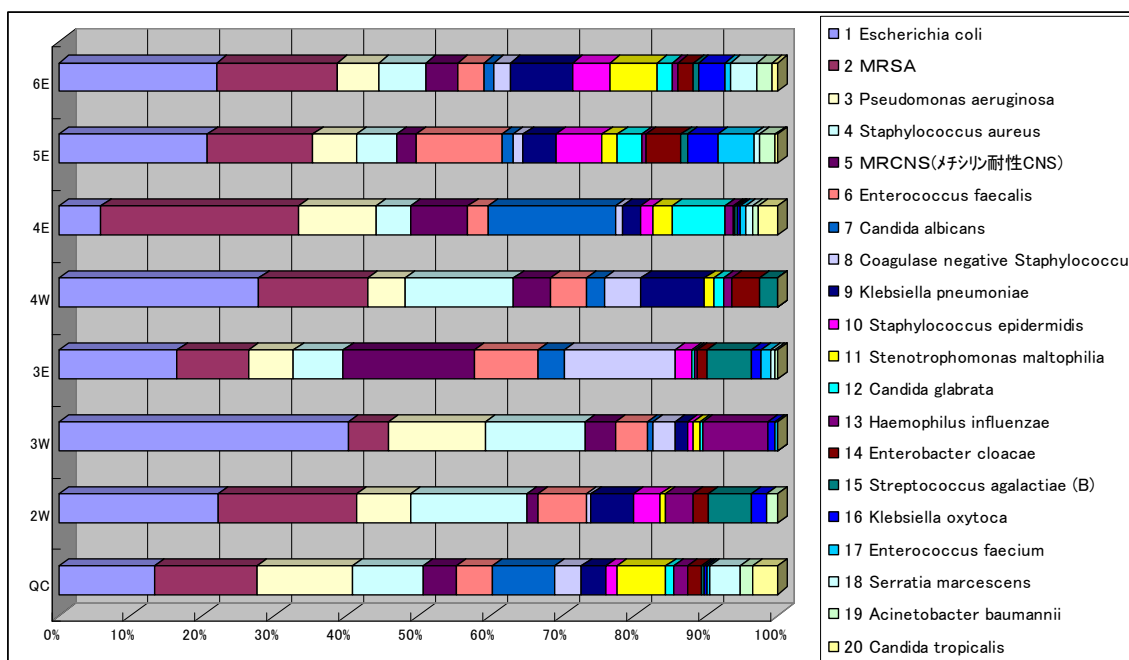
2010 年病棟別検出菌件数 \* 重複患者含む

菌名	QC	2W	3W	3E	4W	4E	5E	6E	合計
大腸菌属	35	30	93	50	22	17	68	30	345
MRSA	38	26	13	30	12	79	48	23	269
カンジタ属	52	6	9	24	3	108	32	18	252
腸球菌	20	10	22	56	7	13	78	10	216
CNS(MRCNS含む)	25	3	18	103	8	29	17	12	215
緑膿菌	39	10	31	19	4	31	20	8	162
MSSA	26	22	32	21	12	14	18	9	154
レンサ球菌	19	14	2	33	8	13	27	7	88
ヘモフィルス属	11	7	23	1	1	5	4	3	55
肺炎球菌	5	3	22	0	1	1	3	0	35
嫌気性菌	2	0	0	0	0	5	22	2	31



2010年病棟別検出菌上位20 \*重複患者含む

菌名	QC	2W	3W	3E	4W	4E	5E	6E	合計
1 Escherichia coli	35	30	93	50	22	17	68	30	345
2 MRSA	38	26	13	30	12	79	48	23	269
3 Pseudomonas aeruginosa	35	10	31	19	4	31	20	8	158
4 Staphylococcus aureus	26	22	32	21	12	14	18	9	154
5 MRCNS(メチリン耐性 CNS)	12	2	10	55	4	23	9	6	121
6 Enterococcus faecalis	13	9	10	27	4	8	39	5	115
7 Candida albicans	23	0	2	11	2	51	5	2	96
8 Coagulase negative Staphylococcus	10	1	7	47	4	3	5	3	80
9 Klebsiella pneumoniae	9	8	4	0	7	7	15	12	62
10 Staphylococcus epidermidis	4	5	2	7	0	5	21	7	51
11 Stenotrophomonas maltophilia	18	1	2	0	1	8	7	9	46
12 Candida glabrata	3	0	1	1	1	21	11	3	41
13 Haemophilus influenzae	5	5	21	1	1	3	2	1	39
14 Enterobacter cloacae	5	3	0	4	3	1	16	3	35
15 Streptococcus agalactiae (B)	1	8	0	19	2	1	3	1	35
16 Klebsiella oxytoca	1	3	2	4	0	1	14	5	30
17 Enterococcus faecium	1	0	1	4	0	2	16	1	25
18 Serratia marcescens	11	0	0	2	0	3	3	5	24
19 Acinetobacter baumannii	5	2	0	1	0	2	7	3	20
20 Candida tropicalis	9	0	0	0	0	8	1	1	19



MRSA 感受性率(入院)

	S	I	R	合計(件数)
PCG			100.00%	169
MPIPC			100.00%	169
SBT/ABPC			100.00%	169
CEZ			100.00%	169
CMZ			100.00%	169
IPM/CS			100.00%	169
LVFX	4.70%	10.00%	85.20%	169
CLDM	14.20%		85.80%	169
EM	14.70%		85.20%	169
FOM	31.90%		68.00%	169
MINO	68.00%		31.90%	169
GM	78.10%	6.50%	15.30%	169
AMK	99.40%	0.50%		169
ABK	100.00%			169
VCM	100.00%			169
TEIC	100.00%			169
LZD	100.00%			169
CP	100.00%			169
ST	100.00%			169



緑膿菌感受性率(入院)

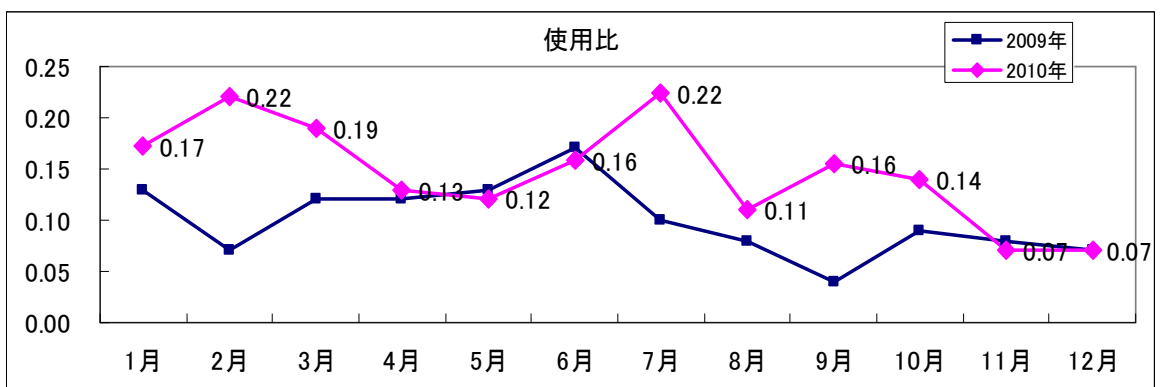
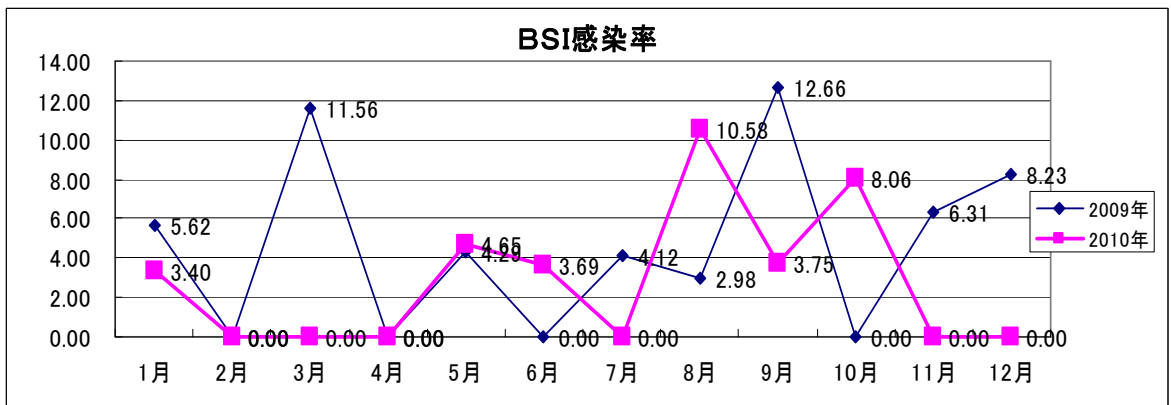
	S	I	R	合計(件数)
ABPC		1.00%	98.90%	96
SBT/ABPC	3.10%		96.80%	96
PIPC	89.40%		10.50%	95
CEZ			100.00%	97
CMZ			100.00%	97
CTX	4.20%		95.70%	95
CTM	1.00%		98.90%	98
FMOX		2.00%	97.90%	98
CFPM	87.60%	8.20%	4.10%	97
CAZ	88.40%	5.20%	6.30%	95
CP	2.00%	1.00%	96.80%	96
MINO	3.00%		96.90%	98
AZT	74.40%	14.80%	10.60%	94
CPFX	79.10%	6.20%	14.50%	96
LVFX	71.80%	9.30%	18.70%	96
IPM/CS	86.70%	3.00%	10.20%	98
MEPM	88.50%	6.20%	5.20%	96
GM	89.60%	8.20%	2.00%	97
AMK	95.80%	2.00%	2.00%	96

肺炎球菌感受性率

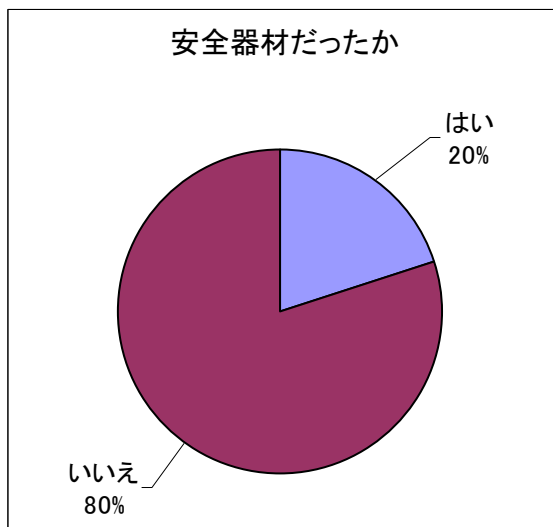
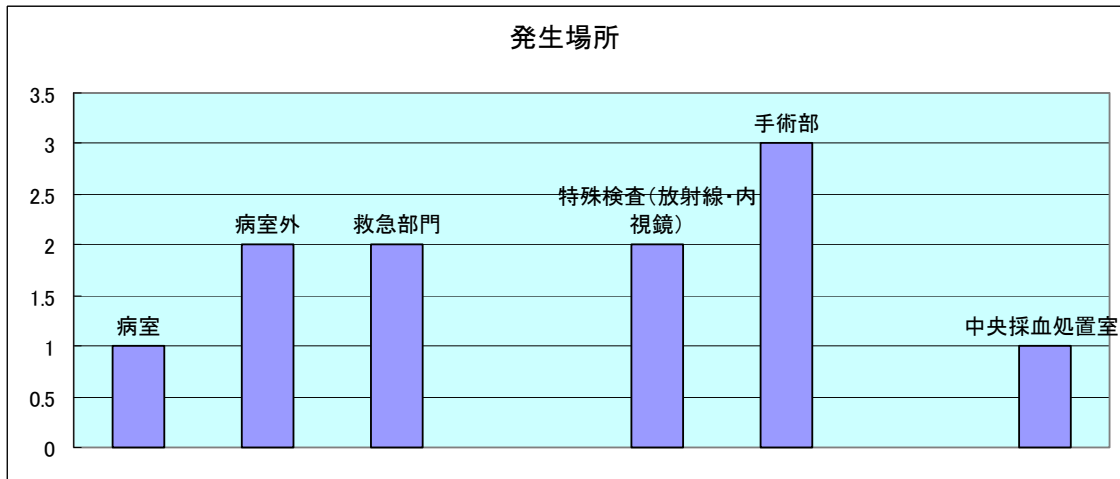
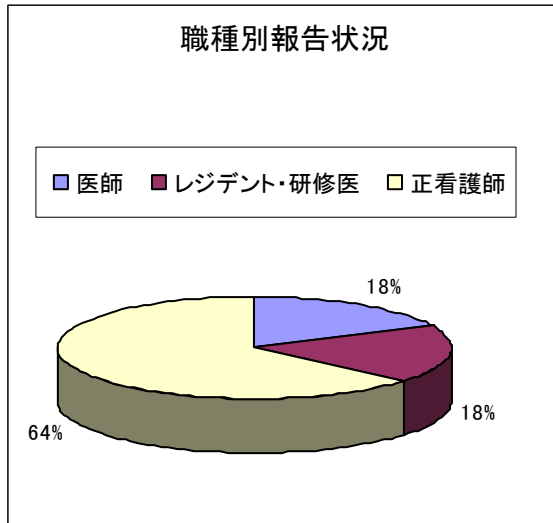
	S	I	R	合計(件数)
PCG	20.60%	54.60%	24.70%	247
AMPC	97.90%	1.60%	0.40%	244
CTX	87.80%	9.70%	2.40%	247
CTRX	92.30%	5.20%	2.40%	247
IPM/CS	79.30%	20.60%		247
MEPM	77.30%	17.00%	5.60%	247
EM	13.70%	0.80%	85.30%	225
TC	12.50%	3.20%	84.20%	247
CP	82.60%		17.30%	242
VCM	100.00%			247
OFLX	88.50%	9.30%	2.00%	245
SPFX	97.10%	0.80%	2.00%	247
LVFX	97.10%	2.00%	0.80%	247
ST	54.20%	37.60%	8.10%	247

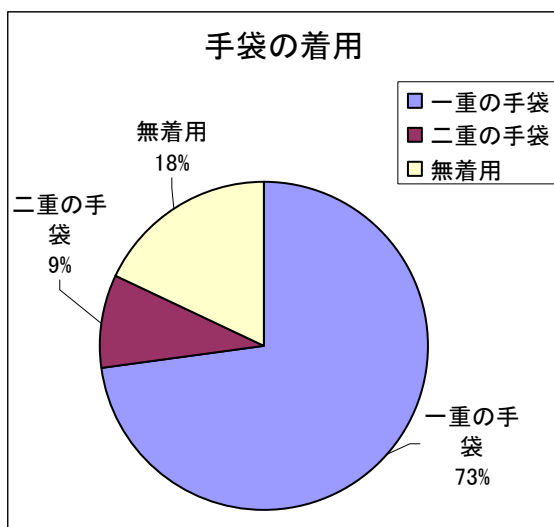
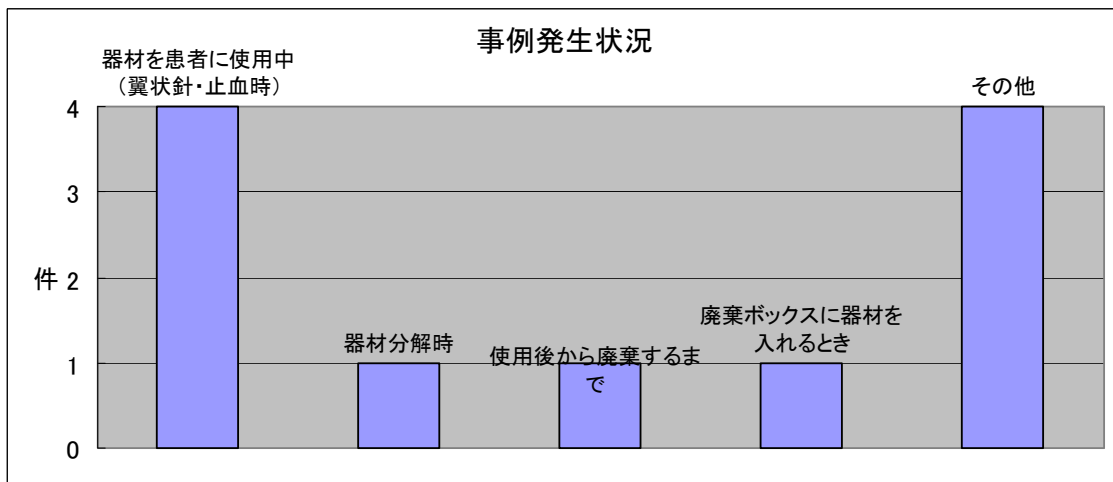
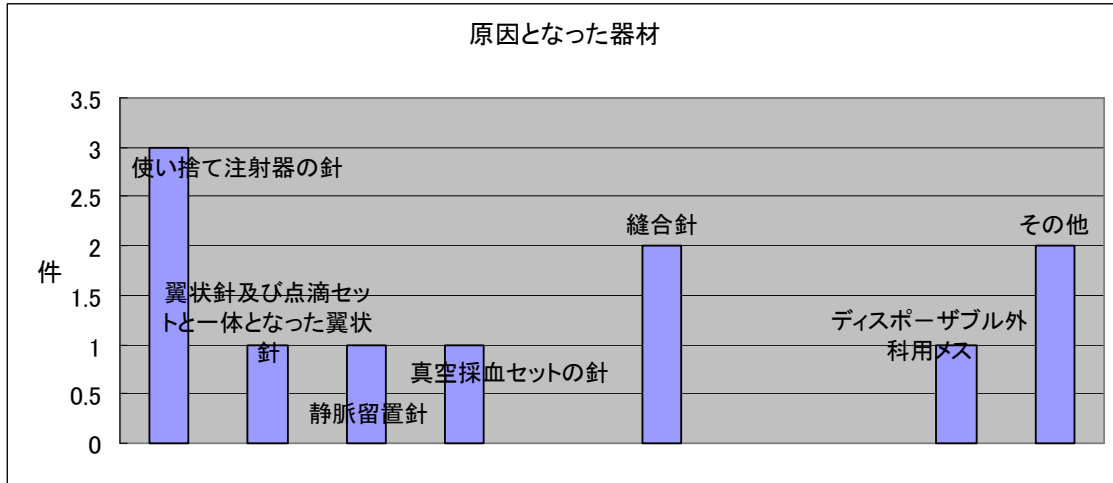
5. 血流感染サーベイランス 5階病棟

使用比は 0.15 (前年度 0.10) と高くなっているが、感染率は 2.84 (前年度 4.65) まで減少。



6. 針刺し・切創サーベイランスのまとめ（資料2）





2009年は17件でしたが、2010年は11件と減少しています。

中でも、病室での発生が7件⇒1件に減少しています。

これは、留置針や翼状針の安全装置作動が確実に実施されてきている、また廃棄BOXの携帯が遵守されてきていると考えられます。

安全器材以外の針刺しでは、廃棄BOXにあった針の跳ね返りや、メス刃、縫合針などがありました。

安全器材での針刺しは、「作動させたつもりが最後まで針が収納されておらず刺した」「採血後、安全装置を作動させている間に針が抜けてしまった」という報告でした。

手袋無着用は、2008年39%⇒2009年29%⇒2010年18%と減少傾向にあり、標準予防策としての血液等に触れる際の手袋着用が遵守されてきていると考えます。今回の無着用例も、他者から受けた切創での報告と、使用済み輸血バックの廃棄時という報告であり、少なくとも、針や鋭利器材を使用している場面での報告は、全て着用されていました。

7. 職員インフルエンザワクチン接種率 ( ) は 2009 年

職員接種率： 98.6% (93.4%)  
 看護師・介助士 97.8% (92.5%)  
 医師・研修医 98.9% (98.9%)  
 コメディカル 100% (93.1%)  
 事務職員 100% (92%)

\*2009 年は、新型インフルエンザ (H1N1) ワクチン接種の実施も重なり、季節性インフルエンザワクチン接種率が例年に比べ低下したが、2010 年は例年並に戻った。

8. 感染防止マニュアル改訂、作成

新規作成：胃腸炎発生時のフローシート

改訂：HB ワクチン接種 (追加接種延期)、下痢時の消毒薬濃度、  
 空気感染が疑われる小児の入院基準、空気予防策の実際、  
 接触予防策 (便の処理)、廃棄物マニュアル、職員結核健診、  
 感染症にかかる報告ルート、針刺しフローシート、感染症法対象疾患

9. Infection Control News の発行

毎月 1 回のサーベイランス情報の他、感染対策に関する情報、お知らせなど、感染症情報と共に適宜発信した。

10. 院内研修会開催

院内

月 日	対象者	主催	参加人数	テーマ	研修時間	担当者
1月27日	救急救命士	救急振興財団	3名	感染予防のために	60分	垣内
2月17日	全職員	院内感染防止委員会	44名	2009年度第2回 (Vol. 16) 院内感染防止講演会 「クロストリジウム・デフィシル関連下痢症」	60分	森谷、垣内
4月2日	新採研修医	感染対策室	9名	スタンダードプリコーション、職業感染対策、血管確保実	120分	垣内
4月2日	新採研修医	ICT	9名	感染症治療について	60分	油田
4月6日	新採研修医	ICT	9名	感染症薬剤治療効果 TDM他	60分	森
4月6日	新採研修医	ICT	9名	細菌検査実習 グラム染色、細菌培養結果 (14時～輸血終了後、～17時まで)	分	森外
4月9日	新入看護師	教育委員会	30名	スタンダードプリコーション、職業感染対策	150分	垣内
5月24日	清掃業者	感染対策室 施設管理	18名	清掃時・ごみ回収時に注意していただきたいこと ～血液などの取り扱い～	30分	垣内
7月26日	救急救命士	救急振興財団	1名	感染予防のために	60分	垣内
10月7日	全職員	ICT、 院内感染防止委員会	72名	2010年度第1回 (Vol. 17) 院内感染防止講演会 「知っとこ！今時のMRSA」	60分	油田、森、森 外 垣内

院外 研修講師派遣

月 日	対象者	主催	参加人数	テーマ	研修時間	担当者
5月29日	訪問看護ステーション 老人介護支援センター	東海地区感染管理 ネットワーク	約150名	感染管理認定看護師による感染対策セミナーin三 重 「介護における感染対策～基本から実践～」 明日から実践できる具体的な感染対策	45分	垣内 他、ICN2名 45分ずつ
6月13日	紀南地域の看護師	三重県看護協会	37名 (定員30名)	平成21年度パート1「基本的な感染管理の再確認研	90分	垣内
11月10日	潜在看護師	病院事業庁 看護部	8名	22年度助産師・看護師再チャレンジ研修	45分	垣内
11月30日	全職員	草の実ハピリ	38名	わかりやすい感染予防～劇団くさのみの実演で徹底学	75分	垣内 草の実 感染委 員

11. 感染症法による発症届 報告

2類感染症 結核： 18件 ↑ (前年度 8件)

3類感染症 O157： 3件

4類感染症 レジオネラ：3件

5類感染症：

後天性免疫不全症候群 2件

12. 研究会発表実績

三重県院内感染対策研究会 (9月5日)

感染症検査の現状

ICT 森 尚義

## 医療安全管理部 医療安全対策室

### 1 体制について

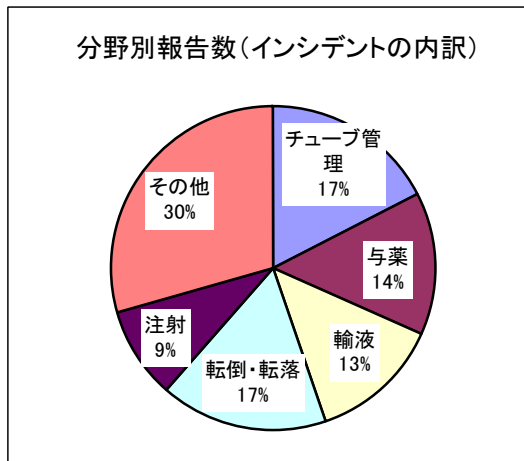
平成 22 年 4 月 1 日から、渉外担当として警察OBを 1 名採用し、院内暴力及び迷惑行為の防止のための活動を行っています。

医師（兼任）1 名、看護師 1 名、事務 2 名、渉外担当 1 名、業務補助 1 名という体制で、今後とも医療事故の防止・院内の安心安全確保に努めていきます。

### 2 平成 22 年度のインシデントについて

全職員から、日常の診療における「ヒヤリ」「ハッ」とした経験（インシデント：間違いには至らなかった、または患者さんに有害な結果が発生しなかったこと）や、結果的に患者さんにとって本来の治療目的に反した有害な事象（アクシデント：事故）が報告されます。また、アクシデントは、三重県の公表基準に従って公表しています。

○平成 22 年度の総数は以下のとおりです。



インシデント（ヒヤリ・ハット）報告  
：総計 930 件

#### 【注】

チューブ管理：点滴時のチューブの閉塞や抜去  
与薬：薬の量や種類、手渡し間違い  
輸液：点滴速度、点滴時間の間違い  
注射：注射量、注射時間の間違い  
転倒・転落：歩行時、排泄時の転倒やベッドからの転落

いずれも大事に至りませんでした。全ての報告は医療安全対策室で目を通し、事故防止対策に繋がっています。

### 3 平成 22 年度に実施した医療安全対策について

院内からのインシデント・アクシデント報告を受け、あるいは院外で起こった事故の情報を収集して、事故防止のための対策を立てています。平成 22 年度に実施した主な対策・取り組みは次のとおりです。

処方箋と注射薬の指差喚呼を徹底するための院内キャンペーンの実施

転倒・転落チームラウンドの実施

転倒転落防止のための薬剤使用ガイドラインの作成

これらの対策は、各部門の代表者からなるリスクマネジメント部会で決定し、毎月メールマガジンとして院内に配信して周知を図るなど、情報の共有に努めています。

### 4 研修会の実施について

毎年 2 回、全職員を対象に医療安全管理の研修・講習会を実施しています。

平成 22 年度は 6 月に、前年度に引き続き、院内スタッフによる「ヒヤリ・ハット劇」研

修を開催しました。劇を見て事故防止策や家族への説明について参加者が意見交換を行い、医療安全について改めて考えるよい機会となりました。

また、11月に院内暴力研修を開催しました。地元警察署の警察官を講師に招き、護身術や刺又の使用方法等の研修を行いました。実技中心の研修で、多数の参加者から高い評価を得ました。

第1回 平成22年6月18日

出演者 当院医師・看護師・薬剤師・事務職員

タイトル チームヒヤリ2 ジェネラル・ルージュの凱旋

あなたならどうする！医療事故発生時のシミュレーション

～事故発生から患者説明、謝罪まで～



第2回 平成22年11月22日

講師 日永交番所長 佐野博康氏、当院渉外室長（警察OB）

タイトル 院内暴力研修





## 5 院内暴力対策について

全国的に、患者やその家族から病院職員に対する暴力行為や、病院の運営を妨げる迷惑行為が問題となっています。これに対し当院では、医療安全対策室が中心となり対応に取り組んでいます。

平成 22 年度からは前述のとおり警察 OB を採用し、体制が強化されました。

また、警察 OB の意見を取り入れ、院内暴力対策マニュアルを改正しました。

平成 22 年度に医療安全対策室が報告を受けた暴力行為、迷惑行為は 8 件でした。警察に通報、相談等の対応を取ったものはありませんでした。

## (9) 学会・研究発表および論文発表実績

### 循環器科

#### <学会発表>

第 135 回日本循環器学会東海地方会 2010. 7. 13

心不全で発症した 左房粘液腫の一例

三重県立総合医療センター循環器科：宮木崇典 森木宣行 熊谷直人 櫻井正人  
竹内正喜 牧野 克俊

日本心血管インターベンション治療学会 第 24 回東海北陸地方会 2010. 10. 23

ステント留置後拡張の際に stent migration を来した一例

三重県立総合医療センター循環器科：櫻井正人 宮木崇典 松田明正 森木宣行  
竹内正喜 牧野克俊

第 136 回日本循環器学会東海地方会 2010. 11. 7

冠攣縮発作が原因と考えられた 心肺停止の 2 症例

三重県立総合医療センター循環器科：宮木崇典 櫻井正人 森木宣行 松田明正  
竹内正喜 牧野 克俊

### 呼吸器科

#### <学会地方会発表>

第 115 回日本結核病学会東海地方学会・第 97 回日本呼吸器学会東海地方学会

2010 年 6 月 26 日(土) - 27 日(日) 名古屋市中小企業振興会館 (吹上ホール)

・術後 2 年目に甲状腺転移をきたした肺癌の 1 例

○小川 勇来、都丸 敦史、前田 光、藤原 研太郎、中原 博紀、油田 尚総、  
吉田 正道

・イソシアネートによると考えられる過敏性肺臓炎の一例

○前田 光、都丸 敦史、藤原 研太郎、中原 博紀、油田 尚総、吉田 正道

・両側声帯麻痺を合併し治療に難渋した市中肺炎の 1 例

○藤原 研太郎、都丸 敦史、前田 光、中原 博紀、油田 尚総、吉田 正道

・喀痰検体から複数種類のブドウ球菌を検出した症例を通しての考察

○都丸 敦史、前田 光、藤原 研太郎、中原 博紀、油田 尚総、吉田 正道

第 116 回日本結核病学会東海地方学会・第 98 回日本呼吸器学会東海地方学会

2010 年 11 月 13 日(土) ~ 14 日(日) 三重県総合文化センター

・局所麻酔下胸腔鏡を併用した治療を行った膿胸症例の検討

○藤原 研太郎、都丸 敦史、前田 光、中原 博紀、油田 尚総、吉田 正道

・ 検診を契機に発見された肺吸虫症の1例

○前田 光、都丸 敦史、藤原 研太郎、中原 博紀、油田 尚総、吉田 正道

・ 検診で発見された肺胞蛋白症の1例

○都丸 敦史、前田 光、藤原 研太郎、中原 博紀、油田 尚総、吉田 正道

#### **第 40 回日本呼吸器内視鏡学会 中部支部会**

2010年 12月 4日（土）名古屋市立大学病院病棟・中央診療棟 3階大ホール

血糖管理悪化を契機に発症した気管支断端アスペルギルス症の1例

○藤原 研太郎、都丸 敦史、前田 光、中原 博紀、油田 尚総、吉田 正道

<研究会>

#### **第 108 回三重県胸部疾患症例検討会**

2010年 1月 12日（火）四日市都ホテル

出題 1. 浸潤影

○ 油田 尚総

#### **Chugai Lung Cancer Symposium in MIE**

2010. 3. 2(火) ベイシスカ 2階 ルーム A/B/C

アバスチンの効果が早期に確認された2例

○ 吉田 正道

#### **第 1 回北勢呼吸器疾患セミナー**

2010年 2月 11日（木）四日市都ホテル

当院での肺抗酸菌感染症の現状

○ 油田 尚総

#### **第 2 回北勢呼吸器疾患セミナー**

2010年 10月 8日（金）四日市都ホテル

剥離性間質性肺炎の1例

○ 藤原 研太郎

#### **第 19 回北勢呼吸器感染症研究会**

2010年 11月 5日（金）四日市ロワジールホテル

硫酸コリスチンを使用した多剤耐性緑膿菌肺炎の1例

○笹邊 淳、都丸 敦史、前田 光、藤原 研太郎、中原 博紀、油田 尚総、  
吉田 正道

<講演>

**三重県呼吸器教室**

2010年8月28日(土) 松阪市文化センター大ホール

肺癌について ○吉田 正道

**第297回北勢地区呼吸器談話会**

2010年1月18日(月) 四日市医師会館

最近経験した症例から ○吉田 正道

**第301回北勢地区呼吸器談話会**

2010年5月17日(月) 四日市医師会館

胸部画像読影 ○油田 尚総

**第303回北勢地区呼吸器談話会**

2010年7月26日(月) 四日市医師会館

最近経験した症例から ○吉田 正道

**Biologics Conferens**

9月16日(木) 四日市社会保険病院講堂

関節リウマチと肺障害

吉田 正道

**第305回北勢地区呼吸器談話会**

2010年10月18日(月) 四日市医師会館

MRSA感染症に対する考え方 ○油田 尚総

**消化器科**

**第212回日本内科学会東海地方会**

膵粘液性嚢胞腫瘍の1例

三重県立総合医療センター消化器科

川崎優也, 森谷勲, 為田雅彦, 大矢由美, 井上英和, 伊藤圭一, 高瀬幸次郎

**第212回日本内科学会東海地方会**

腎癌手術後9年で発見された膵体部転移の1例

三重県立総合医療センター消化器科

野口智史, 森谷勲, 為田雅彦, 大矢由美, 井上英和, 伊藤圭一, 高瀬幸次郎

### 第 52 回日本消化器病学会大会

S-1 により肝転移巣の縮小・石灰化を認め、原発巣切除が可能となった胃癌の一例

三重県立総合医療センター消化器科

森谷勲, 為田雅彦, 大矢由美, 伊藤圭一, 尾嶋英紀, 小西尚巳

### 第 52 回日本消化器病学会大会

胃蜂窩織炎の一例

三重県立総合医療センター消化器科

為田雅彦, 伊藤圭一, 森谷勲, 大矢由美, 高瀬幸次郎

### 第 13 回 三重臨床消化器研究会

当院における ESD の現況

三重県立総合医療センター消化器科

井上英和, 伊藤圭一, 大矢由美, 為田雅彦, 森谷勲, 高瀬幸次郎

### 第 256 回 肝胆膵疾患研究会

S-1 により肝転移巣の縮小・石灰化を認め、原発巣切除が可能となった胃癌の一例

三重県立総合医療センター消化器科

森谷勲, 為田雅彦, 大矢由美, 伊藤圭一, 高瀬幸次郎

### 第 259 回 肝胆膵疾患研究会

インターフェロン療法中止後に急性増悪を認めた慢性 B 型肝炎の 1 例

三重県立総合医療センター消化器科

為田雅彦, 森谷勲, 大矢由美, 井上英和, 伊藤圭一, 高瀬幸次郎

## 外科

<学会・研究会>

### 第 15 回日本緩和医療学会総会 東京 2010.6.19

中枢性制吐剤によって惹起された薬剤性アカシジアの 3 例

三重県立総合医療センター外科 緩和ケアチーム

渡部秀樹, 登内 仁, 沖上正人, 尾嶋英紀, 小西尚巳, 伊藤秀樹, 重盛千香, 池田哲也

### 第 23 回日本内視鏡外科学会総会 横浜 2010.10.19

上部消化管穿孔に対する腹腔鏡下手術の検討

三重県立総合医療センター外科

渡部秀樹, 登内 仁, 今岡裕基, 志村匡信, 近藤 哲, 横江 毅, 尾嶋英紀, 小西尚巳

伊藤秀樹, 池田哲也

**第 23 回日本内視鏡外科学会総会 横浜 2010.10.19**

腹腔鏡下直腸固定術(suture rectopexy)の経験

三重県立総合医療センター外科

小西尚巳, 登内仁, 池田哲也, 伊藤秀樹, 尾嶋英紀, 横江毅, 渡部秀樹, 近藤哲, 志村匡信, 今岡裕基

**平成 22 年度 日本医師会生涯教育講座 四日市 2010.10.24**

四日市地区の救急医療の現状について

三重県立総合医療センター 救命救急センター 外科

伊藤秀樹,

**四日市地域の救急医療講演会 四日市 2011.2.26**

四日市地域の救急医療の現状について

三重県立総合医療センター 救命救急センター 外科

伊藤秀樹,

**北勢地区消化器病学術講演会 四日市 2010.1.**

当院における大腸癌腹腔鏡下手術の現状

三重県立総合医療センター外科

尾嶋英紀, 池田哲也, 沖上正人, 渡部秀樹, 伊藤秀樹, 小西尚巳, 重盛千香, 登内 仁

**第 279 回東海外科学会 名古屋 2010.4.25**

術後 9 年目に孤立性転移をきたした腎癌隣転移の 1 例

三重県立総合医療センター外科

今岡裕基, 渡部秀樹, 沖上正人, 尾嶋英紀, 小西尚巳, 伊藤秀樹, 重盛千香, 池田哲也, 登内 仁

**第 274 回三重外科集談会 (第 1 回三重内視鏡外科研究会) 津 2010.6.13**

大腸癌腹腔鏡下手術における吻合方法の工夫 - hemi DST を用いて -

三重県立総合医療センター外科

尾嶋 英紀, 池田哲也, 志村匡信, 近藤 哲, 今岡裕基, 渡部秀樹, 横江 毅, 小西尚巳, 伊藤秀樹, 登内 仁

**第 274 回三重外科集談会 (第 1 回三重内視鏡外科研究会) 津 2010.6.13**

左腎門部平滑筋肉腫の 1 例

三重県立医療センター 外科、胸部外科\*

近藤哲, 伊藤秀樹, 今岡裕基, 志村匡信, 渡部秀樹, 横江毅, 尾嶋英紀, 小西尚巳, 重盛千香, 池田哲也, 登内仁, 近藤智昭\*

**第 65 回日本消化器外科学会総会 下関 2010.7.14-16**

当院における直腸癌に対する腹腔鏡下低位前方切除術の検討

三重県立総合医療センター外科

尾嶋英紀、池田哲也、沖上正人、渡部秀樹、小西尚巳、伊藤秀樹、登内 仁

**第 280 回東海外科学会 岐阜 2010.10.10**

食道癌肉腫の 1 例

三重県立総合医療センター外科

近藤哲、小西尚巳、今岡裕基、志村匡信、渡部秀樹、横江毅、尾嶋英紀、伊藤秀樹、重盛千香、池田哲也、登内仁

**第 65 回日本大腸肛門病学会 浜松 2010.11.26-27**

直腸癌に対し術前化学放射線療法後に腹腔鏡下低位前方切除術を施行した 2 例

三重県立総合医療センター外科

尾嶋 英紀、池田 哲也、渡部 秀樹、横江 毅、小西 尚巳、伊藤 秀樹、  
登内 仁

**第 275 回三重外科集談会 津 2010.12.5**

大腸癌、多発肝転移に対して cetuximab 投与後に肝転移巣根治的切除に至った 1 例

三重県立総合医療センター外科

志村匡信、尾嶋英紀、今岡裕基、近藤 哲、渡部秀樹、横江 毅、伊藤秀樹、  
小西尚巳、池田哲也、登内 仁

**第 274 回三重外科集談会（第 1 回三重内視鏡外科研究会） 津 2010.12.5**

座長 池田哲也

**論文**

**外科 72 巻 5 号 Page537-539(2010.05)**

大腸癌を合併した成人腸回転異常症の 1 例

三重県立総合医療センター外科

伊藤みのり、小西尚巳、伊藤秀樹、木下恒材、池田哲也、登内仁

**日本臨床外科学会雑誌 71 巻 2 号 Page437-440(2010.02)**

膿瘍形成を伴った小腸 GIST に対し腹腔鏡下切除を行った 1 例

三重県立総合医療センター外科

尾嶋英紀、池田哲也、渡部秀樹、伊藤秀樹、小西尚巳、登内仁

## 心臓血管外科・呼吸器外科

### <学会・研究会発表>

- 第 20 回 三重県呼吸不全研究会** 平成 22 年 2 月 6 日 津  
高度の閉塞性障害を有する肺癌に対する肺全摘の一例  
天白宏典、近藤智昭、井上健太郎、真栄城亮
- 第 96 回 中部肺癌学会** 平成 22 年 2 月 6 日 名古屋  
転移巣に扁平上皮癌成分と乳頭癌成分とを認めた甲状腺乳頭癌肺転移の 1 例  
鈴木仁之、高尾仁二、島本亮、新保秀人
- 第 8 回 東海手術手技研究会** 平成 22 年 2 月 16 日 名古屋  
手術適応に苦慮した bronchorrhea 合併肺腺癌の一例  
鈴木仁之、高尾仁二、島本亮
- 第 110 回 日本外科学会総会** 平成 22 年 4 月 8～10 日 名古屋  
肺悪性腫瘍に対する RFA 治療後の呼吸器外科手術例の検討  
鈴木仁之、高尾仁二、庄村心、樽川智人、島本亮、新保秀人
- 第 279 回 東海外科学会** 平成 22 年 4 月 25 日 名古屋  
腕頭静脈合併切除を要した縦隔原発 Epithelioid hemangioendothelioma の 1 手術例  
鈴木仁之、高尾仁二、島本亮、横山和人、梶本政樹、山本希誉仁、金光真治、高林新、  
下野高嗣、新保秀人
- 第 27 回 日本呼吸器外科学会総会** 平成 22 年 5 月 13～14 日 仙台  
当院における片肺全摘症例の検討  
天白宏典、井上健太郎、近藤智昭、真栄城亮  
高齢者原発性肺癌手術症例の検討  
井上健太郎、天白宏典、真栄城亮、近藤智昭  
転移巣に扁平上皮癌成分と乳頭癌成分とを認め、原発性肺癌との鑑別に苦慮した甲状腺  
乳頭癌肺転移の 1 例  
鈴木仁之、高尾仁二、島本亮、新保秀人
- 第 53 回 関西胸部外科学会** 平成 22 年 6 月 24～25 日 名古屋  
重症筋無力症に対する外科治療の検討  
鈴木仁之、高尾仁二、島本亮、横山和人、梶本政樹、山本希誉仁、金光真治、高林新、  
下野高嗣、新保秀人、樽川智人
- 第 97 回 日本呼吸器学会東海地方会** 平成 22 年 6 月 26～27 日 名古屋  
多発性内分泌腺腫(MEN) I 型に合併した肺非定型カルチノイドの 1 手術例  
鈴木仁之、高尾仁二、島本亮、新保秀人



- 第 39 回 呼吸器内視鏡中部支部会** 平成 22 年 7 月 10 日 名古屋  
腫瘍マーカーの上昇を伴った気管支閉塞による非腫瘍性閉塞性肺炎の一例  
鈴木仁之、高尾仁二、島本亮、新保秀人
- 第 93 回 東海心臓外科懇話会** 平成 22 年 9 月 25 日 四日市  
Bickerstaff 型脳幹脳炎に合併した急性肺塞栓症の 1 例  
井上健太郎、天白宏典、真栄城亮、近藤智昭
- 第 63 回 日本胸部外科学会総会** 平成 22 年 10 月 24～27 日 大阪  
重症筋無力症に対する外科治療—特に高齢者とステロイド前治療の検討  
鈴木仁之、高尾仁二、島本亮、小西康信、横山和人、梶本政樹、山本希誉仁、金光真治、高林新、下野高嗣、新保秀人、樽川智人
- 第 51 回 日本肺癌学会総会** 平成 22 年 11 月 3～4 日 広島  
乳癌術後の化学療法中に発症した Lambert-Eaton 筋無力症候群を伴う小細胞肺癌の 1 例  
天白宏典、井上健太郎、近藤智昭、真栄城亮  
再々発を来した Solitary fibrous tumor (SFT) の 1 例  
井上健太郎、天白宏典、真栄城亮、近藤智昭  
肺悪性腫瘍に対する RFA 治療後の手術例の検討  
鈴木仁之、高尾仁二、庄村心、樽川智人、島本亮、新保秀人

## 脳神経外科

- 東海頭蓋低外科** 3 月 13 日  
Extradural temporopolar approach が有用であった脳低動脈瘤の 2 例  
○ 亀井裕介、藤本昌志、岡田昌彦
- 第 76 回日本脳神経外科学会中部地方会** 4 月 3 日  
シートベルト外傷による椎骨動脈損傷の一例  
○ 藤本昌志、亀井裕介、岡田昌彦
- 第 12 回三重大阪脊髄外科シンポジウム** 6 月 4 日  
脊髄腫瘍術後に著名な頸椎後彎をきたした NF1 の一例  
○ 亀井裕介、藤本昌志、岡田昌彦 他
- 第 69 回日本脳神経外科学会総会** 10 月 28 日  
Extradural temporopolar approach が有用であった脳低動脈瘤の 2 例  
○ 亀井裕介、藤本昌志、岡田昌彦

市民公開講座 11月6日

出血性脳血管障害の治療

○亀井裕介

第66回脳神経外科集談会 11月12日

脊髄・脊椎手術における術中経頭蓋MEPモニタリングの使用経験

○藤本昌志、寺田美生、亀井裕介、岡田昌彦

第20回三重大学医学部脳神経外科同門会 12月12日

胸髄海綿状血管腫の一例

○寺田美生、藤本昌志、亀井裕介、岡田昌彦

第20回三重大学医学部脳神経外科同門会 12月12日

Anterior Petrosal Approachによる脳腫瘍切除 一術野拡大のために一

○亀井裕介、寺田美生、藤本昌志、岡田昌彦 他

## 小児科

<学会発表>

第248回日本小児科学会東海地方会（2010. 2. 14）

便秘を機に診断された大腸捻転症の2歳女児例

近藤 論

第249回日本小児科学会東海地方会（2010. 5. 16）

多飲、多尿を機に発見された原発性アルドステロン症の1例

三品 朋子

第250回日本小児科学会東海地方会（2010. 10. 31）

新型インフルエンザ感染に伴いマクロファージ活性化症候群を発症したと  
考えられる1例

山城 洋樹

第46回中部日本小児科学会（2010. 8. 22）

出血性ショック、硬膜下血腫を呈した先天性無フィブリノーゲン血症の1例

貝沼 圭吾

第46回日本周産期新生児医学会（2010. 7. 12）

甲状腺ホルモン投与後に晩期循環不全を呈した2例

杉山 謙二

#### 第148回三重県小児科医会

新型インフルエンザによる重症児（入院例）の検討

杉山 謙二

#### 第18回三重県胎児新生児研究会

新生児無呼吸発作の遷延した3例 簡易型アプノモニターの使用経験

杉山 謙二

#### 第326回北勢地区小児科臨床懇話会

心肺停止した14歳男児の1例

内菌 広匡

#### 第328回北勢地区小児科臨床懇話会

当院で精査した10例の尿路感染症の検討

鈴木 あゆみ

#### 第332回北勢地区小児科臨床懇話会

もやもや病の6歳女児例

西森 久史

#### 第334回北勢地区小児科臨床懇話会

硬膜下水腫を合併したGBS髄膜炎の1ヶ月女児例

中村 晴奈

#### 産婦人科

##### <学会発表・シンポジウム>

田中浩彦：広間膜内に発育する径10cm以上の子宮筋腫に対し腹腔鏡下手術を施行した3症例：第12回三重県産婦人科疾患治療研究会 2010. 2. 18. (津)

小林 巧、田中浩彦、吉田佳代、朝倉徹夫、谷口晴記：Chorangiosisの関与が疑われた胎児母体間輸血症候群の1例、第126回東海産婦人科学会、2010年3月14日、名古屋市

谷口 晴記，朝倉 徹夫，小林 巧，吉田 佳代，田中 浩彦：HIV感染患者にみられた外陰部尖圭コンジローマの2例，第62回日本産科婦人科学会、2010年4月23日～26日、東京

小林 巧、谷口晴記、田中浩彦、吉田佳代、朝倉徹夫：分娩後に子宮摘出を選択した4症例、第1回賢島周産期セミナー、2010年5月8日～9日、志摩市

吉田佳代、小林 巧、田中浩彦、朝倉徹夫、谷口晴記、三上芳喜：子宮内膜原発粘液性腺癌との鑑別を要した虫垂原発転移性子宮体部腫瘍の1例、第48回日本婦人科腫瘍学会、平成22年7月8日～10日、つくば市

田中浩彦、小林巧、吉田佳代、朝倉徹夫、谷口晴記：腹腔鏡下手術を施行した **dissecting leiomyoma** の1例：第50回日本産科婦人科内視鏡学会 2010.7.29-31（横浜）

吉田佳代、田中浩彦、小林 巧、朝倉徹夫、谷口晴記、三上芳喜：子宮内膜原発粘液性腺癌との鑑別を要した虫垂原発転移性子宮体部腫瘍の1例、第127回東海産婦人科学会、2010年9月12日、名古屋市

小林 巧：子宮全摘を選択した子宮内反症の1例、第7回 三重県生涯教育特別研修セミナー、2010.10.30（津）

上田あすか、森 尚義、藤原研太郎、谷口晴記：“治療の個別化”を重視した HAART 療法の実施（第2報）、第24回日本エイズ学会、2010年11月24日～26日、東京

森 尚義、上田あすか、谷口晴記：多剤耐性獲得患者への Darunavir と Raltegravir 併用療法に関する有効性・安全性・アドヒアランスの検討（第2報）、第24回日本エイズ学会、2010年11月24日～26日、東京

藤原研太郎、近藤 諭、杉山謙二、上田あすか、森 尚義、増田友紀、谷口晴記：特色ある当院の HIV 診療の現況、第24回日本エイズ学会、2010年11月24日～26日、東京

森 尚義、上田あすか、杉山謙二、谷口晴記：HIV 陽性妊娠に関する母子感染対策の薬学的検討、第24回日本エイズ学会、2010年11月24日～26日、東京

谷口晴記、塚原優己、大金美和、山田里佳、辻麻里子、渡邊英恵、源河いくみ、佐野貴子、山田由紀、井上孝実、内山正子、尾崎由和、蓮尾泰之、吉野直人、外川正生、喜多恒和、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一：「HIV 母子感染予防対策マニュアル」の変遷と第6版改訂について、第24回日本エイズ学会、2010年11月24日～26日、東京

#### <講演会等>

谷口晴記：今日から役立つ HIV の基礎知識—母子感染予防、2010 AIDS 文化フォーラム in 横浜、平成22年8月7日、横浜市

田中浩彦：内視鏡による子宮筋腫治療について：第9回南部病診連携の会 2010. 11.19.（四日市）

朝倉徹夫：子宮頸癌ワクチンについて：市民公開講座 2010.12.05(四日市)

### <座長>

座長：田中浩彦：ワークショップ「不妊と内視鏡手術－私が実践する妊孕性温存・回復手術－」、第12回東海産婦人科内視鏡懇話会 2010.10.16. (名古屋)

### <論文・著書>

谷口晴記：わが国の HIV 母子感染予防対策の現状について，病原微生物検出情報月報 (IASR), Vol. 31, 230-232:2010

谷口 晴記, 外川 正生, 喜多 恒和, 他：HIV 母子感染予防対策の成果・そして課題，日本エイズ学会誌 日本エイズ学会誌 12(2), 94-9, 2010

坂倉康文, 谷口晴記：越婢加朮湯が奏効した癌性胸水の1症例，漢方と診療，1(4)，251，2010

### 整形外科

#### <学会発表>

第17回東海関節鏡研究会 23年1月15日 名古屋市

遊離体症状を呈した膝関節 localized PVNS の1例

岡村 直樹, 松本 壽夫, 北尾 淳, 森本 剛司, 中川 太郎 病理：草野 五男

第4回東海人工関節研究会 23年1月22日 名古屋市

TKA 術後に発生した膝窩動脈血栓症の一例

北尾 淳, 松本 壽夫, 森本 剛司, 岡村 直樹, 中川 太郎

第114回中部日本整形外科災害外科学会 22年4月9日～10日 名古屋市

オスフェリオンを単独充填した脛骨 open wedge osteotomy

北尾 淳, 松本 壽夫, 森本 剛司, 岡村 直樹, 加藤 弘明

第2回 JOSKAS 22年7月2日～4日 沖縄県 宜野湾市

膝関節鏡検査による UKA の適応決定の有用性について

岡村 直樹, 松本 壽夫, 北尾 淳, 森本 剛司, 加藤 弘明, 牧野 祥典

#### <国内論文>

大腿骨コンポーネントが脱転した Oxford UKA の1例 東海関節

(1883-6798) 2巻 Page87-89 (2010.12)

オスフェリオンを単独充填した脛骨 open wedge osteotomy

北尾 淳, 松本 壽夫, 森本 剛司, 岡村 直樹, 加藤 弘明

中部日本整形外科災害外科学会雑誌, Vol.53(2010) No.5

pp.1399-1400

踵骨裂離骨折の1例（原著論文/症例報告）

牧野 祥典, 松本 壽夫, 北尾 淳, 森本 剛司, 岡村 直樹, 加藤 弘明  
東海整形外科外傷研究会誌（0915-2253）23 卷 Page81-83(2010.09)

FasT-Fix による半月板縫合術後再鏡視所見（原著論文）

北尾 淳, 松本 壽夫, 森本 剛司, 川村 豪伸, 村木 真  
JOSKAS(1884-8842)35 卷 1 号 Page122-123(2010.03)

## **泌尿器科**

### **<学会発表>**

#### **第 47 回 三重泌尿器科医会（1 月 24 日・津市）**

三重県立総合医療センター泌尿器科における手術統計（2009）  
栃木宏水、金井優博、松浦 浩、亀田晃司

## **麻酔科**

### **<学会発表>**

日本麻酔科学会 東海・北陸支部 第 8 回学術集会 平成 22 年 9 月 4 日 福井市  
予定帝王切開で新生児低血糖を防ぐための当院の試み  
三重県立総合医療センター麻酔科 木崎理絵、古橋一壽、川端広憲

## **中央放射線部**

### **<論文・演題・講演等>**

東海超音波研究会 2010/3/14 名古屋豊田第 2 ビル  
スキルス胃癌の 2 例  
安本 浩二

#### **第 12 回三重県超音波研究会 2010.7.11 三重大学医学部附属病院**

僧帽弁口へ陥入した左房粘液腫の一例  
伊藤 力

#### **第 17 回三重超音波研究会 循環器分科会（旧三重循環器超音波勉強会）**

2010.12.03 三重大学医学部 先端医科学教育研究棟 3F 第 2 講義室  
全身性エリテマトーデスに伴う 2 次性肺高血圧の一例  
田中洋幸

<講師>

中部超音波フォーラム 2010/3/22 名古屋 KX ビル  
頸動脈超音波  
安本 浩二

中部超音波フォーラム 2010/4/18 名古屋 KX ビル  
胆道系の超音波  
安本 浩二

津柵原地区研究会 2010/6/18 三重県立こころの医療センター  
甲状腺超音波検査  
安本 浩二

三重県放射線技師超音波研究会 2010/6/26 三重県立総合医療センター  
甲状腺超音波検査  
安本 浩二

中部超音波フォーラム 2010/08/29 金沢  
胆道系の超音波  
安本 浩二

中部超音波フォーラム 2010/9/23 名古屋 KX ビル  
胆道系の超音波  
安本 浩二

超音波検査学会第13回中部地方会 2010/10/31 名古屋第二赤十字病院  
1)記録画像とポイントをおさえたレポート作成  
2)胆道・膵臓の超音波検査  
安本 浩二

<座長>

第12回三重県超音波研究会 2010/7/11 三重大学医学部  
一般演題1「腹部・表在領域」  
安本 浩二

中部超音波フォーラム 2010/10/10 刈谷豊田総合病院  
5周年記念講演  
安本 浩二

## 中央検査部

### 第15回中部地区輸血検査研修会

静岡市立静岡病院 西館講堂 平成22年7月24日～25日

「三重県輸血療法委員会から見た施設連携」

小林章人

### 第49回中部医学検査学会

金沢都ホテル（石川県金沢市）平成22年9月18～19日

輸血検査研究班パネルディスカッション

「廃棄血削減の更なる努力」～中規模病院の立場で～（当院の活動取り組みについて）

小林章人

## 薬剤部

### <学会発表>

平成21年度厚生労働科学研究エイズ対策研究推進事業 研究成果等普及啓発事業

「HIV感染者に対するカウンセリング体制の現状と今後の課題」に関する研究成果発表  
会 平成22年2月6日 津

「感染者に対する三重県の心理社会的支援の歴史」

○森 尚義

第9回三重県院内感染対策研究会 平成22年9月15日 津

「感染症検査の現状」

○森 尚義

第24回日本エイズ学会学術集会 総会 平成22年11月24日 東京

「多剤耐性獲得患者への Darunavir と Raltegravir 併用療法に関する有効性・安全性・アドヒアランスの検討（第2報）」

○森 尚義、上田 あすか、谷口 晴記

第24回日本エイズ学会学術集会 総会 平成22年11月24日 東京

「“治療の個別化”を重視した HAART 療法の実施（第2報）」

○上田 あすか、森 尚義、谷口 晴記

第24回日本エイズ学会学術集会 総会 平成22年11月26日 東京

「HIV陽性妊娠に関する母子感染対策の薬学的検討」

○森 尚義、上田 あすか、杉山 謙二、谷口 晴記



## 日本病院薬剤師会東海ブロック日本薬学会東海支部合同学術大会 2010

平成 22 年 11 月 28 日 静岡

「アプレピタント採用にともなう当院薬剤部の取り組みについて」

○生川ひとみ 伊東貴利 西出詩歩 松井麻紗子 上田あすか 鎌田隆広

### 看護部

#### <研究発表>

平成 22 年度 三重県病院事業庁看護研究発表会 (H22 年 7 月 3 日)

1) 服部節子 (口演)

「意識障害のある患者の食べる意欲を振り返って」

2) 大川恵美、野本美代子、江川伸子、成井ふくよ (口演)

「A 病院における中途採用看護師の定着に影響を与える要因」

3) 伊藤久美、伊藤大輔、柳川清子、大川恵美 (口演)

「側臥位手術における褥瘡予防の取り組み ―マジックベッドを使用した例―」

4) 林 恵理 (口演)

「パーキンソン病患者における多発褥瘡のケア」

5) 長井万季、寺田大乃、鈴木由希子、江川伸子 (示説)

「臨地実習での指導体制の変更による看護師の意識への影響  
―病棟看護師の心構えの変化―」

### 日本摂食嚥下リハビリテーション学会

服部節子 (口演)

「嚥下訓練と胃瘻造設の併用により経口摂取が可能となった症例」

### 東海・北陸ストーマ研究会

野瀬聖子、長井万季、服部利恵、江川伸子 (口演)

「ストーマケアの受け入れに困難を感じた患者への介入」

#### <雑誌への投稿>

「主任&中堅+こころサポート」(日総研グループ) 2010 年 9・10 月号

5 東病棟 看護師長 江川伸子

看護師 吉川昌江

地域連携室 MSW 北林麻美

標題：病棟で実践する退院調整 ～TQM 活動による業務改善～

栄養グループ

第25回日本静脈経腸栄養学会 平成22年2月25・26日

「不溶性食物繊維を含むバッグ型栄養剤導入に伴う下痢抑制効果と経済効果」

秦 いづみ

### 3. 統計データ

#### (1) 患者統計

平成22年 診療科別外来延べ患者数

科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	679	366	474	484	582	471	573	620	539	471	495	567	6,321
外科	1,062	926	1,175	1,129	1,056	1,188	1,185	1,205	1,245	1,202	1,227	1,201	13,801
心臓血管外科	123	100	135	127	123	133	131	116	123	134	138	148	1,531
脳神経外科	436	441	484	508	426	460	485	455	454	489	477	452	5,567
小児科	1,164	1,080	1,472	1,313	1,234	1,201	1,208	1,137	1,083	1,116	1,183	1,342	14,533
産婦人科	1,226	1,171	1,343	1,242	1,100	1,342	1,158	1,232	1,282	1,237	1,198	1,230	14,761
整形外科	1,009	1,041	1,207	906	922	984	946	1,077	993	973	1,081	1,041	12,180
リハ科													0
皮膚科	51	51	60	355	343	452	570	563	471	497	436	448	4,297
泌尿器科	594	555	651	635	606	609	648	649	687	624	599	646	7,503
眼科													0
耳鼻咽喉科	390	426	490	503	381	390	393	340	397	396	413	439	4,958
精神科	431	432	491	477	428	449	490	473	460	447	461	452	5,491
放射線科	221	299	288	276	200	293	171	193	201	239	288	129	2,798
神経内科	311	326	370	327	281	367	360	315	336	355	289	336	3,973
循環器科	996	880	1,101	1,074	965	1,054	1,086	944	1,022	1,030	1,022	1,000	12,174
呼吸器科	976	864	1,000	1,033	1,038	1,022	1,008	1,019	1,004	1,057	963	979	11,963
消化器科	1,211	1,126	1,234	1,225	1,092	1,269	1,208	1,234	1,210	1,176	1,142	1,117	14,244
呼吸外科	39	50	60	50	47	50	33	49	50	38	50	41	557
合計	10,919	10,134	12,035	11,664	10,824	11,735	11,653	11,621	11,557	11,481	11,462	11,568	136,653

平成22年 診療科別入院延べ患者数

科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科													0
外科	1,066	1,162	1,116	1,096	1,171	1,158	1,145	1,246	1,278	1,474	1,161	990	14,063
心臓血管外科	165	190	194	179	224	189	236	287	181	220	284	210	2,559
脳神経外科	771	882	832	726	684	658	674	849	852	774	852	734	9,288
小児科	1,058	988	1,177	919	1,062	969	913	825	834	973	911	1,155	11,784
産婦人科	875	937	1,010	817	753	1,004	1,079	868	830	1,145	967	1,007	11,292
整形外科	1,000	856	1,128	846	680	883	880	843	824	942	883	989	10,754
リハ科													0
皮膚科				3	5		14	25	42	5	35	45	174
泌尿器科	278	305	301	271	340	290	280	278	239	255	265	231	3,333
眼科													0
耳鼻咽喉科	38	29	42	48	29	12	25	14	23	22	18	20	320
精神科													0
放射線科													0
神経内科	510	426	286	318	534	534	444	422	525	434	326	560	5,319
循環器科	836	704	694	675	781	656	742	698	551	724	769	796	8,626
呼吸器科	1,209	997	1,317	1,238	1,454	1,206	1,355	1,530	1,575	1,327	1,481	1,344	16,033
消化器科	1,029	866	766	978	1,224	1,058	865	797	852	1,038	938	1,087	11,498
呼吸外科	181	171	138	170	102	158	56	141	124	172	155	128	1,696
合計	9,016	8,513	9,001	8,284	9,043	8,775	8,708	8,823	8,730	9,505	9,045	9,296	106,739

入退院状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
新入院数	762	665	792	717	748	690	714	744	714	798	775	776	8,895
内紹介入院数	71	66	67	68	80	62	71	78	69	57	48	67	804
内救急入院数	161	102	148	133	156	97	126	146	134	167	140	170	1,680
転科入院数	22	29	22	27	19	30	19	23	22	33	32	35	313
退院数	651	691	795	714	721	717	721	728	683	835	734	870	8,860
内死亡退院数	59	42	42	31	33	30	34	28	22	48	54	36	459
転科退院数	21	29	22	27	19	30	18	23	22	32	32	35	310
平均在院日数	12.8	12.6	11.3	11.6	12.3	12.5	12.1	12.0	12.5	11.6	12.0	11.3	12.0

外来通院状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初診数	1,549	1,230	1,460	1,420	1,625	1,495	1,526	1,630	1,457	1,452	1,408	1,489	17,741
内紹介患者数	389	376	435	404	371	478	420	421	417	390	448	423	4,972
内救急患者数	979	599	741	676	1,006	645	859	825	739	799	717	945	9,530
平均通院日数	7.0	8.2	8.2	8.2	6.7	7.8	7.6	7.1	7.9	7.9	8.1	7.8	7.7

## (2) 図書蔵書状況

蔵書状況(2010年12月31日現在)

	図書	視聴覚資料	計
外国	204冊	0巻	204
国内	1248冊	83巻	1331
合計	1452冊	83巻	1535

雑誌受入タイトル数

外国雑誌	61タイトル
国内雑誌	87タイトル
計	148タイトル

A	AMERICAN HEART JOURNAL AMERICAN JOURNAL OF CARDIOLOGY AMERICAN JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY AMERICAN JOURNAL OF KIDNEY DISEASES AMERICAN JOURNAL OF NEURORADIOLOGY AMERICAN JOURNAL OF OBSTETRICS & GYNECOLOGY AMERICAN JOURNAL OF OPHTHALMOLOGY AMERICAN JOURNAL OF PSYCHIATRY AMERICAN JOURNAL OF RESPIRATORY AND CRITICAL CARE MEDICINE AMERICAN JOURNAL OF ROENTGENOLOGY AMERICAN JOURNAL OF SURGERY ANESTHESIOLOGY ANESTHESIA & ANALGESIA ANNALS OF INTERNAL MEDICINE ANNALS OF SURGERY ANNALS OF THORACIC SURGERY ARCHIVES OF DERMATOLOGY ARCHIVES OF DISEASE IN CHILDHOOD ARCHIVES OF NEUROLOGY ARCHIVES OF OPHTHALMOLOGY ARCHIVES OF OTOLARYNGOLOGY HEAD & NECK SURGERY ARTHROSCOPY AURIS NASUS LARYNX	117–160<1989–2010>+ 65–83 <1990–1999>/ 85–101<1990–2006>/ 43–48, 52<2004–2008>/ 17–23<1996–2002>/ 162–181<1990–1999>/ 109–140<1990–2005>/ 141–158 <1984–2001>/ 145–182<1992–2010>+ 144–195<1985–2010>+ 163–194, 195(1-3) <1992–2008>/ 62–113<1985–2010>+ 104–111<2007–2010>+ 102–153<1985–2010>+ 211–252<1990–2010>+ 58–90<1994–2010>+ 126–135<1990–1999>/ 65–81 <1990–1999>/ 59–60 <2002–2003>/ 97–117<1979–1999>/ 112–136<1994–2010>+ 26<2010–2010>+ 29–37<2002–2010>+
B	BJU INTERNATIONAL BRITISH JOURNAL OF SURGERY BRITISH JOURNAL OF UROLOGY (BJU)	73–106<1989–2010>+ 79–97<1992–2010>+ 69–82 <1992–1998>/
C	CHEST CIRCULATION CLINICAL INFECTIOUS DISEASES CLINICAL OBSTETRICS AND GYNECOLOGY CLINICAL ORTHOPAEDICS AND RELATED RESEARCH CURRENT OPINION IN ANESTHIOLOGY	127–138<2005–2010>+ 73–122<1986–2010>+ 34–39, 48–51 <2002–2010>+ 28–35<1985–1992>/ 418–467<2004–2009>/ 18–19<2005–2006>/
D	DIABETES : A JOURNAL OF THE AMERICAN DIABETES ASSOCIATION	38–53<1989–2004>/
G	GASTROENTEROLOGY GYNECOLOGIC ONCOLOGY	110–139<1996–2010>+ 60–95<1996–2004>/
H	HEPATOLOGY	31–40 <2000–2004>/
J	JOURNAL OF BONE AND JOINT SURGERY JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY JOURNAL OF HEPATOLOGY JOURNAL OF NEUROLOGY NEUROSURGERY & PSYCHIATRY JOURNAL OF NEUROSURGERY JOURNAL OF ORTHOPAEDICS SCIENCE JOURNAL OF PEDIATRICS JOURNAL OF THE AMERICAN COLLEGE OF CARDIOLOGY JOURNAL OF THORACIC AND CARDIOVASCULAR SURGERY JOURNAL OF UROLOGY	67–92<1985–2010>+ 20–21,26–28<2002–2010>+ 44–53<2006–2010>+ 72–77<2002–2006>/ 102–113<2005–2010>+ 13–15<2008–2010>+ 116–157<1990–2010>+ 27–50<1996–2007>/ 89–140<1985–2010>+ 143–184<1990–2010>+
N	NEUROLOGY NEUROLOGY IN PRACTICE NEW ENGLAND JOURNAL OF MEDICINE	64–75<2005–2010>+ 72–78<2002–2007>/ 327–347, 348(14–28), 349–363<1992–2010>+
L	LANCET LARYNGOSCOPE	335–336,342–344,347–352,354–375<1990–2010>+ 118–120<2008–2010>+
O	OBSTETRICS & GYNECOLOGY	95–116<2000–2010>+
P	PEDIATRICS PEDIATRIC CLINICS PEDIATRICS INTERNATIONAL POSTGRADUATE MEDICINE	98–126<1996–2010>+ 32–42 <1985–1995>/ 50–52<2008–2010>+ 115–117,118(1-5),119(1,2) <2004–2006>/
S	STROKE SURGERY, GYNECOLOGY & OBSTETRICS SURGICAL CLINICS SURGICAL NEUROLOGY	26–35<1995–2004>/ 160–161, 163–181<1985–1995>/ 65–81 <1985–2001>/ 45–62<1996–2004>/
U	UROLOGY	40–75<1992–2010>+

A	CLINICAL ENGINEERING CLINICAL NEUROSCIENCE CLINICAL PRACTICE CORONARY INTERVENTION HEART VIEW JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION LISA MEDICAL TECHNOLOGY MEDICINA NUTRITION CARE RAD FAN THE MEDICAL & TEST JOURNAL	17,20-21<2006-2010>+ 20-28<2002-2010>+ 23-25, 26(1-8) <2004-2007>/ 5-6<2009-2010>+ 13-14<2009-2010>+ 13-16<2004-2007>/ 9-14<2004-2006>/ 30-38<2002-2010>+ 45-47<2008-2010>+ 3<2010-2010>/ 3-8<2005-2010>/ <2002-2004> /
あ	医学のあゆみ 胃と腸 医業ジャーナル 栄養評価と治療	136-199<1983-2001>/ 20-42,45<1985-2010>/ 31-37 <1995-2001>/ 22-26<2005-2009>/
か	化学療法領域 画像診断 癌と化学療法 癌の臨床 救急医学 胸部外科 外科 外科診療 外科治療 血液・腫瘍科 月刊地域医学 月刊福祉 月刊薬事 検査と技術 呼吸器ケア 呼吸と循環	25-26<2009-2010>+ 30<2010-2010>+ 36-37<2009-2010>+ 31-45 <1985-1999>/ 30-34<2006-2010>+ 55-57<2002-2004>/ 47-72<1985-2010>+ 27-38 <1985-1996> / 52-85 <1985-2001>/ 24-39<1992-1999> / 13-24<1999-2010>+ 91,93 <2008-2010>+ 44-45 <2002-2003>/ 30-38<2002-2010>+ 5-6,8<2007-2010>+ 33-47<1985-1999>/
さ	作業療法ジャーナル 産科と婦人科 産婦人科治療 産婦人科の実際 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 周産期医学 手術 消化器外科 小児科 小児科診療 小児科臨床 小児外科 小児内科 神経内科 心身医学 診断と治療 整形・災害外科 整形外科 精神医学 精神科治療学 脊椎脊髄ジャーナル 総合リハビリテーション 総合臨床	44<2010-2010>+ 52-66 <1985-1999> / 55-101<1987-2010>+ 34-52<1985-2003>/ 63-82<1991-2010>+ 34-37<2004-2007>/ 61-64<2007-2010>+ 27-33<2004-2010>+ 26-32<1985-1991>/ 52-64 <1989-2001>/ 38-63<1985-2010>+ 13-23<1981-1991>/ 17-42<1985-2010>+ 56-72<2002-2010>+ 27-40 <1987-2000> / 73-98<1985-2010>+ 33-53<1990-2010>+ 36-42, 47-61<1985-2010>+ 33-41 <1991-1999>/ 16-25<2001-2010>+ 21-23 <2008-2010>+ 33-37<2005-2009>/ 34-56<1985-2007>/
た	地域連携network 地域連携入退院支援 治療 調剤と情報	1(6), 2, 3(1) <2009-2010>/ 3(2,3) <2010-2010>+ 72-83,92<1990-2010>+ 10-15<2004-2009>/
な	内科 日本医事新報 日本臨床 日本眼科紀要 日本胸部臨床 脳神経外科 脳神経外科速報 脳と神経	47-106<1981-2010>+ <1998-2004>/ 45-62<1987-2004>/ 42-44<1991-1993>/ 61-69<2002-2010>+ 33-34<2005-2006>/ 15-20<2005-2010>+ 37-47, 56-59<1985-2007>/
は	泌尿器外科 皮膚科の臨床 病院	13-23<2000-2010>+ 27-51<1985-2009>/ 63-66<2004-2007>/
ま	麻酔	44-48, 54-59<1995-2010>+
や	薬局	55-61<2004-2010>+
ら	理学療法 理学療法ジャーナル 臨床栄養 臨床画像 臨床眼科 臨床研修プラクティス 臨床外科 臨床整形外科 臨床精神医学 臨床脳波 臨床泌尿器科 臨床婦人科産科 臨床放射線 臨床麻酔 レジデントノート	24-27<2007-2010> + 43-44<2009-2010>+ 88-117<1996-2010>+ 18-26<2002-2010>+ 45-59<1991-2005>/ 7(1-3)<2010-2010>/ 40-61<1985-2006>/ 23-45<1988-2010>+ 14-33 <1985-2004>/ 27-33<1985-1991>/ 43-64<1989-2010> + 39-45, 62-64<1985-2010>+ 37-55<1992-2010>+ 31-34<2007-2010> + 5(10-12),6-12<2003-2010>+

A	BRAIN NURSING EB NURSING EMERGENCY CARE HEART NURSING NEONATAL CARE OPE NURSING	25-26<2009-2010>+ 1-7, 9<2001-2009>/ 22-23<2009-2010>+ 22-23<2009-2010>+ 23<2010-2010>+ 25<2010-2010>+
あ	医療経営最前線看護部マネジメント編	172-176<2003-2003>/
か	外来看護 看護 看護管理 看護技術 看護教育 がん看護 がん患者ケア がん患者と対症療法 がんサポート がんを治す完全ガイド 看護きろく 看護きろくと看護過程 看護展望 緩和医療学 緩和ケア	15(3-6),16<2010-2010>+ 45-61<1991-2009>/ 9(1),10(12),11(1,3),13(10,11),14-15,16(2)<1999-2006>/ 49(11-14),50-56<2003-2010>+ 35-50<1984-2009>/ 14-15<2009-2010>+ 1-4<2008-2010>+ 21<2010-2010>+ 3-6<2005-2008>/ 1<2004-2004>/ 11(7,11),12-17<2001-2008>/ 18(6), 19<2009-2009>/ 18-24,28-29<1987-2004>/ 11(3,4)<2009-2009>/ 20<2010-2010>+
さ	師長主任業務実践 重症集中ケア 消化器肝胆膵ケア 消化器外科ナーシング 小児看護 整形外科看護	288-290<2009-2009>/ 7(6), 8<2009-2009>/ 14(6), 15<2010-2010>+ 15<2010-2010>+ 33<2010-2010>+ 15<2010-2010>+
な	ナースマネージャー 日本看護学会集録 日本看護学会論文集	4-5,10(11,12),11-12 <2002-2010>+ <1995-1996>/ 29-31, 33-38<1999-2007>+
は	婦長主任新事情	148-176 <2002-2003>/
ら	臨床看護	22-35<1993-2009>/



## (3) 病歴管理室統計

疾病別・診療科別・性別・退院患者数(ICD小分類)

(H22.1.1~H22.12.31)

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
	総数	男女 4386 4265	0 0	582 395	79 42	234 164	697 644	0 1284	411 452	7 6	253 43	0 0	28 14	188 120	595 287	656 374	590 393	66 47
C0100	感染症及び寄生虫症	男女 186 181	0 0	2 3	0 0	0 0	107 103	0 8	0 0	2 0	1 0	0 0	1 0	4 2	6 4	32 31	29 28	2 0
C0101	原因の明示された腸管感染症	男女 31 31	0 0	1 0	0 0	0 0	41 26	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 3	1 2	0 0
C0102	感染症と推定される下痢及び胃腸炎	男女 56 79	0 0	0 1	0 0	0 0	35 48	0 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	2 2	6 9	12 16	0 0
C0103	呼吸器結核	男女 9 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	8 3	0 0	0 0
C0104	その他の結核	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0105	百日咳	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0106	敗血症	男女 11 12	0 0	0 1	0 0	0 0	0 1	0 1	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	2 2	6 5	2 2	0 0
C0107	その他の細菌性疾患	男女 10 18	0 0	1 0	0 0	0 0	3 8	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	5 10	0 0	1 0
C0108	梅毒	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0109	淋菌感染症	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0110	主として性的伝播様式をとるその他の感染	男女 4 9	0 0	0 0	0 0	0 0	0 9	4 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0111	ヘルペスウイルス感染症	男女 9 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0112	水痘	男女 1 2	0 0	0 0	0 0	0 0	1 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0113	帯状疱疹	男女 5 2	0 0	0 0	0 0	0 0	2 0	0 0	2 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0
C0114	麻疹	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0115	風疹	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0116	皮膚、粘膜の病変を伴うウイルス疾患	男女 8 7	0 0	0 0	0 0	0 0	8 7	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0117	B型ウイルス肝炎	男女 3 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	3 0	0 0
C0118	C型ウイルス肝炎	男女 8 6	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	8 6	0 0
C0119	その他のウイルス肝炎	男女 2 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 2	0 0
C0120	ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0121	ムンプス	男女 2 1	0 0	0 0	0 0	0 0	2 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0
C0122	その他のウイルス疾患	男女 11 10	0 0	0 0	0 0	0 0	6 9	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	3 1	1 0	0 0	1 0	0 0
C0123	皮膚糸状菌症	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0124	カンジタ症	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0125	その他の真菌症	男女 7 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	5 0	0 0	1 0
C0126	結核の続発・後遺症	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0127	その他の感染症及び寄生虫症の続発・後	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0128	その他の感染症及び寄生虫症	男女 0 2	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0
C0200	新生物	男女 964 871	0 0	223 202	0 0	22 15	1 1	0 428	6 4	1 0	204 28	0 0	4 2	4 1	4 0	215 54	246 109	34 27
C0201	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物	男女 1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0202	食道の悪性新生物	男女 50 1	0 0	31 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	19 0	0 0	0 0
C0203	胃の悪性新生物	男女 87 71	0 0	70 59	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	17 10	0 0	

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科	
C0204	結腸の悪性新生物	男女	67	0	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	16	0	
			43	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	
C0205	直腸S状結腸移行及び直腸の悪性新生物	男女	36	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	0	
			22	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	
C0206	肛門及び肛門管の悪性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0207	肝及び肝内胆管の悪性新生物	男女	82	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	78	0	
			51	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	
C0208	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物	男女	22	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	14	0	
			1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0209	膵の悪性新生物	男女	25	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	19	0
			11	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0
C0210	その他の消化器の悪性新生物	男女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0
			1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0211	咽頭の悪性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0212	気管、気管支及び肺の悪性新生物	男女	222	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	194	0	27	
			61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42	1	18	
C0213	その他の呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	男女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
			2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
C0214	骨及び関節軟骨の悪性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0215	皮膚の悪性黒色腫	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0216	その他の皮膚の悪性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0217	中皮及び軟部組織の悪性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			6	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
C0218	乳房の悪性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			56	0	56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0219	子宮頸部の悪性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			66	0	1	0	0	0	65	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0220	子宮体の悪性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			71	0	2	0	0	0	69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0221	子宮の部位不明の悪性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0222	卵巣の悪性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			57	0	1	0	0	0	56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0223	その他の女性性器の悪性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			7	0	1	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0224	前立腺の悪性新生物	男女	88	0	0	0	0	0	0	0	0	85	0	0	0	0	3	0	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0225	その他の男性性器の悪性新生物	男女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0226	腎及び腎盂の悪性新生物	男女	22	0	0	0	0	1	0	0	0	20	0	0	0	0	1	0	
			12	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	1	0	
C0227	膀胱の悪性新生物	男女	78	0	0	0	0	0	0	0	0	77	0	0	0	0	1	0	
			14	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	
C0228	その他の尿路の悪性新生物	男女	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
			3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	
C0229	眼及び付属器の悪性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0230	中枢神経系の悪性新生物	男女	6	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	
			3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0231	甲状腺の悪性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
C0232	ホジキン病	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0233	非ホジキンリンパ腫	男女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	
			2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	
C0234	白血病	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0235	その他のリンパ組織、造血組織の悪性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0236	その他の悪性新生物	男女	42	0	17	0	9	0	0	0	0	0	2	0	2	7	2	3	
			42	0	12	0	4	1	12	0	0	0	0	1	0	5	3	4	
C0237	子宮頸部の上皮内癌	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			17	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0238	その他の上皮内新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0239	皮膚の良性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C0240	乳房の良性新生物	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科	
C0241	子宮平滑筋腫	男女 111	0	0	0	0	0	111	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0242	卵巣の良性新生物	男女 80	0	0	0	0	0	80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0243	泌尿器の良性新生物	男女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
C0244	中枢神経系のその他の新生物	男女 7	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
C0245	その他の新生物	男女 116	0	11	0	2	0	0	6	0	18	0	2	0	0	1	74	2	0
C0300	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の	男女 23	0	3	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	3	3	2	0	0
C0301	鉄欠乏性貧血	男女 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
C0302	その他の貧血	男女 1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0303	出血性の病態並びにその他の血液、造血	男女 19	0	3	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0
C0304	免疫機構の障害	男女 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
C0400	内分泌、栄養及び代謝疾患	男女 69	0	2	0	0	24	0	1	0	0	0	0	2	17	12	11	0	0
C0401	甲状腺中毒症	男女 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0
C0402	甲状腺炎	男女 2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
C0403	その他の甲状腺障害	男女 1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0404	インスリン依存性糖尿病	男女 6	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
C0405	インスリン非依存性糖尿病	男女 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0
C0406	その他の糖尿病	男女 11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	3	0	0
C0407	卵巣機能障害	男女 5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0
C0408	栄養失調及びビタミン欠乏症	男女 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0
C0409	肥満症	男女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0410	高脂血症	男女 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0411	体液量減少	男女 0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0
C0412	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	男女 7	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0
C0500	精神及び行動の障害	男女 37	0	1	0	0	20	0	0	0	0	0	0	1	7	4	4	0	0
C0501	血管性及び詳細不明の痴呆	男女 10	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	2	0	1	0	0
C0502	アルコール使用による精神及び行動の障害	男女 36	0	1	0	0	32	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
C0503	その他の精神作用物質使用の精神、行動	男女 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
C0504	精神分裂病、分裂病及び妄想性障害	男女 3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
C0505	気分[感情]障害(躁うつ病を含む)	男女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0506	神経症性障害、ストレス及び身体表現性障	男女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0507	精神遅滞	男女 4	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
C0508	その他の精神及び行動の障害	男女 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C0600	神経系の疾患	男女 2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
C0601	髄膜炎	男女 31	0	0	0	3	37	0	4	0	0	0	0	28	6	5	7	0	0
C0602	中枢神経系の炎症性疾患	男女 5	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
C0603	脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	男女 3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C0604	パーキンソン病	男女 10 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	7 1	1 0	0 0	2 0	0 0
C0605	アルツハイマー病	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0606	多発性硬化症	男女 6 6	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 5	0 0	0 0	1 0	0 0
C0607	てんかん	男女 38 42	0 0	0 0	0 0	3 0	21 28	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	11 7	1 3	2 3	0 1	0 0
C0608	片頭痛及びその他の頭痛症候群	男女 1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0609	一過性脳虚血性発作及び関連性症候群	男女 12 7	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	11 3	0 1	0 0	0 3	0 0
C0610	睡眠障害	男女 4 3	0 0	0 0	0 0	0 0	3 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0
C0611	神経、神経根及び神経そのの障害	男女 10 10	0 0	0 0	0 0	1 1	1 1	0 0	4 3	0 0	0 0	0 0	0 0	3 5	0 0	1 0	0 0	0 0
C0612	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	男女 3 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	1 0	0 0	0 0
C0613	自律神経系の障害	男女 1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0614	その他の神経系の疾患	男女 24 14	0 0	0 0	0 0	5 2	3 2	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	8 5	3 2	4 1	0 2	0 0
C0700	眼及び付属器の疾患	男女 1 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 2	0 0	0 0	0 0	0 0
C0701	麦粒腫及びさん粒腫	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0702	涙器の障害	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0703	結膜炎	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0704	角膜炎	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0705	白内障	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0706	網膜剥離及び裂孔	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0707	網膜血管閉塞症	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0708	緑内障	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0709	斜視	男女 1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0710	屈折及び調節の障害	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0711	盲<失明>及び低視力	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0712	その他の眼及び付属器の疾患	男女 0 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2	0 0	0 0	0 0	0 0
C0800	耳及び乳様突起の疾患	男女 12 15	0 0	0 0	0 0	0 0	4 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 4	3 5	1 0	3 5	0 1	0 0
C0801	外耳炎	男女 1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0802	耳垢栓塞	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0803	その他の外耳疾患	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0804	中耳炎	男女 2 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0805	耳管炎	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0806	耳管閉塞	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0807	中耳真珠腫	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0808	その他の中耳及び乳様突起の疾患	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0809	メニエール病	男女 1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0
C0810	中枢性めまい	男女 1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0
C0811	その他の内耳疾患	男女 6 15	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 4	3 5	0 0	2 5	0 1	0 0
C0812	難聴	男女 1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C0813	その他の耳疾患	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0900	循環器系の疾患	男女 825 449	0 0	7 2	73 34	99 82	6 5	0 3	1 2	0 0	0 0	0 0	0 0	102 68	488 218	23 22	24 13	2 0
C0901	本態性高血圧	男女 1 1	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0
C0902	高血圧性心疾患	男女 4 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	3 1	1 0	0 0	0 0
C0903	高血圧性腎疾患	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0904	高血圧性心腎疾患	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0905	二次性高血圧症	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0906	狭心症	男女 205 62	0 0	0 0	7 7	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	198 55	0 1	0 0	0 0
C0907	急性心筋梗塞	男女 62 11	0 0	0 0	5 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	56 9	1 2	0 0	0 0
C0908	冠動脈硬化症	男女 2 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 0	0 0	0 0	0 0
C0909	陳旧性心筋梗塞	男女 49 8	0 0	0 0	2 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	47 8	0 0	0 0	0 0
C0910	その他の虚血性心疾患	男女 7 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	5 1	0 0	2 0	0 0
C0911	慢性リウマチ性心疾患	男女 2 2	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 1	0 0	0 0	0 0
C0912	慢性非リウマチ性心臓疾患	男女 14 12	0 0	0 0	10 4	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	4 8	0 0	0 0	0 0
C0913	心筋症	男女 7 1	0 0	0 0	0 0	0 0	2 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	5 1	0 0	0 0	0 0
C0914	不整脈及び伝導障害	男女 29 35	0 0	0 0	0 0	0 1	3 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	18 30	4 1	3 3	1 0
C0915	心不全	男女 104 85	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	96 76	7 7	1 1	0 0
C0916	その他の心疾患	男女 4 2	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	3 2	0 0	0 0	0 0
C0917	くも膜下出血	男女 10 19	0 0	0 0	0 0	10 17	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 1	0 0	0 0	0 0
C0918	脳内出血	男女 55 51	0 0	0 0	0 0	48 43	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 1	3 6	3 1	0 0
C0919	脳梗塞	男女 115 81	0 0	1 0	0 8	0 6	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	97 62	4 5	4 6	1 2	0 0
C0920	脳動脈硬化	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0921	その他の脳血管疾患	男女 32 17	0 0	0 0	0 15	29 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2	2 0	0 0	0 1	0 0	0 0
C0922	肺塞栓症	男女 3 8	0 0	0 0	1 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 7	1 0	0 0	0 0
C0923	動脈硬化	男女 25 5	0 0	0 0	5 1	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	20 3	0 0	0 0	0 0
C0924	大動脈瘤及び解離	男女 49 19	0 0	0 0	31 9	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2	0 8	17 0	1 0	0 0	0 0
C0925	レイノー症候群	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0926	動脈の塞栓症及び血栓症	男女 1 6	0 0	0 0	1 5	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0927	その他の動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	男女 0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0928	静脈炎、静脈の塞栓症及び血栓症	男女 6 5	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	5 2	1 0	0 1	0 0
C0929	下肢の静脈瘤	男女 9 7	0 0	0 0	9 7	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0930	痔核	男女 5 1	0 0	5 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
C0931	食道静脈瘤	男女 13 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	13 3	0 0
C0932	低血圧症	男女 4 1	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 0	1 0	0 0	0 0	1 0
C0933	その他の循環器系の疾患	男女 7 6	0 0	1 0	0 0	4 1	2 0	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	0 1	0 0	0 0	0 2	0 0	0 0
C1000	呼吸器系の疾患	男女 708 393	0 0	8 0	0 0	0 286	0 194	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0	21 8	3 2	36 16	313 158	17 3	24 11
C1001	急性鼻咽喉炎	男女 6 6	0 0	0 0	0 0	0 6	0 6	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C1002	急性副鼻腔炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1003	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	21	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0
		22	0	0	0	0	18	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0
C1004	急性喉頭炎及び気管炎	6	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
C1005	その他の急性上気道感染症	11	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0
C1006	インフルエンザ	6	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
C1007	肺炎	280	0	5	0	0	63	0	0	0	0	0	0	0	24	185	3	0
		143	0	0	0	0	42	0	0	0	0	0	0	0	9	92	0	0
C1008	急性気管支炎	77	0	0	0	0	73	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0
		79	0	0	0	0	79	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1009	急性細気管支炎	29	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		16	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1010	アレルギー性鼻炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1011	慢性副鼻腔炎	5	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
C1012	その他の鼻及び副鼻腔の疾患	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1013	扁桃及びアデノイドの慢性疾患	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1014	その他の上気道の疾患	8	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0
		4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0
C1015	急性、慢性と明示されない気管支炎	7	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
		7	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0
C1016	慢性閉塞性肺疾患	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	30	0	1
		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
C1017	喘息	66	0	0	0	0	55	0	0	0	0	0	0	0	1	10	0	0
		34	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	1	16	0	0
C1018	気管支拡張症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
C1019	じん肺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1020	間質性肺疾患	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	1	0
		13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	12	0	0	0
C1021	気胸	53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	1	17
		10	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	4
C1022	その他の呼吸器系の疾患	62	0	3	0	0	5	0	0	0	0	0	2	6	33	7	6	6
		37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	24	3	7	7
C1100	消化器系の疾患	505	0	236	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	7	10	235	0
		335	0	123	0	0	11	7	1	0	1	0	0	0	1	6	185	0
C1101	う蝕	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1102	歯肉炎及び歯周疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1103	その他の菌及び菌の支持組織の障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1104	口内炎及び関連疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1105	その他の口腔、唾液腺及び顎の疾患	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		29	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	26	0
C1106	胃潰瘍	18	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0
		15	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0
C1107	十二指腸潰瘍	3	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1108	部位不明の消化性潰瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1109	胃炎及び十二指腸炎	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
C1110	その他の食道、胃及び十二指腸の疾患	12	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	8	0
		8	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0
C1111	虫垂の疾患	41	0	35	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
		35	0	29	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
C1112	鼠径ヘルニア	70	0	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		20	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1113	その他のヘルニア	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1114	クローン病	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1115	潰瘍性大腸炎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科	
C1116	腸閉塞	男女	80	0	36	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	1	35	0
		男女	53	0	19	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	27
C1117	過敏性腸症候群	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1118	便秘	男女	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	6	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
C1119	裂肛及び痔瘻	男女	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1120	その他の胃腸の疾患	男女	48	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	0
		男女	51	0	14	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	35
C1121	腹膜の疾患	男女	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	7	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	3
C1122	アルコール性肝疾患	男女	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
		男女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
C1123	慢性肝炎	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1124	肝硬変	男女	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0
		男女	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
C1125	その他の肝疾患	男女	34	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	3	27	0
		男女	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0
C1126	胆石症	男女	77	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	35	0
		男女	48	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0
C1127	胆のう炎	男女	8	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
		男女	10	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0
C1128	急性膵炎	男女	13	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0
		男女	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0
C1129	慢性膵炎	男女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
		男女	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1130	その他の膵疾患	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1131	その他の消化器系の疾患	男女	41	0	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	30	0
		男女	39	0	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	33	0
C1200	皮膚及び皮下組織の疾患	男女	26	0	4	0	0	8	0	5	3	0	0	1	0	1	3	1	0
		男女	26	0	1	0	0	4	4	4	1	0	0	0	1	1	7	2	1
C1201	皮膚及び皮下組織の感染症	男女	15	0	4	0	0	4	0	3	1	0	0	0	1	1	1	1	0
		男女	19	0	0	0	0	4	4	2	1	0	0	0	1	1	5	0	1
C1202	アトピー性皮膚炎	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1203	接触皮膚炎	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1204	その他の皮膚炎及び蕁麻疹	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
C1205	幹せん及びその他の丘疹落せつ性障害	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1206	じんま疹	男女	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1207	爪の障害	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1208	脱毛症	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1209	ざ瘡	男女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1210	色素異常症	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1211	うおのめ及びべんち	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1212	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	男女	7	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	1	0	0	2	0	0
		男女	6	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	2	0
C1300	筋骨格系及び結合組織の疾患	男女	159	0	4	2	31	12	0	93	0	0	0	5	2	6	4	0	
		男女	184	0	1	0	25	17	2	123	0	0	0	4	5	4	3	0	
C1301	慢性関節リウマチ	男女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
		男女	4	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	
C1302	痛風	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
C1303	その他の炎症性多発性関節障害	男女	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		男女	13	0	0	0	0	8	0	2	0	0	0	0	1	1	1	0	
C1304	関節症	男女	23	0	0	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	
		男女	58	0	0	0	0	0	0	58	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1305	四肢の後天性変形	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		男女	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0		
C1306	膝内障	男女	23	0	0	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	
		男女	31	0	0	0	0	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0		
C1307	関節痛	男女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科	
C1308	その他の関節障害	8	0	0	0	0	1	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1309	全身性エリテマトーデス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1310	乾燥症候群	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
C1311	ベーチェット病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1312	その他の全身性結合組織障害	18	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	3	1	4	0	0	
		13	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	
C1313	脊椎障害	35	0	1	0	27	0	0	5	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0
		21	0	0	0	17	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	
C1314	椎間板障害	15	0	0	1	2	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		7	0	0	0	3	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1315	頸腕症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1316	腰痛症及び坐骨神経痛	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		3	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1317	その他の背部痛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1318	その他の脊柱障害	3	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		5	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1319	軟部組織障害	12	0	1	1	0	0	0	7	0	0	0	0	1	0	1	1	0	
		10	0	1	0	0	0	0	7	0	0	0	0	1	1	0	0	0	
C1320	肩の傷害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1321	骨粗しょう症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1322	その他の骨の密度及び構造の障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1323	骨髄炎	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1324	若年性骨軟骨症	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1325	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	11	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		12	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
C1400	尿路器系の疾患	93	0	4	1	1	10	0	0	0	43	0	0	3	11	11	9	0	
		342	0	4	2	0	10	230	0	0	13	0	0	2	10	44	27	0	
C1401	急性及び急速進行性腎炎症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
C1402	ネフローゼ症候群	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1403	その他の糸球体疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1404	腎尿管間質性疾患	18	0	1	0	0	1	0	0	0	5	0	0	1	3	4	3	0	
		44	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1	3	24	11	0	0	
C1405	慢性腎不全	7	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	
		4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	
C1406	その他の腎不全	9	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0	3	0	
		6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	0	0	
C1407	尿路結石症	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	
		3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1408	膀胱炎	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	
C1409	その他の尿路系の疾患	26	0	2	0	0	7	0	0	0	8	0	0	1	0	5	3	0	
		39	0	0	0	0	6	0	0	0	2	0	0	1	4	16	10	0	
C1410	前立腺肥大	23	0	0	0	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	1	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1411	その他の男性性器の疾患	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1412	乳房の障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1413	卵管炎及び卵巣炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		11	0	1	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1414	子宮頸部の炎症性疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1415	その他の女性骨盤臓器の炎症性疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		13	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	
C1416	子宮内膜症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		68	0	0	0	0	0	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1417	女性性器脱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		20	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C1418	卵巣、卵管及び子宮広間膜の非炎症性障	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		20	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	



コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科	
C1419	月経障害	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	7	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1420	閉経期及びその他の閉経周辺期障害	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1421	女性不妊症	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1422	その他の女性性器の疾患	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	98	0	0	0	1	95	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
C1500	妊娠、分娩及び産じょく	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	581	0	0	0	0	581	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1501	自然流産	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	16	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1502	医学的的人工流産	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	12	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1503	その他の流産	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	31	0	0	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1504	妊娠中毒症	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	19	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1505	妊娠早期の出血	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	25	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1506	前置胎盤、胎盤早期剥離及び分娩前出血	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	12	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1507	胎児、羊膜腔の母体のケア、分娩の諸問	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	171	0	0	0	0	171	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1508	早産	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1509	分娩後出血	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1510	単胎自然分娩	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	196	0	0	0	0	196	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1511	その他の妊娠及び分娩の障害及び合併症	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	92	0	0	0	0	92	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1512	産じょくに関連する合併症	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1600	周産期に発生した病態	男女	125	0	0	0	125	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	109	0	0	0	109	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1601	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	男女	32	0	0	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	28	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1602	出産外傷	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1603	周産期に特異な呼吸障害及び心血管障害	男女	17	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	14	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1604	周産期に特異な感染症	男女	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1605	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障	男女	13	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	10	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1606	その他の周産期に発生した病態	男女	60	0	0	0	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	56	0	0	0	56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1700	先天奇形、変形及び染色体異常	男女	10	0	0	0	9	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	21	0	0	1	4	13	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
C1701	二分脊椎	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1702	その他の神経系の先天奇形	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1703	心臓の先天奇形	男女	5	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	4	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1704	その他の循環器系の先天奇形	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	4	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
C1705	唇裂及び口蓋裂	男女	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1706	小腸の先天欠損、閉鎖及び狭窄	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1707	その他の消化器系の先天奇形	男女	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1708	停留精巣	男女	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1709	その他の泌尿器系の先天奇形	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1710	股関節部の先天奇形	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1711	足の先天奇形	男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

コード	疾病分類名	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	神経内科	循環器科	呼吸器科	消化器科	呼吸器外科
C1712	脊柱及び骨性胸部の先天奇形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1713	その他の筋骨格系の先天奇形及び変形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1714	その他の先天奇形	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1715	染色体異常	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1800	症状、徴候及び異常臨床、検査所見	49	0	3	0	1	31	0	0	0	1	0	0	4	3	4	2	0
C1801	腹痛及び骨盤痛	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1802	めまい	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
C1803	不明熱	5	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
C1804	頭痛	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1805	老衰	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
C1806	症状、徴候及び異常臨床、検査所見	40	0	2	0	1	26	0	0	0	1	0	0	3	2	3	2	0
C1900	損傷、中毒及びその他の外因の影響	500	0	84	3	68	10	0	298	1	3	0	0	1	8	13	7	4
C1901	頭蓋骨及び顔面骨の骨折	471	0	51	5	34	5	12	313	3	1	0	0	1	13	20	7	6
C1902	頸部、胸部及び骨盤の骨折	6	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1903	大腿骨の骨折	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1904	その他の四肢の骨折	25	0	6	0	6	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1905	多部位の骨折	29	0	1	0	4	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	1
C1906	多部位の脱臼、捻挫及びストレイン	44	0	2	0	0	0	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1907	眼球及び眼窩の損傷	111	0	0	0	0	0	0	111	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1908	頭蓋内損傷	115	0	6	0	1	0	0	108	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1909	その他の内臓の損傷	78	0	2	0	0	0	0	76	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1910	挫滅損傷及び外傷性切断	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1911	部位不明及び多部位の損傷	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1912	自然開口部からの異物侵入の作用	75	0	26	2	24	1	0	19	0	1	0	0	0	0	0	0	2
C1913	熱傷及び腐食	50	0	27	0	8	2	1	10	0	1	0	0	0	0	1	0	0
C1914	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒	3	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
C1915	薬用を主としない物質の毒作用	4	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1916	虐待症候群	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1917	その他及び詳細不明の外因の作用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C1918	外傷の早期合併症	22	0	2	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	3	6	6	0
C1919	損傷、中毒及び外因による影響の続発・後	18	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	6	6	3	0
C2100	健康状態に影響をおよぼす要因、保健	15	0	2	1	0	1	0	3	0	2	0	0	0	3	1	1	1
C2101	検査及び診査のための保健サービスの利	20	0	3	4	0	0	10	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0
C2102	無症候性HIV免疫不全ウイルス感染状態	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2103	予防接種	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2104	伝染病に関する健康障害をきたす恐れの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

コード	疾病分類名	総 数	内 科	外 科	心 臓 血 管 外 科	脳 神 経 外 科	小 児 科	産 婦 人 科	整 形 外 科	皮 膚 科	泌 尿 器 科	眼 科	耳 鼻 咽 喉 科	神 経 内 科	循 環 器 科	呼 吸 器 科	消 化 器 科	呼 吸 器 外 科		
C2105	避妊管理	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2106	分娩前スクリーニング 及び妊娠管理	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2107	生殖に関連する保健 サービスの利用者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2108	分娩後のケア及び検 査	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2109	歯の補てつ	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2110	特定の処置及び保健 ケアの保健サービス	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2111	腎透析依存	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C2112	その他の理由による 保健サービスの利用	男	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※上記コードは疾病分類表(小分類)であり、数字は退院患者数と他科へ転科した患者数を合計した数です。